

ち

ちあい (ちあひ) (血合) 【名詞】 魚を三枚におろした時身の中央に走る赤い血の多い部分。白身魚に少なく、鯉、鮓、鰯などに多い。生臭いが栄養価は高い。ちやい。えだ参照 (志 (布施田)) [会話] ○○ばあやんな (さんが) 鰯のかまや (とか) 頭のしょからすんのん (塩辛するの) に 上手で 口な (が) 離されやせん (離されない) 程、うまかりおった (美味かった)。チアイのちい (血) を絞って 入れんねやんかい (入れるのです)。それ すっと (すると) 美味しいの (のです)。チアイ言うな (のは) 骨とみいとのあいに (間に) くうろお (黒く) してあんの (あるのを) チアイ。刺身んすんのも (にするのも) 鰯は チアイな (が) よけ (沢山) 有って ほったるとこなよけある (捨ててしまう所が沢山あります)。他の魚は チアイな (が) よけねえけど (沢山ないが) 鰯はチアイな (が) よけあって チアイは ほったらせんねんな (捨ててしまいません) 皆、塩して食たんね (食べてしまうのです)。チアイ ごっそり (根こそぎ) 取っというて それを又、ぶつぎりにしというて (しておいで) 塩しというて (しておいで) 食べたんね (食べるのです) たたきん (に) したりするけど (が)。

ぢあい 【名詞】 → じあい。

ぢあらし 【名詞】 → じあらし。

ちい (血) 【名詞】 動物の体内を循環して流れる体液、脊椎動物ではヘモグロビンを含むため赤く見える。(員、三、鈴市、鈴郡、安、一、松、多、阿、張、名、度、伊、北、尾) [会話] あっかい (赤) チイかい (血ですか)。赤血 血もどろけん (まみれに) なられ (なります) 言うて、おおた (ああ) チイ吐く思い やったれ (だった) 言うやんかい (言います)。八千八声のほととぎす (時鳥) 血を吐く思いした言うて。

ぢい 【名詞】 → じい。

ぢい 【名詞】 → じい。

ちいき (地域) 【名詞】 区画された一定範囲の土地、ちいき [会話] デイキ、デイキ争い言うてなあ、ぢい (地) も一緒に デイキを あらそて (争って) 言うてな、デイキ迄 入いって来て言うてな、境まで入って来て言うのをな。

ちいさん → じいさん。

ちいそ (地磯) 【名詞】 その土地の人が自由に漁の出来る海の範囲 禁漁区などに対して自由漁業海域 (志

(布施田)) [会話] デイソ言うて わが (自分) 家の磯、和具の磯、それで けえかい (境界) え行くとなあ 越賀んのん (ののに) 寄って来て言うて、越賀の もん (者) らな (が) “そおた こや あぐの人ら こや 越賀んのおやじゃな 越賀の磯い (へ) 寄って 来とんね (来ているのだ)” 言うて ちよいと (少し) 境え (に) 行くとなあ。

ちいそお (ちいそう、ちいさう) 【形容詞】 小さく (志、安) [会話] チイソオしたれ (してやれ)。ちっそおしたれ。こまこおしたれ (小さくしてやれ) とかな。もおちよいと (少し) ちっちょおしたれ。あかる (灯火) をなあ、ちよいと かりたてると (芯を多く出すと)、そげん (そんなに) おっきいせんと (大きくせずに) もおちよいと ちっちょおしたらんかれ (小さくしなさい) 言うて。チイソオ言うのをな、へっこめとけ (ひっこめておけ) とかなあ、そげん (そんなに) かりたてたら 油煙な (が) 出てなあ言うてな。ダンプ (ランプ) をなあ、ちよいと、きつうすると (少し大きくすると) 油煙な (が) 出て来るやんない (でしょう)。そやもんで (それで) もおちよいと チイソオしとかんかれ (小さくしておきなさい) とか、へっこめとかんかれ 言うたりな。

ちいそおても (ちいそうても、ちいさうても) 小さくても (北) [会話] こげん (こんなに) チイソオオモ、かるおて (辛くて) まあ言うて。とんがらし (唐辛子)、ちっちょおても (小さくても) かるおて 言うてなあ、小さい物をな、こまかいね (小さいのだ) 言うたりな。

ちいちい 【名詞】 にいにいぜみ 枯葉蟬 蟬の一種 体長 20~25mm、羽の端迄 35mm内外、暗黄緑色の黒斑があり、新鮮なものは体全体が細かい淡黄色鮮毛で覆われる。(鳥 (菅島)) [会話] 蟬 ちっちゃあい (小さい)、ツクツク法師より ちっちゃい (小さい) 蟬な (が) 有んなあ (有ります)。あや (あれは) チイチイ言うて 鳴くんかい (鳴くのですか)。やさあしのおな (やさしいのが) こや (これは) こいな (こんな) 蟬も有んのかいなあ (有るのか) 言うよおな、蠅の 大っきい (大きい) よおなのおな (のが)。

ちいとめぐさ 【名詞】 止血に用いる野草。カタバミ、オオバコ、ヨモギ等 (志)

ぢいもん【名詞】 土地で取れた物。土地の産物

ぢいひく（血引） 先祖、父母などの性格的、身体的特質を受けつぐ、遺伝 [会話] チイヒイトンネよってん（ているのだから）。血縁の人をな、チイ ヒイトル（ている）、ちいな（血が）ついとんねよってん 言うてな。

ぢいもち【名詞】 婦人病 更年期又は女性ホルモンのバランスがくずれる事に依りおこる女性の疾病 [会話] チイモチや（だ）言うて。おなごな（女が）ぶらぶらやまいしとると（していると）あや（彼女は）チイモチで あげん（あんなに）ぶらぶらしとんね（しているのだ）言うて。

ぢいもよう（ぢいもよう、ぢいもやう）【名詞】 織物の生地模様、織り模様 [会話] デイモヨオ。模様でも、ちいな（地が）いろみな（色調が）赤や（だ）とか 紫とか、ピンクとか言うて。

ぢいやん → **じいさん**。

ぢいりんけえ【名詞】 じゃんけん（南勢地方）

ぢいろ → **じいろ**。

ちうみ（血膿）【名詞】 完全に化膿せず血液の混ざって居る膿

ちえ（知恵）【名詞】 考へ 才知の働き、すぐれた機知、工夫、やりくり 思いつき [会話] チエ チエ袋頭のチエ。賢い あんごし（馬鹿）のチエ、考へ言うよおな、チエ借してくれえ（下さい）。考へ事 心配事な（が）有っても、おらな（自分の）こや（此れは）こてんあわんわい（挺子に会わない、手に負えない）、わいとな（貴方の）チエ 借してくれえ 言う時な（が）あんなあ（有ります）。

ちえおこり【名詞】 幼児の発熱 ちえねつ参照（志（布施田））

ちえしゃ（知恵者）【名詞】 賢い人、知恵の深い人、考え方のよい人 [会話] チエシャ言うて、賢い人。なんでも よお（よく）知とる（ている）人。チエシャやなあ（だ）言うて。

ちえづく（知恵付）【自カ五】 子供が成長するにつれて 智恵が増えて来る。おとなびて来る。周囲に気配りが出来るようになる。[会話] チエヅク言うて、ちっさい（小さい）子供らな（が）なんやかや よお（いろいろよく）言うたり、知ったりして来ると、まあ だいぶ（だいぶん）チエヅイテキタなあ言うて。

ちえづける（知恵付）【他カ下一】 そばにいる人がいろいろと教へ、そそのかす。よけいな入れ知恵をする、知恵をつける、よけいな事を言う。（志（布施田））

[会話] なんやかや（いろいろ）おせるとなあ（教える）、チエヅケル。あんな（彼が）チエヅケテ おこして（よこして）まあ言うて。なんやかや 知らんよおな事言うやんない（でしょう）、そすと あや（あれは）あんなとこい（彼の所へ）じょおく（いつも）行くよって（から）あんな（彼が）チエヅケンネヤレ（るのだ）言うて、おせる（教える）言う事をなあ。賢い事だけや（で）無しに、悪い事も チエヅケテまあ、あんな（彼が）入知恵してまあ あんごし（馬鹿な）事ばっか（ばかり）言うてな あんな（彼が）そいな（そんな）考えな（が）あるかれ（有るものか）、あや（彼は）まあ あれげい（彼の家へ）行くさけん（から）あんな（彼が）チエヅケテおこすんねやれ（よこすのだ）言うて。後ろで操とんね（ているのです）。あんなれ（あんな）こげん（こんなに）言うたら、こげん言うたれ（こんなに言ってやれ）言うてな、わり（悪るい）事 おせんのかなあ（教えるのです）。

ちえって 連れて下さい。（志（畔名））[会話] 連れてて（行つて）言うのを チエツテ言うの（のです）。連れてて呉れ（ていって下さい）言うのを、チエレテ呉れえ（下さい）。俺も チエツテくれえ（一緒に）（に）、俺も チエレテええ（連れて下さい）言うてなあ。連れて呉れ チエテくれ（連れて呉れ）言うて、チエテテ（連れて行つて）くれ。ちえてこいまあ（連れて来なさい）そやれ（それ）あの子も言うて ちえて来い（つれて来い）。

ちえってきた 連れて来た

ちえってく 連れて行く

ちえってくれやせん 連れて行つてくれない

ちえってもらう 連れて行つて貰う [会話] 伊勢のお木曳さん チエツテモロタネ（貰いました）。

ちえてきた 連れて来た [会話] おんな（俺が）チエテキタんどお（のだ）言うて 連れて来た言うのを。

ちえてきてもおて。ちえてきてもろて 連れて来てもらつて [会話] 連れて来て貰らつた言うのを、チエテキテモロタ言うんなあ（のです）。連れて来て貰いました言うのを、チエテキテモロテ言うね。チエテキテモロタネ（のだ）此処い（へ）くんのん（来るのに）。

ちえてく 連れて行く（志（布施田））

ちえてくれ 連れて下さい

ちえてけ 連れて行け [用例] この子も 遊びん（に）チエテケ。

ちえてこい 連れて来い [会話] 連れて来い言うのを、
チエテコイマア言うてなあ。

ちえてて 1) 連れて行って 2) 連れて行って下さい
[会話] 1) あんな (彼が) チエテテ、こやれ あいま
ち さいて (怪我させて) 来て言うてな 連れていつ
て言うのを チエテテ。

ちえてていえ。ちえててえ。ちえててくれ。ちえててく
れえ。ちえててくれまあ。ちえててくれや。ちえてて
くれんかい。ちえててくれんかれ。連れて下さい 連
れて行って下さい

ちえねつ (知恵熱) 【名詞】 三、四才の頃迄の子供が出
す熱 ちえおこり [会話] チエネツ。子供らな (達
が) 熱 出すとなあ。知恵とちんぼ (陰茎) は 此の
世で使え言うて。子供が熱 出した時ん (に) 三つか
四つの時分 (頃) チエネツやなあ (だ) 言うて。三つ
ぐらいん (に) なる迄、一才から二才の頃やなあ (で
す)。まあ そや (それは) チエネツやれ (だ) 言う
て、よお (よく) 熱な (が) して来るやんかい (来ま
す)。なつとも (何とも) のおておって (無くて居
て) よおして来る (よくして来ます)。そやまあ (そ
れは) チエネツやれ (だ) 言うて、風邪も引いとらへ
ん (引いて居ない) のに。

ちえれて 1) 連れて ちえって参照 2) 連れて下さ
い

ちえれてく 連れて行く

ちえれてくれ 連れて下さい ちえって参照

ちえれえてて 連れて行った、連れて行った

ちえれててえ 連れて下さい、ちえって参照

チエン 【名詞】 鎖、特に金属製の物 (志 (立神、安
乗))

ちがい (ちがひ) (違い) 【名詞】 1) 期待と違って居る
事 2) 比較してみての相違。へだたり 3) 間違い
[会話] 1) 違うのを、チガイ。そやちごとられ (それ
は違って居る) 言うてなあ、間違とと (て居ると)
そや ちごとられ “ま” を付けんと (ずに) ちごとら
れ言うの (のです)。間違いや言や (と云えば) ええ
んけど (よいけれども) そや ちごとられ言うてなあ
(言います)。

ちがい (ちがひ) (稚貝) 【名詞】 1) 稚貝 あこや貝の
幼い物 2) 最近では放流する鮑についても言う

ちがいだな (ちがひだな) (違棚) 【名詞】 段落のある棚
茶道具などを乗せる棚。[会話] チガイダナ。萩のチ
ガイダナ言うけど (言いますが)。だんちん (段違い
に) なつとんのおを (なつて居るのを) 言うなあ (言

います)。チガイダナ 付けてくれ (下さい) 言うな
あ。きい (木) で あつう (厚く) したのおなあ
(のを)、だんちん してあんのを (有るのを) チガイ
ダナ言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

ちがうもん 1) 違う物、異なる物 2) 違います、間
違っています [会話] 2) 違う、こや (これは) 違う
やんか (でないか) とか、チガウモン言うて。そいな
(そんな) 事 チガウモン言うて。

ちがうやろ 違うだろう

ちがうわい 違います

ちがうんか。ちがうんかい。ちがうんかな 違うのです
か (安) [会話] こや (これは) チガウンカイ言うて、
これと チガウンカイ言うて、それよき (より) ちが
われ (違う) 言うてなあ。

ちがうんやれ 違うのだ 違います

ちがえ (違) 【名詞】 1) 間違い 2) 比較してみての
相違、ちがい 3) 交差させる事 している事 [会
話] 2) どいらい (大変)、うんでんばんでんやなあ
(違いだ) 言うの (のです)。チガエ。がいな (大
変) チガエやなあ (だ) 言うて、揃ろわせん (ない)
のをな、チガエな (が) あんなあ (有る) 言うて。大
小チガエな (が) 有るやんかあ (でないか) こや (こ
れは) 言うたり、色合な (が) 違うやんか 言うたり
な、そろとらん (揃っていない) 事をなあ。

ちがえる (ちがへる) 【他ア下一】 1) 間違える 2)
交換する 3) 交互に重なる

ちかく (近) 【名詞】 近い所で有る事を言う (鳥 (国
崎))

ちかし (近) (親) 【形容詞】 親しい 親密である 仲が
よい (志 (布施田)) [会話] チカシしとんね (して
いるのだ) 言うて、親しくしとる (している) 言う事
を、どいらい (大変) チカシしとんね 言うてな。

ちかしなか。ちかしひと 【名詞】 親しい間柄 友達 親
しい人 ちかづき参照

ちがため (地固) 【名詞】 1) 家を立てたり、物を作っ
たりする時土地をつき固めて、底の部を丈夫にすると
共に平らにすること。2) 多人数が集まってあらかじ
め相談する事 [会話] 2) デガタメも せんと (せす
に) おる言うてなあ。デガタメに よさや (夜は) 一
杯やろやんかあ (やりましょう) とか言うてなあ。さ
いめん (詳しい所) を、えごつと (完全に) したりな
あ、設計すんのを (するのを) えごつと せんとおる
となあ、今日はみんな (皆) 寄ったら デガタメしよ
おやんか (しましょう) 言うて 相談しよおや (しま

しょう) 言う事をな。チガタメしよおやんかあ 言うて。¹⁾ どおづき 突くのも チガタメ。昔や (は) コンクリ言うのな (が) 無いもんでなあ (ので) チガタメ。どおづき言うて どづき (地搦き) 言うて、ぐり石 言うて、おつきい (大きい) 石を よつけ (沢山) 入れといて (ておいて) それを 突つき込むんやんかい (のです)、コンクリしたよん (したように) なるよん (ように) どすん、どすん言うてなあ。

ちかちか【副詞】 1) 刺すような痛み 2) 光が強く眼を刺激するさま [会話] ¹⁾ チカチカトまあ はしかいわれ (です) とか チカチカとやめる (痛む) とか。²⁾ めえな (目が) チカチカするとかなあ めえな (目が) ちょいちょい (少し) やめて (痛んで) 来ると めえな (目が) チカチカするよお (します)。

ちかちか (近近)【名詞】 時間的に多くへだたらない様、未来のごく近い時間をさして言う 近いうち そのうち [会話] チカチカ あんな (彼が) 来る言うておこしとるよってん (よこしているから)、掃除もしとかな (しておかなければ) はざんわれてな (駄目だとか言うような) 事言うてな。近いうちに来る言う報せな (が) 有ると、チカチカん (に) あれも (彼も) 来るよおなよってん (だから)、そこらも えごと (十分に) 掃除もしたり、直すとこ (所) も 直おしたり、しとかななあ (しておかなければ) 言うてなあ。

ちかづき (近付)【名詞】 親しくなる。親しい人。(津) [会話] 親し (親しい) 人でも、ちかし人 (親しい人) 言うやんかい (言います)。したし人 したし仲やなあ (です) 言うて。チカヅキのしるし (証) に、此れ一つ言うて 盃な (を) 一杯しといて (しておいて) きょおだい (兄弟) チカヅキの 固ために 一杯受けてくれ (下さい) 言うて する時も有るしなあ (有ります)。ちかしなか、親しい人言う事やけど (ですが) そやけど (それだが) 色々と言い方有るけどなあ (有ります)。

ちがね (地金)【名詞】 → じがね。

ちかば (近場)【名詞】 近い所 近所

ちかまあり。ちかまわり (ちかまはり) (近回)【名詞】 近道を通って行く事 [会話] 近道 おや (私は) チカマアリ行くわ (行きます) 言うね (言うのです)。抜け道 する事を チカマアリして これから行くわ 言うて。

ちかみち (近道)【名詞】 目的地までの距離の短い道 抜け道 [会話] チカミチ してこやんかあ (して行きましょう) 言うてな、抜け道 してこや (行きましょう)

う) 言うてな、その とこ (所) へ行くのに、近い道が有ると。

ちかめ (近目)【名詞】 近視 目の屈折異常の一種で外界からの平行光線が網膜の前方で結像する状態。近くの物は見えるが遠くの物が見えぬくい状態。

ちかよく (近欲) ちかよく 目先の小利に引かれる事 (志 (布施田)、南、熊) [会話] チカヨクな (だ) 言うの (のです)。チカヨク言うな (のは)、なんでもかんでも (何も彼も) 欲してなあ (欲しくて)、そこらん (に) 有るもん (物) でも、要るもん (物) でも、要らんもん (いらぬ物) でも 欲する事なあ (です)。あやまあ (彼は) チカヨクで なんでも欲しねよってん (欲しいのだから) 言うて。

ちかよんな 近づくな 近くに寄るでない ちかよんな [会話] その にげ (人間) を 危険人物と見て、あんまり (あまり) チカヨクナよお そいな (そんな) にげん (人間に) 言うて。

ちから (力)【名詞】 1) 支える 力になる 2) 経済力 3) 気持ち 張り合い ちから落した [会話] ¹⁾ 弱つとんね (て居ます)、チカラん (に) なつてくれ (下さい) 言うな (言うのは)、なにか (なにか) 頼む時ん (に) 金が無い時でも言うし、そして又 人と争い事した時でも、まあ おらの (私の) こてんあわんわい (手におえません) チカラん (に) なつてくれえ (下さい) 言う時も有るしなあ (有ります)。チカラ 借してくれまあ (下さい) 言うて よお言うやんかい (よく言います)。

ちからおとし (力落)【名詞】 落胆 [会話] 葬式の時ん (に) 悔みん (に) 行くと、なぐさめの言葉で、チカラオトシやなあ (ですな) ひまのかああいてなあ (大変ですな) 言うてなあ。

ちからづく (力付)【自カ五】 元気になる。

ちからづく【名詞】 力にまかせて

ちからづける (力付)【他カ下一】 元気の出るように励ます 元気づける 援助する

ちからひまち (力日待)【名詞】 病人などが力づくように、三日間参籠すること 信心日待 (志 (布施田)) [会話] 医者に 見放されるよおな 病氣するやんない (でしょう)、そすと (すると) チカラヒマチや言うて 観音さんへ信心して (参籠して)。

ちがわせん 間違いない

ちがわら 違います。間違ってます [会話] 違う言うのをな、そや (それは) チガワラ言うのを、ちやうわ (違います) 言うの。

ちがわれ 違います 間違っています [会話] そや
(それは) チガワレ、そおやねえわれ (そうで有りません) 言うて。違がはせんと (ないと) そおやれ言う
ね (そうだ言います)。

ちきしゃあ。ちきしょお (ちきしゃう) 【名詞】 畜生動物。チクシャウ (畜生) の転 (大言海) [会話] 畜生言うんな (言います)。どちくしょおよ (奴) 言うてな、男の人な (が) 怒って来ると チキシヤア言う人もおんなあ (居ます)。

ちきよおだい (ちきょうだい、ちきやうだい) (乳兄弟) 【名詞】 同一の母乳で育った他人同志 ちちきよおだい 参照

ちぎりやい 奪い合い

ちぎる (千切る) 【他ラ五】 1) 手先で細かく切つてばらばらにする。2) 無理にねじって切り取る。もぎとる。(志 鳥、南、熊) 3) 押し出して出て来る [会話] 3) なんでも いれもん ひとつても (容器入っていても) 押し出すと ちぎり 出して来たれ言うて。2) なりもん (なり物) なつとんの (て居るのを) もじく (もぐ) 言うたり、チギル言うたり。そや (それ) まあ チギレマア (ちぎりなさい)、1) 餅も こんしてすんの (こんなにするの、小さくするのを)、こもちとんのを (小餅取るのを) チギレマア言うて。餅、取れ言う人も有るし チギレマア言う人な (が) 有るし、もじくとか チギルとか、一緒の意味やけど (だが)。柿な (が) なつとられ (なつて居る) もじいて来い言うもん (者) 有るし、チギッテコイ言うもん も有るし、とてこい (取つて来い) 言うもん も 有るけどなあ (有るけれど)。そやけど、おおかた (しかし大略) チギル言う。チギレマア言うて。餅 チギル言う時は 一臼、搗いて 小餅とんの (小さな餅取るの) こまこお (細かく) するやんない (でしょう) その時ん (に) チギレ言う人も有るし、餅 取れ言う人も有るしなあ (有ります)。鏡餅言うてなあ ひとくぼの (一臼のを) そんなり (そのまま) ふたあつん (二つに) でも切つて おつきい延べんのおを (大きく延べるのを) 鏡餅言うし (言います)。そして 小餅んのおは (ののは) チギッテ ころばかすのな (転ばす、丸めるのが) 小餅。紙やきれ (布) でも チギル、紙でも チギル言うし、ちぎつておこせまあ (よこしなさい)、きれぎれん (に) したとか、ちぎれちぎれん (に) したとか言うてなあ ちぎれちぎれん (に) してまあ言う (言います)。

ちぎれちぎれ 【形容詞】 細かく切り離れたさま ちぎる

参照 [会話] きれぎれん (に) したとか、チギレチギレん (に) したとか。

ちくさい (血臭) 【形容詞】 血の臭いがする

ちくしょ 【名詞】 畜生 獣 相手を卑しめる言葉 末尾母音の省略 (三、鈴市、伊) [会話] ドチクショ言うてわり (悪い) 事するとなあ、にげみたよな (人間のよな) 事しやせんと (しないと)、ドチクシオヨ言うてなあ。ちきしょおは、親の見とる とこやろと (所であろうと) なんやろと (なにであろうと)、さかつたり (性交したり) するやんない (でしょう)、そやよつて (だから) なんでも わり 事を すんな (するのは) チクショみたよな (のようだ) 言うやんない (でしょう)。わり事すると あや (彼は) チクショみたよな にげやれ (人間だ) 言うて 動物 言う事。

ちくしょおばら (ちくしょうばら、ちくしょうばら)

(畜生腹) 【名詞】 1) 多胎妊娠 一度に双生児以上の子供を産む事、獣類は一回の分娩で双子以上を生む事から (員) 2) 毎年の出産 [会話] 2) チクショウバラ言うな (のは) 毎年なあ、腹い (に) こお (子) 孕むとなあ、あや (あれば) チクショオバラやなあ (だ) 言うて。にげ (人間) は、一年つ あい (間隔) おけるやんない (置くでしょう)、そすと (すると) まあ、年に 二つも孕むと あや (あれば) チクショオバラや (だ) 言うて。1) 双子や三つ子もおけるのも (産むのも) そおやろんなあ (でしょう)。

ちくちく 【副詞】 1) 先の尖った物などで小さきみに繰り返して刺すさま。2) 皮肉を言う事。[会話] 1) 刺されたや (ら) チクチクやめて (痛んで) 言うて。はつちん (蜂に) 刺されて、むがじん (むかでに) 食いつかれて、チクチクやめてなあ言うて。なんか (何か) こお 針で刺すよおなのおを (のを) チクチク、言うやんかなあ (言うのです)。2) あんな (彼が) まあ、チクチクと いやらし (嫌らしい) 事ばっか (ばかり) 言うて。皮肉みたよな (のような) 事言うと、やいと (灸) 据えるよおな事言うてなあ。嫌味ばっか (ばかり) 言うとる (言っている) にげな有んなあ (人間が有ります)。ほんとん (本当に) 一言 言う事な (が) なんか (なにか) 好かん事ばっか (ばかり) 言うとる人な (が) おる (居ます)。

ちくてん。ちくでん (逐電) 【名詞】 ちくてん、逃げ去って行方をくらます事、逃亡、失踪 [会話] 姿も見せやせんない (見せない)、チクデンしてて (していつて) 言うて。何処やかやい (へ) 行ききつたると

(行ってしまうと)、行ききって(てしまつて)姿、見せやせんない 言うて。

ちくてんまいり【**名詞**】驚く [会話] チクテンマイリとか、ちゅうてんまいりしたよお (しました) とか言うて、おどけて (驚いて) びっくりした時。

ちぐはぐ 対になるべき物が揃って居ない事、物事が食い違つて居る事、又そのさま (志 (布施田、鶴方)、鳥) [会話] チグハグやなあ (だ) 言うの (言います)、だんちん (段違いに) なっとんのを (なつて居るのを) チグハグやなあ言うて、揃わせんのをなあ (揃わないのを)。えごと (充分に、正確に) 揃えまあ (揃えなさい)、チグハグん (に) なつとるやんかあ (なつて居るでないか) 言うて。

ちくび (乳首)【**名詞**】1) 赤ん坊にしゃぶらせておく乳形のもの。2) 乳房の先のつき出た所 [会話] 2) チクビな (が) いとおて (痛くて) 言うてな、はあ (歯) で くいぎる (食い切る) こおな (子が) 有つて、チクビな (が) ぼたつとおつてくよん (落ちて行くように) なる迄 おおた いとおてよかるか (痛くてよいものか) 言うても、飲ましてするけどな (しますが)。1) 親のチクビやなしん (でなくて) 子供がゴムみたよなの (のようなのを) 吸うとて (吸っていて)。

ちげ (鉤筈)【**名詞**】1) 漁師が漁に出る時、携行する手箱 海ちげ、沖箱 つげ (志 (布施田、志島、鶴方)、鳥、度、北 (須賀利)、尾、熊) 2) 子供を背負う道具 [会話] 2) 背中い (へ) おいねんのも (背負うのもの) チゲ言うし (言います)。今しも (今も) 仙台の方い (へ) 行くと チゲこおて来てくれ (買って来て下さい) 言うて 仙台行く人らん (に) 頼む (頼みます)、背中へ負いねんのを チゲや (だ) 言う (言います)。1) 漁師な (が) 沖い (へ) もてく (持っていく) 道具入れ、あれも チゲや (と) 言うなあ (言います)。なんやかや (色々) 道具入れんのな あ (入れるのを)。釣り箱みたよんしとんの (のようにして居ます)。チゲい (へ) 入れとけ (ておけ) 言うてなあ、昔や (は) 釣り箱や (と) 言よおったけど (言ったが)。四角なお (の)で、蓋な (が) 付いてうちおいん (に) なつとんの (て居るのです)、道具入れよおった (入れて居た)、今しや (今は) チゲや (と) 言うなあ (言います)。てぐすやとか (だとか) つり (釣針) とか こさこさ (こまごま) したもん (物) 入れんの (入れるのを) 釣り箱や (だ) 言うてなあ。四角なおは (のは) しよおったわい (して

居ました)、じゅうぶたん (重ね蓋) になって、ひぼ (紐) 付けて たま (綱) の柄、差して にのて (担つて) 浜い出てきおった (出て行きました)。今しや そいな (今はそんなのを) チゲや (と) 言うなあ (言います)、釣り箱や言わせん (言いません)。

ちげ【**名詞**】貝 いがい、イガイ科、殻は質厚く、殻色は黒味が強い、美味で食用になる。いのかい、にたりがい。[会話] にたりがい言うて チゲ。

ぢけつ → **じけつ**。

ちこい【**形容詞**】小さい、容積、面積、身長などが占める場所が僅かで有る。規模がわずかで有る。勢力が弱い。数量が少ない。年令が少ない。幼い。ちっこい、ちっちゃい。(志摩市全域、鈴市、亀、伊、北、南、熊)

ちごお 違う (志、三、四、鈴市、一、多、伊、北、南)

ちこおて (ちかうて) 1) 近くて (四) 2) 時間を置かなくて 頻繁に はげしく (しょんべなチコオテ)

ちごおて 間違つて

ちこおても (ちかうても) 近くても (尾)

ちごおても 間違つても

ぢごく (じごく) (地獄)【**名詞**】→ **じごく**

ちごた 1) 間違つた (鈴市、安、松、多、上、阿、張、名、伊、尾、南、熊) 2) 変な [会話] 1) こや (これは) チゴタやんかい (でないか)、ちごとるやんかい (違っているでないか) 言うて、おつと マチゴタ言うてな、間違う言うのを チゴタ言うてな。ま、付けんと (ずに) チゴタレ まあ こや (これは) 言うてなあ。

ちこて 近くて

ちごて 違つて 間違つて (志、三、鈴市、一、松、伊、北、南) [会話] チゴテ これ出したた (てやった) とかなあ。チゴテ もて来たんよお (持って来ました) 言うたりな、間違えて言う事をなあ、チゴテ言うね (言うのです)。こや (これは) あの家んねのん (ののだのに) チゴテ もて来たんよお (のだ) 言うて、わが (自分の) 家んのや (ののだ) おもて (思つて) チゴテ もて 来たんよお 言うて。

ちこても 近くても (北)

ちごても 違つても

ちごとても 間違つていても (志) [会話] チゴトテモ ええわれ (よろしい)、こんで (これで) まにあわしとけ (ておけ) 言う時も有るしなあ。のおな (お前が) 言う事 チゴトルやんかあ (違っているでない

か) 言うても チゴトテモ、だんねえわれ (かまわな
い)、チゴトたてて (ていても) だいじかれ (大事な
い) 言うてな。

ちごとられ 間違っ居るぞ、変わっ居るぞ [会話]
チゴトラレ そや (それは) 言うて、こや (これは)
チゴトラレ、間違えとるとか (ていとか) かわつと
る (変わっている) とか言うのを、チゴトラレ言うね
(言うのです)。

ちごとる 違っ居る (桑郡、一) [会話] あれかい
(あれですか) 言うて、そや (それは) チゴトル、そ
れや ないやんかい (ありません) 此れやんかい
(です)。

ちこんき 【名詞】蓄音機 (志 (鶴方、神明、立神、志島、
甲賀、国府、安乗)) [会話] 蓄音機 言わんと (言
わずに) チコンキ言う人な (が) 有るなあ、年寄りの
人らな (が) えごと (完全に) よお言わん (言えな
い) 人らな (が) なあ。

ちさい 【名詞】出産の時に、親族 知己から 米三合に
大豆又は小豆三粒を添え、重箱に入れて 持つて行く
致斉 しさい、しそい (志 (布施田、志島、甲 賀、
国府、安乗)) [会話] チサイ言うな (のは) こおも
おけた (子産んだ) おりんなあ (折、時に)、チサイ
言うの (言うのです)。シサイ言うねんなあ (言うの
です)。ほんと (本当) の言葉で言う、シサイや
(と) 言うねわな (言うのです)。米をおびや (産
後) の足しになあ 一ヶ月でも、二ヶ月でも 昔や
(は) 別ん (に) 炊いて おびやど (産婦) は、喰わ
しよおったね (食べさせて居たのです)。今しゃ (今
は) みんな (皆) 米の飯やよって (だから) 一緒ん
(に) 喰うけど (食べますが)。昔や それ 芋や麦
やもんで (なので) おびやどにや (産婦には) ういご
どけや (初子など) ふたあ月 (二ヶ月) 位 別に炊い
て喰やおったもんで (食べて居たので)、シソイに重
箱一杯つ 皆 親戚からもてきよおったね (持つて来
て居たのです)、米を。それを シソイ言うのを チ
サイや (だ) 言うて、シサイも やらんとおんね (や
らずに居るのだ) 言よおったわい (言っていました)。
丁寧なかつたねわい (でした)、昔や。米やどきや
(などは) 無いもん (有りません)、昔や (は) シサ
イ はんだあら (半俵) もろたてら (貰ったとか) 言
よおったわい 親戚な (が) ひろい (多い) 家や
(は)。みんなな (皆が) 重箱ん (に) 一杯つ (づ
つ) おぶぎ (うぶぎ 初着) と、チサイと 持て来て
くれよおったね (呉れて居たのです)。そすと 別に

置いとくと (ておくと) こや (これ) はんだら (半
俵) も チサイもろた (貰った) 言うて 言よおった
わい。そやよって (だから) おびやだ (産婦は) えん
りよせんと (遠慮せずに) くやええど (喰えばよろし
い) 言うて、子供産んだ時やなきや (でなければ) 米
の御飯 食べられらつたの (なかつたのです)。

ちさい (小) 【形容詞】 1) 空間に占める体積 容積
面積 身長などが小形である。(員、鈴市、一、上、
阿、張、名、伊、北、南、熊) 2) 年令が少ない 幼
い

ぢさき (地先) 【名詞】 → **じさき** 1) 地先水面の略
ある地区に接する前面の海面その地区を管轄する公共
団体 (漁業組合等) が管理権を有し、その地区の者が
漁を行なう事が出来る。(志 (布施田)) 2) 土地の境
界

ぢしばや (じしばや) 【名詞】 → **じしばや**

ちしゃ 【名詞】紫蘇 (志 (神明、甲賀)、安、上、張、
島)

ちしょ 【名詞】紫蘇 (三)

ぢしんなよる 地震が発生する。地震で揺れる。[会話]
ヂシンナヨッテ来た言うて、言よおったなあ (言っ
ていました)。地震な (が) ヨッテキタや (ら) 何処い
(へ) 拾いん (に) いくんど (行くのだ) 言うてなあ、
揺る言うのを よる言うて なんか (何か) 寄って来
るよおな (ようです) 浜へなあ。

ちずかく (ちづかく) 寝小便をする (上、阿) [会話]
敷布団え、しょんべたれて (小便して) 干すとなあ、
あやれま (あれあれ) チズカイとられ (ている) 言う
てな。しょんべ布団 干すとさいご (その時) しみて
なあ しとんのおでなあ (しているの) チズカイタ
よんしとてなあ (ようにして) あやれ (あれ) チ
ズカイとられ まあ言うて。

ちすじ (ちすぢ) (血筋) 【名詞】血統 家系 先祖代々
親から子へ続いた血のつながり (志 (鶴方、畔名、片
田、浜島)、鳥 (坂手、相差、答志)、員、阿、張、度、
南) [会話] チスジ言や (へば) その家の血統の事な
あ (です)、あやまあ (彼は) チスジなわりねよって
(悪いのだから) 言うて 血統のわり事をなあ。ハン
セン病で 竹でつりもんすんな (吊物、担う事する
な) 言うて、その血統貰うよって (から) 竹で吊りも
んすんな 言うけど (が)。チスジ言うのも すいき
やとか (だとか) 血統も、一緒やなあ (です)。言い
方な違うだけで。

ちすじ (乳筋) 【名詞】乳の分泌される道 乳腺

ちすじとまる 乳が出なくなる 乳腺炎をおこす [会話] チスジナトマル、そのぐあい (調子) のわりのなあ (悪いのです)、なっともしよない (なんとも仕方がない) 程、その乳なあ (が)、しゃあしゃあでんのと (出るのと)、でやんのなあ (出ないのが)、一筋 有るとなあ、まっかん (真っ赤に) なって来てなあ でやん のだけ。白朝顔、もおどいて (揉んでおいて) 塩で そして付けるとなあ、そのちすじな (が) あいてくんね (開いて来るのです)。その白朝顔も 夏なら あさがあ (朝顔は) 白いな (のは) 幾らでも咲けど (が) 冬にや (には) 無い時も有るし、ほんどん (本当に) ぐあいな (調子が) わりいて よわるね (悪くて弱るのです・困ります)。藁のひごを通す事もあんね (有るのです) 藁のひご とおしても おてなあ (もらって)、そんで (それで) よお (よく) なる事もあんね (有るのです)。チスジナトマルは 自然に止まる時なあ (です)。

ちすじとめる 乳が出なくする 乳腺炎がおこる [会話] とまる言うのも、トメル言うのも、一緒の事や (です)。とまるは 自然にとまる、トメルは乳をなあ、寝とる (ている) 時ん (に) 下い (へ) しいたる (敷いてやる) 時な (が) 有ると、そいな (そんな) 時ん (に) あんで (あれで) つまってくんやるなあ (詰まって行くのでしょうか)。乳 しいたて (敷いてしまつて) 言うて よお言よおった (よく言っていました) チスジトメタテ (てしまつて) 言うて。

ちすじなとまった 乳が出なくなった 乳腺炎を起こした

ちすじひく 1) 親、先祖の性格、体形を引き継ぐ。遺伝される。2) 同じ系統である。血縁関係に有る。[会話] 1) あれも (彼も) まあ、あの家の チスジヒイトルよってん (ているから) 手くせな (が) わりわれ (悪いのだ) とか、チスジヒイトルよって 皆 賢いわれ、あの家の子ら言うたりなあ。遺伝するとか、2) も一つは、親戚かんけえやなあ (関係です) 言うのをなあ、そして、かたわしのな (不具の者が) 出来る、あの家や (は) ちすじやなあ (だ) 言うて、チイ (血) ヒイトル (ている) あの家や (は) 血統やなあ (だ)。あの家や (は) あの家と、関係しとるよって んなあ (しているのだから) 言うて 血統を言うて来る時な (が) あんなあ (有ります)。

ぢすり 【名詞】畑の畝などを壊して、一面平らにしてやる。一面に平地になること。[会話] ゼスリ言うな (のは) 畝な (が) 無いよん (ように) ベたベたんし

たんの (にしてやるのを) ゼスリんしたた (にしてしまった) 言うて。たつかいとこな (高い所が) 無しん (に) ぢい (地面) と同じよんしたんの (ようにしてやるのを)。無いよんしたんの 踏んで ゼスリん (に) して言うて。

ちすんばこ 【名詞】婦人病 更年期障害など、不定の訴えを生ずる病気

ちそ 【名詞】しその訛 紫蘇、しそ科の一年草、全草に芳香あり、食用となる、高さ一米位、茎は枝をよく分け葉がよく茂る。葉は紫色で 6~10cmの卵形、鋭い、鋸歯が有り、側脈が多くやゝ縮み質は薄く、しおれやすい長い柄が有って対生する。(志 (御座、片田、布施田、浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥、三、鈴市、松、多、上、阿、張、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] しその事を チソ言うのなあ (言います)。梅漬け (梅干し) で、チソや (です)。それから大葉の事を アオヂソ言うしなあ (言います)。

ぢぞおぬれ 【名詞】→ じぞおぬれ。

ちそなる 小さくなる。しよげる。遠慮する。かしこまる。[会話] チソナル言う (言います)。あやあれま あ (あれ) 腰な (が) かごで (屈んで) ちつちよなつて たれ (行つた)。年な (が) 寄ると チソナツテク (て行く) もんやなあ (です) 言うて 言うなあ (言います)。チソナツタレ (行つた) とか、ちつちよおとか、ちつちやいとか なんやかや (色々) 物も乾いてたや (たら) ちつちよおなつて たれ 言うて、きんこ (芋の煮切干しでも) でも。ちつそなつて た 小さくなつた 言う事やけどなあ (ですが)。ほして (そうして)、こやほんどん (此わ本当に) ちつちやいなあ言うて 小さい言わんと (言わずに) ちつちやいなあ (です)。

ちち 【名詞】1) 牛乳 (上、阿) 2) タンポポ、芋の茎などから分泌される白い液体 3) 小さくて丸い物 4) 羽織の紐をつける所 [会話] 1) 牛乳の事、チチ飲め言うて。3) そして なんやかや ちぼ (小さなもの) つけんのも (つけるのも) あれい (あれに) チチ、付けとかな (ておかなければ) はざんわれ (いけない) 言うて、小さい丸い物 皆 チチ。チチ、付けとけよお (ておきなさい) 言うてな。2) チチ言うと、牛乳もあるし、芋のチチも有るし、たんぼほのチチも茎、切つたとなあ (てやると)、しいろおい (白い) チチな (が) 出てくんの (来るのです)。

ぢぢ 【名詞】海魚 ひおどし ふかかさご しょおやん ばば参照

ちちうし (乳牛) 【名詞】 飲料や乳製品の原料となる乳をしばり取るため飼う牛。(志 (片田)、桑市、津、阿、度) [会話] チチウシ、言うな (のは)、まあ 乳ばつか (ばかり)、搾んねやかなあ (るのでしょうか)。同じ雌牛でも 乳な (が) よお出んのと (よく出ると)、出やんのと (出ないのと)、あんのかいなあ (有るのでしょうか)。有るやろ (でしょう)、にげ (人間) でも 乳な (が) なんも出やん (少しも出ない) にげな有るもんなあ (人間が有るから) ごんぼ (牛蒡) の種を 飲ますと 乳な (が) よけ (沢山) 出る言うけど (が)、飲まし (せ) ても いっすい (一水、少し) も出やんにげな (出ない人間が) あんねてや (有るのです)。ちちな (が) よけ (沢山) 出る にげや (人間は)、よれでよれで (沢山で) ほる (すて) る程 出るにげな (人間が) あんね (有るのです)。下い ほると (すてると)、踏むとこ (所へ) すると はざん (いけない) 言うて、搾って 壁い (に) しょ おったんなあ (して居たのです)。

ちちかた (父方) 【名詞】 父の血統に属する人、ててかた

ちちかまる (縮) 【自ラ五】 ちちんだ状態になる、ちぢかむ、ちぢこまる参照 [会話] ちちこんでた (かんでいった)、チヂカマツタよお (でて、いった) 言うて。さぶうてさぶうて (寒くて) しょな (仕方が) ないの (のを) チヂカンデタ言うたり、チヂコンデタ言うたり。おおた てえ (手) も はじこで 言うて、す ぼげられやせん のなあ (つぼめられないのです)、冷めたいと はじこで た言うて。磯いてもなあ、はな (始めの) のじぶんなあ (頃になあ)、てえな ひれて言うね (言うのです) てえな (手が) しびれとて (しびれていて) 覚えな (が) 無い時な (が) あんね てや (有るのです) てえな ひれたよお 言うて、しび れてくね (て行くのです)。

ちぢかむ (ちぢかむ) (縮) 【自マ五】 寒気 緊張などのため 身体や手足の指先などが縮んで麻痺し、動作が不活発になる。小さく縮む (志 (鶴方)、鳥、上、阿) [会話] さぶうて (寒くて) まあ ちちこ だよお言うてな。さぶうて ちच्चよおなんのを (小さくなるのを) チヂカム よおなよお (ようだよ) 言うてな。きれ (布) でも、あろたると (洗ってやると) チヂカンデテ (縮んで行って) ものん (に) ならんのお な (ならないのが) 有ってなあ。おおた あろたたや (洗ったら) チヂカンデタよお (で行った) 言うて、人絹やどけやなあ (などわ) あろたると ちよおいと

ん 少しになつてく (なつて行く) 時な (が) あよお った (有りました)。

ちぢかめる 【他マ下】 短かくしたり、小さくしたりする。縮少する。[会話] ちっそお (小さく) する言うな (のは) チヂカメル。みじこおしとけ (短かくしておけ) 言うのな、なあがいの おを (長いのを) みじこおしたる (短かくしてやる) のを チヂコメトケ。そや (それ) まあおつきい やんか (大きいでないか)、チヂカメトケ言うて。おつきか ったり (大きかったり) なあが かったりすんのを (長かったりするのを) ちいそお する事をなあ チヂカメル言うの (のです)。

ちちきよおだい (乳兄弟) 【名詞】 肉身の兄弟でないが同じ人の乳で育てられた人同士。[会話] 乳、飲ましてくれ (下さい) 言うて 頼まれて、よけ (沢山) 出る人な (が) わがとの (自分の) 乳、飲ます人な (が) 有るやんかい (有ります)。よそのこおん (子供に) そいな (そんなのを) チチキョオダイ言うん やろな (言うのでしょうか)、うなし (同じ) 乳で育てんのをな (るのを)。チチキョオダイやよってん (だから) 仲よおせな (よくしなければ) 言うてな 乳、もろて (貰らつて) 飲むと。

ちちくさい (乳臭) 【形容詞】 乳の臭いがする 未熟である 子供っぽい [会話] チチクソオテ (臭くて) まあ言うてな、赤子のときや (時わ) 言うし。そして にげ (人間) でも おぶこいな なあ (子供のようなのを)、チチクサイ男や なあ (だ) 言うて、おなご (女) でも、おぶこい ねなあ (子供じみて居る)、あや (彼女は) チチクサイね (のだ) まだ言うてな、わ かごくさいのおを (若子臭い、幼いのを)。

ちちくりやい (ちちくりあい、ちちくりあひ) (乳繰合)

【自ラ五】男女が密会してたわむれる。ひそかに情を交す。(志 (浜島)、桑市) [会話] チチクリヤイしとられ (あいして居る) よお 言うなあ (よく言います)。若いし (若衆) らな (が)、彼氏と彼女 ちよおけと ると (ふざけて居ると) あやれまあ チチクリヨトラレ (くりあって居る) 言うて。そやよ って (だから) 雀やど けも (なども)、ほろろ 打つと (羽ばたくと) あやれ 雀な (が) チチクットラレ言うて。

ちちくりやう (ちちくりあう、ちちくりあふ) 【自ワ

五】 男女が戯れる ひそかに情を交わす

ちちくる 男女が密会する (志)

ちぢくれる (縮) 【自ラ下】 ちぢれて居る ちぢんで居る [会話] チヂクレル言うな (のは) ちぢか んで

く（で行く）言う事やろ（でしょう）、髪のけえな（毛が）チヂクレル。ちぢこがみ、ちぢかんどる（でいる）事を言うねんなあ（言うのです）、ちりちりしとるとなあ（していると）。

ちぢける（縮）【自力下一】 いじけて小さくなる。縮まる。意気地なくなる。

ちぢこがみ【名詞】 生まれつき髪の毛が縮んで居る髪縮れ毛 [会話] 天然になあ ぎりぎり巻いとんの（ているのを）頭の髪な（が）。今しゃ（今は）パーマですやんない（でしょう）。こや（これは）天然でなあ 頭な（が）チヂコガミで言うてなあ。チヂコガミの にげな（人間が）有るもんやてや（有るものです）今しゃ（今は）チヂコガミの人も わからへんね（判らないのです）。昔や（は）みとみなかよ、おったんやろなあ（見苦しかって居たのでしょうか）、チヂコガミのにげや（人間は）。

ちぢこまる（縮）【自ラ五】 体を丸めて小さくなる。かがむ。しゃがむ。うずくまる。縮まる 小さくなる ちぢかまるの転（志（立神）、北）[会話] さぶうて（寒くて）チヂコマル言うて、さぶい（寒い）時や（は）おおた（あー）さぶうて チヂコンデタヨオ、震るたよおとか 震い込んどるてやら（で居るとか）。さぶい時や（は）ちっちゃお（小さく）なっとる（て居る）のを、チヂコマル 言う（言います）。

ちぢこむ 小さくなる。短くなる。縮む。（志（鶴方、神明、立神、国府、安乗））[会話] ちっそお（小さく）する言うな（のは）縮む、縮かめる、チヂコムとか 縮かんでた（縮んで行った）とか言うて。ちぢこめとけ（ておけ）、ちぢこんどらな（で居なければ）頭 打つど（ぞ）言うて、かがめとれ（ておれ）言うのをなあ、ひつくいとこ（低い所）入いる時んなあ（に）。

ちぢこめる（縮）【他マ下一】 体を丸めたりして小さくする。縮める。[会話] ちっさい（小さく）する、なっとれ（ておれ）言う事をなあ、チヂコメル言うて。

ちぢこんでた 小さくなって行った。萎縮して行った。[会話] チヂコンデタ さぶうて（寒くて）さぶうててえ（手）も チヂコンデタ言うて。

ちぢなしご（父無子）【名詞】 父親が誰かわからない子供。私生児。ててなしご [会話] チチナシゴもおけて（産んで）言うてな、無い言うこた（事は）わがとは（自分は）知とんねやろけど（ているのだろうが）言わせん（ない）、言われん（れない）人をなあ。俺は死んでも言わせんわおもて（ない思つて）そいな

のおを（そんなのを）チチナシゴん（に）すんねやろなあ（するのでしょうか）。父親が判らんの（のを）、本人では 判とんねやろけどな（ているのだらうが）、それ 口い（に）言われん人の事を まあ 隠し抜くのをなあ チチナシゴに。そして まだ 判らんのもあんなやろんなあ（有るのでしょうか）。誰とでも寝て だなのおな（誰ののが）入いとんねやらなあ（ているのか）判らんのも有るし、判とても（ていても）言われんのも（れるのも）有るしなあ。

ちちのみご ちのみご（乳飲児）【名詞】 乳児（志（御座、国府）、鳥（国崎、相差、名））[会話] チチノミゴ（児）言うんなあ（言います）。チノミゴ言やええんけど（言へばよいのに）チチノミゴ言うて、乳、飲むこお（子）を チチノミゴ 抱えて 言うて言うね（言います）。

ちちのみば【名詞】 乳歯 ちのみば

ちちば【名詞】 1) 乳首 転じて丸くて小さい物。果実の最初の頃。（志（御座、鶴方、国府）、鳥（国崎）、度）2) 羽織の紐をつける小さな突き出たもの [会話] 1) チチボ、つけとけ（つけておけ）言うて、んなやかや（何彼）きれやどけいでも（布などにも）こや（これは）チチボつけとくと（ておくと）ええんやれ（よいのだ）言うて。わあん（輪に）して付ける事を チチボや（と）言うのなあ（言うのです）。ちば言やええんけど（言へばよいのだが）チチボ付けとけ（ておけ）言うて、2) そして（そおして）羽織の紐付ける あれもなあ、チチボや（と）言うの（のです）。1) なりもん（なり物、果実）に 南瓜や胡瓜に あや（あれ）チチボな（が）なつて来たれ（来ました）言うて、ちっちゃいのおな（小さいのが）めぎんで来るやろ（芽を出して来るでしょう）。花ふるたのおな（落したのが）、こんだ（今度は）みい（実）になるのを それを、チチボな（が）なつて来た言うてなあ（言います）。南瓜のチチボな（が）なつて来たれ、胡瓜もまあ あやれ チチボな（が）よっけ（沢山）つられて来たよお（吊つて来た）言うて。ほんとに（本当に）出来始めで 花な（が）付いとる（て居る）うちののおを（間ののを）チチボや（と）言うね（言うのです）。チチボな（が）よけ（沢山）つられて（吊つて）来た言うて。

ちぢまる（縮）【自ラ五】 短くなる 小さくなる

ちぢみかばちゃ【名詞】 南瓜の大きな物。[会話] チヂミカボチャや（だ）言うて、こげな（こんな）大きなのおを（のを）作りよおったね（作つて居たのです）

どいらいのおを (大きいのを)。

ちぢめる (縮) 【他マ下一】 短くする 小さくする 狭くする

ちちもらい (ちちもらひ) (乳貰) 【名詞】 母乳が不足するので他人の乳を貰う事。もらいちち

ちちや (乳屋) 【名詞】 牛乳を売ったり配達したりする店。牛乳屋。[会話] 牛乳屋。うしや。牛こおてなあ (飼って)、チチヤな (が) 有りおったやんかい (有ったで有りませんか)。

ちぢらかす (縮) 【他サ五】 縮らす。ちぢれるようにする。

ちちんぷいぷい。ちちんぷいぷい、いたいのいたいのとんでけ【俚諺】 幼児が転んだり、ぶついたりして、体を痛めた時、痛む所をさすりながら、すかしなだめること、又その時 唱へる言葉。チチンブイブイは、ゴヨ (御代) のオンタカラ (御宝) の義 (大言海) 一説に智に武勇は、御世のお宝 (伊) [会話] 呪い (まじない) を言う、チチンブイブイ イタイノイタイノトンデケ (飛んでいけ) 言うて 呪いしたるわ (してあげます)、だれえ (どれ) 言うてな。こららな (子供が) 傷すると だれえ かあさんな (おかあさんが) 呪いしたるわ (してあげます) 言うて、チチンブイブイ イタイノイタイノトンデケ 言うて ま、治ってくだ (て行くぞ) 言うて、そげん (そんなに) 言うて こららん (子供に) 言よおったんよお (言って居たのです)。

ちっかあい 【形容詞】 近い。ちっかいより更に近い。極く近い。[会話] ほん (本当に) あしこや (あすこは)、チッカイトこやど (所だ) あればや (彼の家は) 言うてな。 はなのさきん (に) 有るとなあ、そや (それは) チッカアイとこやどお (所だぞ) 言うたりな、近い、言うのを チッカアイ 言うてな。

ちっかい (近) 【形容詞】 近い。ちかい。空間的に隔りがあまりない。小さい。あまり遠くない。時間的に隔りが少ない。もう少しでそうなる。ほどなくその段階に達する。(志) [会話] 近い言うのをなあ、チッカイト。チッカイトこ (所) 寄って来たとか、チッカイトこへ 行てみよ (行ってみなさい)、チッカアイド (近いぞ) 此处から行て見よ 言うて、近い言う事をチッカイト。此处から行くと チッカアイのんなあ (のに) あっちゃ (あちら) から廻ると はざんけど (駄目だけれど)、こっちゃ (こちら) 抜けてくと (て行くと) チッカイト 言うて。近い言やええのんなあ (言へばよいのに) チッカアイ 言うて引っ張って、チ

ツカイとこやと (所だと) チッカアイ 言うて 力 入れて。

ちづき (地搗) → じづき。

ぢっきなもん → じっきなもん。

ぢっきん → じっきん。

ちっこ 【名詞】 背の低い人 (津、名) [会話] せえ (身長) の チッコオイのなあ (小さいのを)、こちびやなあ (だ) あや (彼は) チッコイねなあ (のだ) 言うて。ちまかあいねなあ (小さいのだ) 言う時もあるしなあ。

ちっこい (小) 【形容詞】 ちいさい。ちさい参照 (志 (波切、片田、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (加茂))

ちっこお (ちっかう) 近く。距離が短い。小さく。[会話] 近く言うのも チッコオ 言うてな ちっかあい (近かいのだ) 言うて。

ちっこなる 1) 近くなる。距離や時間がなくなる。2) 小さくなる。恐縮している。3) 親しくなる (熊) [会話] 2) チッコナル、こまこおなつた (小さくなっていった) 言うのも、チッコナル 言うし。3) 親戚ん (に) なつて 親しくなつたのも チッコオナツテ言うしなあ (言います)。1) そこ迄 歩いて来たら チッコナツテ来た まあ じっきやれ (すぐだ) 言うのなあ (です) チッコナツテ来た なあ、まあ 言うて。こお (子) 産むよん (ように) なるとのお、ほん とん (本当に) しょんべな (小便が) チッコナツテくんの (来るのです)。出てくのかして (来るのか) しょんべな チッコナツテ来た なあ 言うて。しょんべな チッコナツテ来た よつてん (から) あや (あれわ) まあ じっきん (すぐに) 出てくねどお (来るのだ) 言うて。

ちっこり 【形容詞】 小さく整っているさま。こじんまり。ちよっこり参照 [会話] こじんまり しとると (していると)、チッコリ しとてええなあ (していてよいなあ)。

ちっさあ 【形容詞】 小さく (上)

ちっさあい (小) 【形容詞】 小さいより更に小さい。(阿)

ちっさい 【形容詞】 小さい。(志 (神明、浜島、国府、立神、甲賀、安乗)、鳥 (坂手)、員、三、鈴市、鈴郡、亀、安、津、久、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] チッサイ 穴へ こじこんで (押し込んで)。穴でも いれもん (容器)、でも チッサイもん (小さい物) へ よけ (沢山) 詰め込む

と こじこむ。

ちっさからかれ 小さくないの反語 大きいを表す

ちっしやい【形容詞】 小さい (志 (布施田、鶴方)、鳥 (鳥羽)、津、一、松、阿、度、伊、南、熊) [会話] チッシャアイね (小さいのだ) 言う人も有るしなあ、ちっちやあいね (小さいのだ) 言う人も有るしなあ。

ちっそお (ちっさう) 小さく (北) [会話] これ チッソオしてくれまあえ (して下さい)、おっきいて (大きくて) こや、きやれやへん (これは着れません) チッソオしてくれえ (下さい) 言うてなあ、小さくしてくれ (して下さい) 言うの、チッソオしてくれ 言うの (のです)。

ちっそおても (ちっそうても) 小さくても

ちっそおなる (ちっそうなる) 小さくなる 恐縮する (志、鳥、松、阿、伊、尾) [会話] えんじょ (遠慮) して、あの家い (に) いたや (行ったら) チッソオナツтта (ていた)、きいつこて (気使って) チッソオナツンネ (なっているのだ) 言うて。

ちっち【名詞】 小さな虫 幼児語 (上、阿) [会話] チッチおられ (居る) あやあれ言うて、虫の事をなあ、チッチや (と) 言うのなあ (のです)。頭い (へ) しらめな (風が) わきおった (寄生して居た) 時ん (に) 頭 (頭髮) 引っ張ってきといて (来ておいて) だれ (どれ) チッチ 取ってくよん (くれよう) 言うて したりなあ。蚤取ったりすんのも (するの) チッチ取ったるんねえ (あげましようね) 言いおった (言っていました)。虫の事を チッチや (と) 言うのなあ (のです)。おかた (大体) しらめや 蚤を言よおった (言っていました)。そやけど (それだけでも) 子供らな (が) ともとい (庭へ) いて (行つて) 蟻な ほおとても (匍つて居ても) こやあれ チッチな (が) ほおとられ (匍つている) 言うてなあ 虫をなあ。ちっさい (小さい) 虫 子供らな (が) する事やよって (だから) そいなおっきい (そんなに大きい) のは言わせんけど (言わないが)、ちっちやあいの (小さいのを) 蟻や (だ) とか なんか そばな (そんな) ちっちやいもんな (小さい物が) ほおとる (匍つている) 時んなあ (に) こやれ、チッチなほおとられ (匍つて居る) 言うてなあ。

ちっちのばあ【名詞】 じゃんけん (志 (浜島、甲賀、越賀)) [会話] じゃんけいまい (じゃんけん) 言うのをなあ、昔やなあ (は) チッチンペアしよおや (しましよう) 言うて。チッチンペアとか チッチノペアとか言うて、じゃんけえはい言うのを チッチノペアし

て 勝ったもんな (者が) しよおや (取りましよう) 言うてなあ。

ちっちや【形容詞】 小さい (志、張、名) [会話] ちっさいも、チッチャアイも、ちっしやあいも一緒の事や (です)。小さい言うのを チッチャアイのや (だ) 言うてな。小さい事を チッチャイとか ちっしやい言う人も有るしなあ。

ちっちやあい【形容詞】 小さい ちっちや参照 (志)

ちっちやい【形容詞】 小さい。チイサイの転 (広辞苑) (志摩市全域、鳥、員、三、鈴郡、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、尾、北、南) [会話] 小さいのおを (のを) チッチャイ言う (言うのです)。

ちっちやな【形容詞】 小さな [会話] 小さい事をチッチャナ言う。

ちっちよお 小さく

ちっちよなる 1) 小さくなる 2) 恐縮して、或は緊張して身を堅くする。[会話] 1) わあわあ言うて 轉づつとるとなあ (喋っていると)、大きな顔してあや (あれ) 言うしなあ。なつとも言わんと (なにも言わずに) おると (居ると) チッチョオナル言うてなあ。

ちっちんばあ。ちっちんばあ、じゃんけんほい、かちまけほい【名詞】 じゃんけん じゃん拳の掛け声 ちっちのばあ参照 (志 (鶴方)) [会話] じゃん拳の勝負、チッチンペア、ジャンケンホイ、カチマケホイ言うて。

ちつづき【血統】【名詞】 血管がつながって居る事、又その間柄、血統、血縁、親類。[会話] ちいな (血が) つなんどる (つないでいる) 言う事かい (ですか)。ちいな (血が) つなんどんねよって (つないでいるのだから) あの人となあ、言うて。血族言う事を チツヅキ言うてなあ。

ぢつづき (じつづき)【地統】【名詞】 土地が続いて居る事。ある土地と隣の土地が海や川で隔だてられないで続いている事、又その土地。[会話] ヂツヅキ 間崎は 離れ島や (です)、せだや (布施田とか) 越賀は ヂツヅキ。

ぢっと → じっと。

ぢっぱ【名詞】 → じっぱ

ぢでき【名詞】 その土地で獲れたもの。自分で作った物。[会話] ヂデキのもんや (物だ) 言うて。土地で取れたもん (物) なんでも (何でも) こや (これは) ヂデキやなあ (だ) 言うて、蜜柑でも わが (自分の) ん (に) なつたもん (物) ヂデキやなあ 言うしなあ。

ぢどこ じどこ【地味】【名詞】 土地の岩盤の事

ぢどめ【血止】【名詞】 出血を止める事、又その薬。

(志(布施田))

ちどめぐさ【名詞】 1) ベンケイ草 蓬など止血に用いる野草 2) チトメグサ セリ科の多年草。小さな雑草で人家の陰地に自生、細い茎は地上を這い、所々から根を生じ、葉は円形で長柄。春から夏にかけて白色または紫色の小花をつける。葉は血止めに効ありとされる。

ちどめぐすり(血止薬)【名詞】 出血を止めるための薬
ちなついた 1) 血液が付着した 2) 血縁関係に有る
[会話] 2) 親戚のもん(者)も 身内や(だ) 言うやんない(言うでしょう)、身のもん(者)言うて、チナツイタ人を。

ぢなり【名詞】→ じなり。

ぢなりんなつとる 一面に生えて居る

ちぬ(海鰐)【名詞】 黒鯛の小さいもの(志、鳥、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] チヌダイ言うて、チヌダイ 今日はよけ(沢山) 釣つて言うやんかい(言います)。

ちのあまり【名詞】 末子 両親の最後の血(精子)で出来た子の意 [会話] あや(彼は) まあ、ひとりご(一人子)の チノアマリやなあ(だなあ)。ひとりむすめ(一人娘)の チノアマリやなあ 言うて。おとご(末子)の チノアマリやなあ 言うて、おっそお(遅く)産れるこお(子)を あやまあ(彼は) おとごの チノアマリで あまたれてまあ言うて。おとごやもんで(末子なので)、大事のこお(子)で、まあなあ 手のひらい(へ) 据えるよおん(ように) しやあるくもんで(して居るので)、あや(彼は) まあ おとごのチノアマリで かおおて(可愛くて) しよな(仕方が) 無いねやれ(のだ) 言うて。

ちのけ(血気)【名詞】 1) 血色 2) 元気 生氣 勢い

ちのついたもん【名詞】 血縁関係にある者。親類。[会話] チノツイタモン だれんも(誰も) 無いね(のだ) 言うてな。兄弟も無いしなあ、従兄も無いよん(ように) なつてくとなあ(て行くと)、チノツイタモンな(者が) なんも(少しも) あの家も無いよん なつてたなあ(て行ったなあ) 言うてなあ。今しや(今は) 兄弟な(が) すけないよつて(少ないから) チノツイタモンな(者が) 無いよん(ように) なつてく(なつて行く) 家や(は) よれやわい(沢山です)。

ちのみご(乳飲児)【名詞】 乳を飲んで居る頃の幼児。乳児。(志(祥名、布施田、鶴方)、鳥(答志)) [会話] 乳、飲む子、赤ちゃんをなあ、チノミゴな

(が) 有つて、あの家や(は) 言うてなあ。

ちのみち(血道)【名詞】 婦人病 更年期 女性特有の病気の総稱 産褥時 月経時 更年期などに血行不順からおこる、頭痛 逆上 めまい 精神不安定などの諸症状 及び子宮病 血の満かとも言う(大言海)
(伊) [会話] チノミチ、言うな(のは) 女の人な
(が) チワズライや(と) 言うて 頭な(が) 痛いとか、背中い(へ) のぼるとか 言うて、あやまあ(彼女は) チワズライや(だ) 言うて。産後のひだちな(日経、経過が) わり(悪) かったりなあ、そやけど(しかし) 子供産まんでも(産まなくても)、チワズライ する人有るしなあ(有りますし)、あんで(あれで) 生理のかげんかいなあ(様子でしょうか)、婦人科のわり(悪い) 人は チワズライな(が) おいなあ(多いです)。チワズライや(だ) 言うて ぶらぶらと一代しとる(一生して居る) 人な(が) 有るやんかい(有るでは有りませんか)。まあ よおいごかんと(働けなくて) 頭な わりとか のぼるとか さがるとか言うてなあ あいなの(あんなのを) チワズライなあ(です)。婦人科な(が) わりんやろなあ(悪いのでしょうか) あいな人らは(あんな人達は)。男の人ん(に) 血の道言うな(のは) 言わせんし(言わないし) そやよつて(だから) 婦人科な(が) わりのおを(悪いのを) チワズライ言うたんやろなあ(言ったのでしょうか)。ふらふらと 一代 頭な わり 肩な 張る 顔よおして(よくして、不機嫌な顔をして) ぶらぶらと しとる 人な ありおったなあ(有りました)、あいなの(あんなのを) チワズライで、ねんない(年内、一年中) あげんしとる(あんなにして居る) 言い おったなあ(言っていました)。どこな(が) わり ここな わり 言うて、今し(今) で言うて、更年期言うのを、チワズライ 言よおったんやかなあ(言つて居たのでしょうか)、そやけど(しかし) 更年期やの おても(でなくても)、若い時分から(頃から) しめる迄(死ぬ迄) そげんしとる(そんなにしている) 人な(が) ありおった(有りました)。婦人科な(が) わりんてや(悪いのです) あいなの(あんなのは)、きつと。ぶらぶらと いくほども(どれだけでも、なにほども) わりねえんけど(悪く無いのだが) どじもんな(が) くそおて(嗅くて) まあ なんも(なんにも、少しも) 仕事もせんと(せず)に。チワズライみたよ おな(のようだ) 言うて、ああ ああ言うて 欠伸すると、チワズライみたよな なあ 言うて。チノミチもチワズライも、一緒や(です)。チノミチを 昔の人

ら チワズライ言うて、言よおったね (言って居たのです)、どじもんぐさやまいや 言うて。どじもんぐさ病氣や (だ) 言うて、仕事もなんもせんとなあ (少しもせずに) おるもんで (ので) 今しの (今の) なまけもんやわいなあ (怠け者です)。あんで (あれで) 仕事な (が) 出来やへんねんなあ (出来ないのです)。気持な (が) わりて (悪くて)、どこかなしん (どことなしに) 言うに言われん わりんやろなあ (悪いのでしょうか)。わしらな (私達が) 見とると (見て居ると) どじもんな (が) くそおてしやせんよん (嗅くてしないように) 思うけど (けれど)、あやまあ (あれは) どじもんくさやまいや (だ) 言うて。そやけど その人間に見ると まあ いごかれやせんね (働けないのです) そやけど しいつけん (しつけないと) したないよおんも (したく無いようにも) なつてくし (なつて行きます)。

ちのみば (乳飲歯) 【名詞】 乳歯 子供の初期の歯

ちのめぐりなわり 頭が悪い

ちばながはしる 母乳が多くて、ほとぼしり出る (三重県全域) [会話] チバナガキタ言うて、乳を吸い出したとなあ (出してやると)、とめどな (止めようが) 無いよん (ように) 溢れて来る程なあ、今しチバナナ (が) キテ こや (これ) 言うて。吸い出す始めになあ、ふたあ (二) 口、み (三) 口なあ、吸ううちや (間は) よけ (沢山) 出やせんねけど (出ないのだが) ま、それ吸い出したと (てやると) 出て来てなあ 溢れてくんねやんかい (くるのです) そいな (そんな) 時んなあ (に) チバナガハシル言うの。

ちばなれ (乳離) 【名詞】 1) 乳児が生長して母親の乳を飲まなくなる事 2) 又その時期、転じて、自主性のある人間に成長する事を言う。[会話] 1) チバナレや (だ) まあ言うて、ふたありめ (二人目) 入いと なあ (妊娠すると)、まあ チバナレかして (とみえて) まあな、どいらい (大変) こおな (子が) 泣かれ (泣く) 言うて、乳な (が) 出やんよん (出ないように) なつてくね (なつて行くのです)。よお (四) 月、いつ (五) 月ん (に) なると、乳な (が) 出やんよん なつてくね。そすと こおな (子が) まだ チバナレな (が) 出来やせんもんで (出来ないのです) 乳な (が) 恋し最中やもんでなあ (なので) よお泣くね (よく泣くのです) チバナレで よお泣かれ (よく泣く) 言うて。

ちばん (地盤) 【名詞】 → **じばん**

ちび 【名詞】 1) 小さい人、禿るの連用形から 背の低

い事、又その人 年少者 子供 軽んじたり、可愛らしいと言う気持を込めて用いる。ちびる 禿る 先がすれてへる。すり切れる。(鳥 (答志)) 2) 吝嗇 けち (尾、南、熊) [会話] 1) チビ、ちっさいの (小さいのを) ちっさいもん (者) を チビらな (が) おつて言うて、ちっさいのおらな (小さい者が) おると、チビらな (が) おつて なんも出来やせん (なんにも出来ない)、てら (とか) 言うて。チビ言うのは 子供の事をなあ (です)。こおな (子が) おつて なんも出来やせんよお (なにも出来ません) 言やええねけど (言えよいのですが) チビらな (が) おつて、なんも出来やせんよお 言うてなあ (言います)。せえ (背、身長) のひっくい (低い) 人も あやまあ (彼は) チビやなあ (だ) 言うて、なんきんやなあ (だ) 言うて。なんきん ちっちゃいのなあ (小さいです) あや (彼は) なんきんで おつきいならせんねどお (大きくならないのだぞ) 言うて、南瓜でも ちっちゃい、こいな (こんなのを) なんきんかぼちゃ言うやんかい (言います)。それい例えて、ちっさいときいご (その時) あやまあ なんきんや 言うて。なんきんかぼちゃは、おつきいならん (大きくならない) あやまあ (あれは) あんだけ (あれだけ) おつきいならせんねやんかい (大きくならないのです) ちやぼも一緒やわい (です)。なんきん言うて言うねもんで (言うので)、それい (それえ) にげ (人、人間) でも、豆こおどても (豆、囃んで居ても 節分の豆、年を取って居ても) ちっさいと あや (彼は) なんきんやなあ (だ) 言うて。

ちびき (血引) 【名詞】 魚名 ひめだい チビキ科の海魚 体長約 50cm 体は細長く側扁する体色は紅色で腹は淡い、美味 姫鯛

ちびくそ 【名詞】 【形容詞】 1) 少量 ごく少量 (南) 2) 背の低い人 子供 [会話] 2) ちっさい (小さい) 事を言うね (言うのです)。ちびすけやてら (とか) チビクソ言うな (のは) なんきん (なんきんかぼちゃ) も 一緒やわい (です)。1) ちびっこ、ちよびっこ、ちよびつと、ちびつと、少ない事を チビクソ言うし (言います)、にげ (人、人間) も、チビクソやなあ (だ) 言うな (のは) 言うけど (言います)。物も すけない (少ない) と ちよびっこやなあ (だ) おおた (あゝ) ちよびつこやれ (だ) 言うて。ちびつとも、ちよぼとも ちよびつとも 一緒の意味やなあ (です) ちよこつと言うのも 少ない事を。

ちびくろ 【名詞】 ポケット [会話] チビクロ言うね

(言うのです) ポケットの事を。ちぼぶくろ 言う人も有るしなあ。

ちびこい【形容詞】 小さい ちっちゃい参照(上、阿、南、熊) [会話] チビコイ、チビコイなあ こや (これは)。チビコイのばっか (ばかり) くれて 俺家い (へ) 言うて、なんやかもろてもな (いろいろ貰っても) ちっちゃい (小さい) のばっか、芋でも こなれ (小芋) 呉れると、おおた チビコイいのばっか くれて言うてな。

チビス【名詞】 腸チフス(上、阿) [会話] チビス言 よおったね (言っていました)、鼠によおおんねてわ い (よく居るそうです) 言うて、コレラやチビスや言うてなあ。

ちびすけ【名詞】 背の低い人、又は年少の者。ちびくそ参照 [会話] ちっさい (小さい) 事を言うね (のです)、チビスケやたら (だとか) ちびっこ言うな。

ちびちび(少少)【副詞】 少しづつ 物を出し惜しむ状態(志(布施田)) [会話] チビチビ飲んどらんと (ていなくて)、がぶがぶくわしたれ (食べさせてやれ) 言うてな、ちょいちょいつ (少しづつ) のおどんな (飲んでるのが) チビチビとなあ。酒飲みでも ちっちゃい (小さい) 盃で飲んどる (でいる) 人な (が) 有るやんかい (有ります) チビチビとなあ。茶碗でかぶったや、ええのん (あふってやればよいのに) まあ おとっしや、おもても (思っても) ちっちゃあい (小さい) ので、あえんしとんのな (あんなにしているのが) ええんやろなあ (よいのでしょうか)。

ちびっこ 1) 少し 副詞(志、張) 2) 小さな子供名詞 [会話] ① ちっさいこお (小さい子) を チビッコやなあ (だ) このかあ (子は) 言うしなあ、① ちよおいともろても (少し貰っても) チビッコもろた (貰った) 言うなあ (言います)、ちよおいと 呉れると。ほん (本当に) チビッコくれえ (下さい) だい (どれ) 言う時も有るしなあ。ちょいと (少し) 言うの、チビッコくれえ 言うてな。よけほしても (沢山欲しくても) よけくれ 言われやせんもんで (言えないもので) チビッコくれえ、して (そおして) 酒 のおでも (飲んでも)、ほん (本当に) ちよびつとくれえ (少し下さい) 言うてなあ、あや (あれは) 一杯飲みとおてもなあ (たくても)、ちよびつとくれえ 言うてなあ えんじよしとて (遠慮していて)。

ちびと【副詞】 少し(志(神明、立神、国府)、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、鈴郡、安、津、一、久、松、多、上、阿、張、名、伊、北、尾、南、熊) [会話]

一緒に事やわい (です) チビット言うのも ちびっこも、ちよびつと言うのもなあ。

ちびとも【形容詞】 少しも(三、鈴市、伊)

ちびとる 1) 出し惜しみて居る 2) 少し漏らしている しょんべチビットル

ちびりだしとる 大、小便などを漏らしている。[会話] 便所、ちびつたんのなあ (てやるのです)、下痢する時んなあ (に) よお (よく)、ちびつたやんかい (です)、へえ (屁)、へつたら (したら) チビリダシタ言うて。

ちびりだす 少し出す [会話] 腹から出るもん (物) ぞおわた (内臓)、チビリダシトルと チビリダス言うて よお言うわい (よく言います)。

ちびる【自ラ五】 1) 大小便などを少しもらす。(志(浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、桑市、員、鈴市、津、久、一、多、上、阿、張、度、伊、北、南) 2) 出し惜しむ(志(浜島、甲賀、鶴方)、桑市、員、鈴市、安、松、多、張、北、尾、南) [会話] ① しょんべ (小便) チビル、はこ (大便) チビル。咳せいても、しょんべ チビルし、ちゅうぶみたいに (中風のように) しとんのも (して居るのも) こして押し出すと ちびつて来たない (来ました) 言うて、出て来ると ちびつて来たよお (来ました) 言うて。チビルは 漏らす、しょんべも、漏らすのおを (のを) チビル、そして (そうして) なんでも いれもん (入れ物、容器) にいっとても (入って居ても) 押し出すと出て来ると チビリ出して来たれ (来ました) 言うてなあ (言います)。② 物 出し惜しみする言う時も、あの人まあ、ちびでなあ言うて けちの事を チビ言うて。物チビンネやれ (惜しむのです) 言うて、物 きびる言うの (のを) チビル言うて、惜む事を 人に 此れやろ (あげよう) 言わんと、くれ (言わずに、下さい) 言うても、惜むのおを (のを) きびつたとか チビルとか言うね (言うのです) おなし (同じ) 意味やけど (ですが)。

ちびんと【形容詞】 少し 極く少量(志(布施田)、多、度、伊)

ちぶいてくる 激しい風が吹いて来る しぶいてくる なかにし参照 [会話] 激しく吹いて来る事を チブイテクル。

ちぶいてきた 強い風が吹いて来た 風が強くなった しゃじける参照 [会話] 風なチブイテキタ言うて、よけ (沢山) 吹くと 西の風な (が) チブイテキタとか、こちな (東風が) チブイテキタとか。

ちぶく 強い風が吹く しぶく (志 (布施田)) [会話]
風な (が)、チブイテ、風な (が) えらい (強い) 時
を、風な (が) チブク。西の風な (が) チブイテきて
まあ言うて、西の風や (とか)、まぜ (南) の風な
(が) しごお (至極) 吹いて来るとなあ、チブク、言
うてなあ。

ちぶくろ (ちびくろ) 【名詞】衣服につけられて居る物
入れ ポケット (志) [会話] チボブクロ言うて、ポ
ケットの事を 昔の人らな (が) チボクロ 付けとい
て (ておいて) くれ言うて。チボクロ言うのもあるし、
チボブクロや (だ) 言うて、チボブクロ付けといてく
れや (ておいて下さい) 言うて、言いおったんよお
(言っていました)。昔や (は) なんやかや貰うと
いれんのなあ (入れるのに)、きんこや (芋の煮切
干とか) あられ貰うと 入れんの 着物の裏い
(へ) チボブクロ 付けといてくれや 言うて 言よ
おった (言っていました)。チボブクロのちぼは ち
ぼな (が) 拘って入れるもんで (ので) チボブクロ言
うんかいなあ思うね (言うのかと思うのです)。そい
な (そんな) 意味もあんねやろし (有るのでしょう
し)、チボブクロ言うて ちぼみたよん (乳房のよう
に) 膨れてしとるもんで (して居るので) 言うのか
知らんけど (知らないが)、チボクロや (だ) 言うて。

チブス 【名詞】腸チブス (一)

ちべこべ 【副詞】つべこべ 色々と言ひ訳をする つべ
こべ参照 [会話] チベコベ 喋べんなまあ (喋る
な) 言うて、よけ (あまり) ぶつぶつ言うて チベコ
ベと よけ 喋べってとか、ぼやくとか、つべこべ
チベコベ言うのなあ (のです)。チベコベ よけ囁
んなまあ (あまり喋るな) 言うて、チベコベ言わんと、
くえまあ (言わずに食べなさい) 言うて、なんやかや、
こや (いろいろこれは) 美味ないとか、うっすい (薄
い) とか言うて チベコベ言わんとくえまあ 言うて。

ちべた じべた 【名詞】地面 土地の表面 (志 (布施
田)) [会話] 土の上をチベタや (と) 言うの (ので
す)。チベタい (へ) 置かんと (ずに) そやれ 上い
(へ) あげえまあ (上げなさい) 言うてなあチベタい
どすわつとるてら (座って居るとか) 言うて つちべ
え 座ると。

ちべたい (冷) 【形容詞】つめたい (鳥、三、鈴市、鈴
郡、安、上、阿、張) [会話] 冷たい言う事を チベ
タイ言う人な (が) あんなあ (有ります) おおた チ
ベタイよ言うて。

ちへど (血反吐) 【名詞】吐血 吐いて口から出す

血

ちば 【名詞】1) 乳頭 乳頭形のもの (志 (浜島、布施
田)) 2) 小さな突起物 (南、熊) [会話] 2) ちぶく
ろ言うな チボみたいん膨れてしとるもんで。

ちば 【名詞】拘り 巾着切り (志 (志島、布施田、浜島、
甲賀、国府)、鳥 (鳥羽、相差)、上、阿、張、名、南、
熊)

ちばお 【名詞】希望 [会話] 何処行ても 相手してく
れやせんし (してくれないので)、夢も、チボオも無
いし (無いので) 言うて。

ちばくろ。ちばぶくろ 【名詞】ポケット ちぶくろ参照
(志) [会話] チボブクロ言うて ポケットの事を
チボブクロ つけといてくれ言うて。

ちばめる すばめる [会話] すばめる言うのな (の
が) チボメル。すばめる言わんと (言わずに) チボメ
ル。ちぢめとけ言やええよおな (言へばよい) もんや
けど (だが) すばげとけ、チボゲトケ言うて 言い方
な色々あんねてや (有るのです)。

ちまかい 【形容詞】小さい (志 (布施田、国府)、度)
[会話] ちっちやい (小さい) 言う事 チマカイ、ち
っちやいの (のです)。こや (此れは) チマカイのば
っか (ばかり) 呉れたなあ言うて、チマカイの、ばっ
か こや えって (選んで) 呉れたよななあ (よう
だ) 言うて。

ちまき 【名詞】いばらもち 米粉 小麦粉 その他を材
料にし、さるとりいばらの葉で包んで蒸した物。[会
話] チマキダンごなあ (です)。柏餅ん (に) する事
を チマキ言うて。チマキのはあ言うて、いばらのま
るくたい (丸い) 葉 柏にすんのを (するのを) チマ
キや (だ) 言うし。柏餅言うて 四角ん (に) 切っ
て (ておいて) それい、餡つつですんの (包んです
るのを) 柏餅言うけど (言います)。チマキも、葉い
(へ) 伸べといて包んで、柏にして、ふたあつん (二
つに) する事、柏や (だ) 言うて、柏餅や (です)。
ねんのでもなあ (寝るのでも) 布団な (が) 無いと
柏餅して寝よ言うて、一枚の布団はんぶ (半分) 折つ
て はんぶ きんのを (着るのを) 柏餅言うて。〇〇
〇締な (が) おらまあ (俺は) 延べ餅になられんで
(なれなくて) 柏やよお (だ) 言うて、ともい (船
尾) 一人で曲って 布団一枚、はんぶ 敷いて はん
ぶ 着て 寝んのを (寝るのを) 柏餅や言よおつた
(言っていました)。

ちまき 【名詞】野菜などの種子を直接畝に播く事 移植
しない

ちまきだんご【**名詞**】小麦粒で、餡を包み更にさとりいばらの葉で包んで蒸した団子 ちまき参照(志)

ちまきのはあ【**名詞**】さとりいばらの葉 [会話] ずんぼろ (さとりいばら) の はあ (葉) をなあ、チマキノ ハアや (だ) 言うて。ずんぼろの はあ を、とて (取って) 来て、ちまきしょおやんか (しましう) 言うて。

ちまこい【**形容詞**】小さい (志)

ちまこお 小さく (志)

ちまどう (ちばどふ) (血感)【**自ハ五**】取り乱す 逆上 狂乱状態

ちまなこ (血眼)【**名詞**】 1) 血走って赤くなった目 2) ある事に夢中になること 逆上して奔走すること [会話] 1) 一つ眼鏡かけたおりん (時に)、鼻かくのおに ぷうっと一つ 吹くとええんけど (よいのだが)、吸いきったると (てやると) くいきって (引ついて) 来て 目な (が) チマナこん (に) になって、真っ赤ん (に) なる迄ひついて来て。

ちまぶれ (血塗)【**名詞**】血だらけになる事 血まみれ 血みどろ ちもどろけ参照

ちまめ (血豆)【**名詞**】強く挟んだり、打ったりした時に、皮下に出血して生ずる赤黒い豆状のもの。(志 (布施田)) [会話] チマメ言うて、手を金槌や石でつめたり、突いたり (叩いたり) するとなあ、紫色ん (に) になってくんの (来るのを) チマメな (が) 出た言うて。

ちまよう (ちまよふ) (血迷)【**自ワ五**】逆上する ちまどう

ちもどろけ (血塗気)【**名詞**】血まみれ 血で全身が染まった状態 ちもどろけ参照

ちむつ【**名詞**】海魚 あかむつ あかむつ参照(志)

ちむね (地棟)【**名詞**】→ じむね。

ちめぎる つねる つめぎる参照 (阿、張、名) [会話] つめぎる言うのなあ (のです)。ひねんのおを (ひねるのを) つめぎられて言うて、つめぎっておこした言うて、爪できる言うのな (のです)。つめぎる。チメギル。

ちめたい (冷)【**形容詞**】冷たい (員、三、鈴郡、鈴市、上、阿、張、名)

ちめる 挟む (志)

ちもち【**名詞**】婦人病 ちのみちに同じ (志 (布施田)) [会話] チモチや (だ) 言うて、ちいな (血

が) おこつたてやら (とか) のぼせな (が) おこつた言うて。

ちもと【**名詞**】男親 [会話] 誰とでも寝るもんで (ので) 誰、彼と寝てすや (すれば) だなおやら (誰の子か) 彼な こおやら、チモトな (が) 判らんのおな (のが) 有るわい (有ります)。

ちもどろけ【**名詞**】血でまみれる事 出血多量の事 (志 (布施田)) [会話] ちいな (血が) 一杯 (多く) 付くとなあ、チモドロケん (に) なったよお言うて 血な (が) 出て来て よっけ (沢山) 流れんのおを (るのを) チモドロケや (だ) 言うて。ちまみれんな った言うの (のを) チモドロケ言うの (のです)。おおたまあ (あゝ) 切られて チモドロケん (に) なって来たれ言う (言います)。

ちゃあ (茶)【**名詞**】 1) 茶 (志、員、三、鈴郡、鈴市、一、伊) 2) 間食 休憩 [会話] 1) お茶の事、番茶や 二番茶や 三番茶や言うて、チャアの事 茶言わんと (言わずに) チャア言うね (言うのです)。²⁾ 休憩 一服 (ひと休み)、一服を お茶の時間や (と) 言うて、おちゃん (に) しておくれ (して下さい) 言うて、一服しておくれ言う家も有るし お茶ん (に) しょおや (しましう) 言う家も有るしなあ 一緒の意味やなあ (です)、一服もお茶も。休憩、休憩時間を 一服しょおや とか、お茶ん (に) しょおや とか言うてなあ。

ちゃあ【**名詞**】→ じゃあ。

ちゃあいろ【**名詞**】茶色。煎茶汁の濃い色より言う。(大言海) [会話] 茶の色みたよんしとんの (のようにしているのを)、チャアイロ、それい (それに) くろめ (黒い色) 持つと こげちあいろ。

ちゃあうけ【**名詞**】茶受 茶を飲む時に沿えて食べる菓子 漬物類 ちゃうけ ちゃのご参照 [会話] ちゃあ、あられ浮けると チャアウケに、あられ 浮けよやんかい (浮けようでは有りませんか) 言うやんかい (言います)。お茶飲む時に 何か口に入れる物、チャアウケ。

ちゃあかえる 湯茶を入れる 土瓶、薬罐などにある古い茶をすて、新しい茶にする 又、釜の湯などを注ぎ足す。[会話] てんどり (茶釜) の杓や (だ) 言うて、チャアカエンのん (のに) 小柄杓こしやえてもらいおったの (作って貰って居ました)。

ちゃあくみ【**名詞**】茶汲み 茶を汲む事又、その人

ちゃあたき【**名詞**】 1) 食事のための湯を沸かすこと、転じて食事の用意 2) 初盆の家の者が盆に盆踊りの

音頭取り、踊り子に湯茶を接待すること【会話】²⁾
ちゃあ (茶) 炊く、今日はまあ チャータキ番で言う
て 初盆の家やなあ (は) 七日盆から、二十盆まで、
ちゃあ (茶) 炊いて 接待しよおったね (して居たの
です)。今しゃ (今は) 十二日から十六日迄するだけ
やけど (だが)、昔や (は) 七日盆になると、浜い
(へ) 小屋建てて みんな (皆) 行くもん (者) に飲
ますのなあ (のに)、七日盆から二十日盆まで炊き
よおった (炊いて居ました)。¹⁾ 家で チャータキ、
婆らななあ (が)、ばあやん ちゃあ 炊いてくれや
(下さい) 言よおったけど (言って居たが)、今しゃ
(今は) チャータキも要らんしなあ (要りません)。

ちゃあたく 茶を入れるための湯を沸かす【会話】 チャ
ア (茶) タイテモ、湯気な (が) 出て来たれ (来
た) 言うて。

ぢゃあぢゃあ【名詞】→ じゃあじゃあ

ぢゃあぢゃあ → じゃあじゃあ

ちやあちやあする 1) さわぐ事 多弁なさま 2) お
世辞を言う 煽てる 持ち上げる【会話】¹⁾ よけ
チャアチャアスル言うて。おおた (あゝ) チャアチャ
アイウ言うて さおんで (騒いで) まあ言うて。さお
ぐ事を チャアチャアスル言うの (のです)。ほん
(本当に) おちやちややなあ (だ) 言うて、よけさお
ぐと (あまり騒ぐと)、あやまあ (彼は) おちやちや
で よけさおぐ 言うて。

ちやあつみ【名詞】茶摘み

ちやあと【名詞】供茶 佛前に湯茶を供える事 湯は素
湯の事も有り、密湯(米紛、砂糖、乾菫等を浮かべた
もの)の事も有る。ちやとう 茶湯の延 佛前靈前に
供える湯、茶又は湯茶を供える事(志(浜島、布施
田))【会話】 チャアト言うと、ほとくさん (佛さ
ま) へ 朝 お茶をあげるやろ (でしょう) あれを、
チャアト。わがとらな (自分達が) 飲まんうちん (飲
まない間に、飲む前に) ほとくさん へ あげんのを
(供えるのを)。あげた ちゃあ (茶) を外い (へ)
ほんの (放るのです)、ながし (流し、食器洗い場)
へ ほらんと (放らずに) 庭い (へ) ほんの。がき
(餓飢、無縁佛) の当りに (ものとして)。

ちやあとする 佛前に湯茶を供える(志(神明、立神))

ちやあとぢやわん【名詞】茶湯をする茶碗

ちやあのみ【名詞】よく茶を飲む人 茶を飲むのが好き
な人(志(布施田))

ちやあのみぢやわん【名詞】湯呑み茶碗

ちやあんと【副詞】ちゃんと、正しく(安、阿)

ちやあんする(茶) 休む 休憩する

ちやい(血合)【名詞】魚の肉の中央部にある赤黒い部
分 ちあい参照【会話】 魚のチャイ、ちあい。魚の
背骨やどけん (などに) あんのを (有るのを) チャイ
言うね (言うのです)。

ちやいろめ【名詞】瞳孔の色が茶色の人 よく遠方が見
えると言われる【会話】 あの爺やん めえな (目
が) よおめえんね (よく見えるのです) チャイロメや
って (だって)。

ちやう 違う(志、鳥、員、鈴市、鈴郡、亀、安、津、
一、松、伊、北、南、熊)【会話】 違う言うのをな、
チャウ言うてなあ、そや (それは) 違わら言うのをな、
チャウワ言うてなあ。

ちやういうのん 違うと言うのに

ちやうけ(茶受)【名詞】間食に食べる物 御茶を飲む
時に共に食べるもの ちやあうけ参照(志)【会話】
お菓子の事、チャウケ。昔は 大工どん 浮いとる
(ている) うちん (間に) 来てくれえ (下さい) 言う
てな。あられを、茶碗へはんぶ (半分) 入れてな、ち
やあ (茶) 入れると 上い ぶうとして来て、一杯ん
(に) なるやんない (でしょう)、いつ迄 置いとく
と (ておくと) それな (が) しゅみ込んでなあ (浸み
込で) しゅつとなつてくもんで (て行くので)、そん
で (それで) 大工さんに ちゃあ (茶) 飲むのん
(に) 降りて来てくれえ 言うて。大工さん 呼ぶの
ん (に)、はよ (早く) 大工さん ちゃあ のおでく
れえ (飲んで下さい)、あられな (が) 浮いとる (て
いる) うちん (間に) 来てくれえ (下さい) 言うて。

ちやうちやう 違います、違うを重ねた語、否定を表
す

ちやうわ 違います、ちがわら参照

ちやえん【名詞】茶園 茶の木 茶畑 畑の周囲に植え
てある茶の木【会話】 畑い (へ) いて (行つて) ち
やあ炊くと (茶沸すと)、チャエンのさい (木) へし
よつといて (折つて) 葉鑑へ 突つこんどいて (でお
いて) すると、茶の匂な (が) よおて (よくて) うま
いの (のです)。

ちやがい【名詞】茶粥 茶を入れた粥 ちやがゆ参照
(阿、張、名、度、南、熊)

ちやがしん(ちやぐわしん)【名詞】茶菓子 御茶を飲
む時に食べる菓子(熊)【会話】 チャガシンに、なん
など (なにでも)、こおて来いまあ (買って来なさ
い) 言うて。昔や (は) あられや 蚕豆でよかつたけ
ど (が)、今しゃ (今は) チャガシンや (だ) 言うと、

みな はりきって (気を使って)。

ちやがす (茶漚) 【名詞】 茶の出しがら 茶殻 茶を煎じて出した後の残りがす (上、阿) [会話] チャガス言うと どびん (土瓶) へ、ちやあ (茶) 入れて絞ったあとをチャガス。チャガスな (が) よけ (沢山) 出て来たとか言うて 口 (土瓶の口) から出てくるとチャガスな (が)、立った言うて 茶殻も一緒や (です)。

ちやかちやか 【副詞】 さっさと 手早いさま (志 (神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)) [会話] チャカチャカせえまあ (しなさい) とかなあ、はよまあ (早く) 仕事も チャカチャカしたれまあ (してしまいなさい) 言うて、はよ せえ (しなさい) 言う事や (です)。はよせえ言う意味と 手早い人を あや (彼は) まあ チャカチャカで どいらい (大変) チャカチャカと早いなあ言うて、そして (そうして) 歩くのも 速足すると チャカチャカアルキやなあ (だ) 言うう (言います)。はよ ちゃつとせえ チャカチャカせえ それ ちゃつと もて来い (持って来い) 言うて はよもて来い (早く持って来い) 言うのなあ (のを)。

ちやかちやかあるき 【名詞】 巾を小さく早く歩くさま ちやかちやか参照 [会話] 歩くのも チャカチャカアルキやなあ (だ) 言うて、速足すると、チャカチャカアルキ。

ちやかちやかと 【副詞】 さっさと ちやかちやかと同じ [会話] チャカチャカト まあ はよしたれまあ (早くしてやれ)、ごてごてしとらんと (してなくて) 言うてなあ。仕事 しゃっしやつとせえ (さっさとしなさい) 言うの (のを) チャカチャカト せえまあ (しなさい) 言うて。

ちやかつと 【副詞】 さっさと ちやかちやかと同じ [会話] チャカットしたれまあ (してやりなさい) 言うてな、ちゃつちやつと はよせえ (早くしなさい) 言うのを、チャカットせえまあ (しなさい) 言うて。はよせえ (早くしなさい) 言う事、ちゃつとしたれ (してやれ) 言うて。早よせえ 言う事をな、ちゃつちやつと言うたり チャカットせえまあ (しなさい) 言う。

ちやがま (茶釜) 【名詞】 湯を沸す釜 釜の上部が細くなり口が狭い。専ら湯を沸かすのに用いる。かんす参照 (志 (鵜方、志島)、鳥 (坂手、国崎)) [会話] チャガマの事を かんすや (です)。かんすい (へ) 一杯 ちやあさいとけよお (茶、水入れておけ) 言う。

ちやがめ 【名詞】 茶壺 [会話] あまい (くどの上の棚へ) チャガメ乗せると、ちやあ (茶) は湿気 呼ばせんやんない (ないでしょう)。

ちやがゆ 【名詞】 茶粥 ちやがい参照 (志、松、多、阿、度、南) [会話] チャガユは 美味しいねんなあ (のです)。ちやあ (茶) 入れてなあ おかゆ すると、チャガユや (だ) 言うて 美味しいねてや (のです)。

ちやがら (茶殻) 【名詞】 茶を入れたあとのかす ちやがすに同じ [会話] ほおじた、ちやあ (茶) 飲むもんでなあ (ので)、チャガラな (が) よけ出よおったわい (沢山出て居ました)。土瓶へ ほおじたの 一掴み 入れるとまあ、土瓶にはんぶ (半分) も チャガラん (に) なよおったね (なつて居たのです)。そんたい (その代り) ちやあは よお (よく) 出て うまかよおったけどなあ (美味かったが)。

ちやきちやき 【副詞】 鋭い物が肌を刺す状態 (志 (布施田))

ちやきちやき 【副詞】 1) 鋭く皮膚を刺す様 2) 大胆に鉄で切るさま

ちやきちやきもん 【名詞】 はっきりして居る人 しっかりして居る人 [会話] しゃっきりもんや (だ) 言うなあ (言います)。はっきりしとる (して居る) 人を あやまあ (彼は) チャキチャキやなあ (者だ)。はっきりと、元気よおしとんのおを (よくして居るのを) チャッカリモンや (だ) 言うて、元気な (が) 有る事をなあ ちゃっかりしとんなあ言うて。そして (そおして) なんでも はっきりと 言いのくい (言いぬくい) 事言うのでも あやまあ ちゃっかりしとんなあ (して居る)、チャキチャキモンやなあ 言うて。

ちやきん 【名詞】 漁法

ちやこし (茶漚) 【名詞】 茶汁にまじった茶の葉の薄片をこすのに用いる道具 柄のついた小さなふるい (篩) [会話] チャコシな (が) 付いとて (ていて) 言うて。金網の、チャコシな (が) 付いとて ええけど (よいが)、おらげや (俺の家は) チャコシ使わせんもん (ないから) 茶粕な (が) よつけ (沢山) 入いつとられ (ている) 言う。

ちやくび 【名詞】 湯呑み茶碗や土瓶などにつく茶の跡 [会話] チャコビな (が) 付いとて (ていて) 汚いなあ言うて。昔や (は) チャコビな (が) じっきん (すぐに) 付いて来よおった (来ました)、おたあの家い (に) いたや (行ったら) チャコビな (が) ついとて (ていて) ちやあ (茶) 飲むのん (に) 気持な (が) わり (悪る) かった言うて。だめない (不潔

な) 家 行くと、これん (縁に) くうろお (黒く) 付
いとて てえねんな (丁寧な) 家や (は) 磨砂つけて
するし、だめない 家は チャコビな (が) ついて
茶碗の糸尻な (が) くうろお (黒く) してて
あの家のちゃあ (茶) よばれたや (頂いたら) 気持な
わり かったよお言うて よお (よく) 言うわい (言い
ます)。

ちゃしぶ【名詞】 茶碗などにつく茶の垢

ちゃしゃじ【名詞】 茶匙 茶の葉をすくう匙

ちゃだい (茶代)【名詞】 茶店などで休んだ時に支拂う
代金

ちゃちな【形容詞】 粗末な 劣悪な 耐える力が無い
ちゃちは貧弱 みすばらしい事

ちゃちゃ (茶茶)【名詞】 1) 妨害 さまたげ 横槍
2) ひやかし 冗談 [会話] ① あんな (彼が) 来て
チャチャ入れて、嫁もまあ まとまるとこやったのん
(所だったのに)、あんな 来て あの家やなれ
(は) 舅爺な (が) えらいやら (大変だとか) 言うて
チャチャ入れて はざん よんたてた (駄目なように
なって行った) 言うてな。チャチャ入れん (に) 来て
あんな 言うて。横槍言うんか、要らん事言う、みず
さす 言う事やわい (です)。あんな 来て みず さい
て まあ言うて。

ちゃちやいれる 半量を入れる 邪魔をする 茶々を入
れる 水をさす ちゃちゃ 邪魔 妨害 他人の話の
途中で横から入る 冷かし気味の冗談を言う ちゃ茶
ひやかす事 ちやかす事 (志 (布施田)) [会話] チ
ャチャイルル言う事は、人な (が) しとる (してい
る) 事を、そいな (そんな) 事したら、はざん (いけ
ない) とか、そげん (そんなに) すると はざん とか
言うのを、チャチャイルル言うて。おまや (お前は)
そいなもん (そんなもの) に 引っ掛けて、損すると
か そいなもん 引っ掛つたら はざん とか言うて
なあ。人な (が) しょお思とる (思っている) 事を
じやめる 事を チャチャイルル言うの (のです)。じ
やめるも ちゃちゃ入れるも一緒やわい (です) 人の
する事けなす事。けなす言うな (のは) くさす言う事
やわい (です)、なんでも人の言う事けなして、人の
言う事くさして言うのな (が) チャチャイルル言うて。
人な (が) しょお思とる (思っている) 事をなあ そ
やはざん (それは駄目だ) こげんして (こんなにし
て) せなはざん (しなければいけない) 言うのを そ
いな (そんな) 事したら はざおかい (駄目だ) 言う
のを、チャチャイルルとか けなすとか言うの、じや

めるとかなあ。そいな (そんなのは) 一緒の意味や
けど (だが) チャチャイルルも、じやめるも。

ちゃちゃくらかす 乱す 無茶苦茶にする 防げる
[会話] チャチャクラカス言うのは ただれてく (て
行く) 事なあ (です) ただれる言うな (のは) 乱れる
言うの (のです)。

ちゃちやくれる【他ラ五】 めちやくちやになる 散々に
なる 台なしになる [会話] 量みのへり (縁)、へ
りつけとかな (縁どりつけておかなければ) チャチャ
クレテカレ (て行く)。

ちゃちやむちやこ【形容詞】 無茶苦茶 散々 (南、熊)

ちゃちやめちやこ【形容詞】 無茶苦茶 散々 (志 (布施
田、立神))

ちゃちやもちや。ちゃちやもちやく【形容詞】 無茶苦茶
散々 (志 (甲賀)、南) [会話] チャチャモチャクん
(に) 言われたよお言うて。あの、無茶苦茶に 人を
なあ、どなりつけんの (つけるのを)。そして チャ
チャモチャクん (に) しやれた (された) とか言うて。
ひどい目に おおた (逢った) チャチャモチャクや
(だ) あれ (彼) に おおたら (あつたら) 言うて。

ちゃちやもちやこ【形容詞】 ちゃちやむちや 無茶苦茶
むちやくちやなさま だらしないさま (南)

ちゃっかり【副詞】 抜け目のないさま ずうずうしいさ
ま [会話] チャッカリしとる (している) 言うのな
あ (です)、はっきりとしとんな (している) 言うの、
チャッカリしとんな 言うてな。

ちゃっかりもん【名詞】 めけめなくはつきりと行動する
人 しゃきしゃきもん参照 [会話] 元氣な (が) よ
おて (よくて) 物な (が) しゃきしゃきしとる (してい
る) 人を チャッカリモン。あや (彼は) チャッカ
リモンやなあ (者だなあ) 言うて、ぐにやぐにやしと
らんと (していないくて) しゃきしゃきしとると (してい
ると)、あや (彼は) しゃっきりもんやなあ 言う
てな、元氣な (が) ええ (よい) と、しゃきしゃきと
チャッカリモンやなあ 言うてな。

ちゃつきん【名詞】 1) 魚を釣る時、撒餌を要れる小籠
2) 海女が腰につけ獲物を入れる網袋 (志)

ちゃづけ (茶漬)【名詞】 飯に茶を注ぎて食べる事、又
その飯。時には魚、漬け物を入れる事あり。

ちゃつちやつと【副詞】 早く (鳥、津)

ちゃつちやと【副詞】 早く (志 (布施田、鶴方)、鳥、
津、松、阿、張、名、伊、尾)

ちゃつちやめ【名詞】 結膜炎 (志 (布施田))

ちゃつと【副詞】 早く (志 (布施田、鶴方、神明、志

島、国府、安乗)、桑郡、員、鈴市、安、松、度、伊、鳥、北)

ちゃつば (茶壺) 【名詞】 茶の葉を入れて置く壺

ちゃと 【名詞】 ちゃとうの末尾母音の省略 ちゃあとに
同じ 佛前に供える茶と湯

ちゃのこ (茶子) 【名詞】 茶菓子 (志 (国府)) [会話]
チャノコな (が) のおて (無くて)、茶菓子の事なあ
(です)。チャノコやてら (だとか) ちゃうけや
(だ) とか。お茶うけな (が) のおて 言うやんない、
茶菓子の事をなあ (です)。

ちゃのみ (茶飲) 【名詞】 1) お茶をよく飲む人 2)
茶飲み茶碗の略 湯飲み

ちゃのみぢゃわん 湯飲み茶碗

ちゃばら (茶腹) 【名詞】 お茶を飲んで一時空腹を凌ぐ事

ちゃばらもいつとき 【俚諺】 お茶だけでも飲めば一時は
空腹をしのぐ事が出来る

ちゃびん (茶瓶) 【名詞】 茶を入れる時の用具 土瓶
菓罐 (志 (立神)、阿、張、名、尾、南) [会話] わ
かとみず (若水) 井戸で汲んで 神さんと、ほとくさ
ん (佛さん) へ あげて (供えて)、あげたのおで
(供えたので) チャビンへ 入れ といて (ておいて)
お湯もしたり、雑煮もして。

ちゃびんしき 【名詞】 茶瓶を置く時下に敷くもの 下に
敷く台 しずえ参照 [会話] しずえ言うと チャビ
ンシキきみたいな (のような) もんやわい (物です)。

ちゃぶり。ちゃぶりさん 【名詞】 お茶を作る人 茶職人
(志 (甲賀)) [会話] チャブリ言うと ちゃあこさ
える (茶作る) 人なあ (です)。ちゃあもおだり (茶
揉んだり) 焙ったりすんのを (するのを) チャブリ言
うて、ちゃあこさえる (茶作る) 職人やわい なあ (で
す)。

ちゃば 【名詞】 木綿縫針 大きさにより おおちゃば
ちゅうちゃば こちゃばに分けられる [会話] チャ
ボバリ、縫うのん なあ、長針と中針とチャボバリと有
ってなあ、一番ちっさいの (小さいのを) チャボバリ、
チャボバリで使うと こまこお (小さく) 縫われるけ
ど なあ (が)。

ちゃぼおず (ちゃぼうず) 【名詞】 茶坊主 お寺の小僧 [会話]
チャボオズ。ちゃあ (茶) 汲む坊主。寺い (へ) 行く
と、ちゃあ (茶) 出してくんの (来るのです) チャボ
オズ 寺のチャボオズな (が) 言うやんない (言うで
しょう)。

ちやまい (血病) 【名詞】 婦人の体調不順を言う。ホル
モンの失調か ちのみち [会話] くさがれ (秋) く

ささき (春) に おなごな (女が) チャマイな (が)
おこつて。

ちゃみせ 【名詞】 茶店 道傍に有り行きかう人に茶、菓
子などを売り休息を与える小店 [会話] チャミセイ
(へ) 出て言うて、芝居や (だ) とかなんやかや 有
ると、チャミセ出しとよおったやんかい (出して居た
で有りませんか)、舞台のふちい なあ (側へ)。日和山
な (が) はぶり (好調子) な時なあ、日和山で 日和
山団子売ってなあ。

ちゃめ (茶目) 【名詞】 1) ふざける事 いたずら 無
邪気な面白いいたずらをする事 2) 子供っぽくふ
ざけて人を笑わせるさま 又、その子供 [会話] 1)
あのかあ (子は) チャメやなあ (だ) 言うやんかい
(言います)。ちょおける (ふざける) 事を チャメ
やなあ 言うて。子供らな (が) ちょおけとと (ふ
ざけていると) 此のチャメや (は) まあ言うて オチ
ャメな まあ言うて。

ちゃやほやする 丁重に扱う ほめる 煽てる (南)
[会話] チャヤホヤシテまあ、あの家い (へ) いたや
(行ったら) あん な (彼が) まいすこいて (おべつか
使つて)、チャヤホヤシテ言うて な。上手言うのを な
チャヤホヤスル言うて。

ちややま (茶山) 【名詞】 茶摘みに雇われて行く事 又、
その茶畑 (志 (浜島、布施田、甲賀、鵜方)) [会話]
チャヤマ、茶所言うて、ちゃあ (茶) 摘みん (に) 皆
行きおったの (居たのです)。三月ん (に) なるとな
あ 八十八夜かけて来てくれ (下さい) 言うて な 八
十八夜かけてなあ、ちゃあ (茶) 摘みん (に) 皆 行
きおったねえ (行つて居たのです)。チャヤマ 茶所
茶は縁所 娘やりたやお茶摘みに 言うて 娘な (が)
縁な (が) 遠いと ちゃあ のとこい (所へ) 行くと
縁な (が) 有つて ちゃぶりさんと 一緒 ん (に) な
つて来て、よお (よく) 嫁ん (に) 行きよおったん な
あ (行つて居ました)。

ちややまにし (茶山西) 【名詞】 茶摘みの頃に吹く強い
西風 [会話] チャヤマニシや (だ)、なんしろにし
や 言うて なあ、そのじぶん にや (頃には) 西の風な
(が) よお (よく) 吹くもんで なあ (ので)、おおた、
チャヤマニシや なあ (だ) こや (此れは) 言うし なあ
(言います)。そして (そうして) なんしろ な (苗代
が) あお で (青くなつて) 来るとな あ 苗代を風な
(が) なびいてしとと (していると) こや まあ (こ
れは) なんしろにしな (が) 吹いて言うて。お茶摘む
頃に吹く西の風 チャヤマニシ言うん なし (言うので

す)。

ちゃら【名詞】 1) 甘える 追従を言う 2) 雪駄

(志、津、飯) [会話] 2) チャラ履いて言う。1) チャラホラ 言うなまあ 言うて、チャラチャラすんなまあ (するな) 言うやんかい (言います)。よけ (あまり) 甘えたり、じゃれたり (戯れる) すると チャラホラ。あんまり (あまり) あまえかす (させる) と チャラホラさしてまあ言うて。チャラチャラは 甘えかす (させる) 言う事やなあ (です)。あばえる (甘える) と チャラチャラ よけすんなまあ (あまりするな) 言うし (言います)。あばえる、あまえる言うのを、正月でものは ええもんや あつかいべべ着てチャラ履いて。チャラ せきだ (雪駄) を チャラ言うの (のです)。せきだはなあ 裏ん (に) かねな (金属、鉄が) ついとるもんで (付いて居るので) 引きずると ちゃらちゃら言うんやんかな (言うのです)。そやもんで (それで) チャラや (と) 言うて、せきだ履いて言うのを、チャラ履いて言う (言います)。男のこお (子) らは そげん (そんなに) よけ (多く) 履くよん (ように) なかったけど (が)、おなご (女) の子らは せきだを。若いしゅうな (若い衆、青年が) よお (よく) 履きおったやんかい (居たで有りませんか)、せきだを。そやよって (だから)。ゆんべ (昨晚) 来たのは よばんしか猫か、妹 喋るな あや (あれば) 猫や (だ) 言うて、言うやんかい (言います)。世の中に 猫が せった履いて来るものか言うて。芸者の親切あ (は) せつたの裏のかね言うやんない (でしょう)。1) 芸者はのお かねな (が) 有る時は チャラチャラとして あんたやなけな (貴方でなければ) 言うて 付きまとうよおんして おって (ようにして居て)、かね (金銭) が無いよん (ように) なって来ると。

ちゃら 様子 [会話] 芋でも、舌ん (に) のんに (乗るのに)、チャラな (が) 違うんてや (違うのです)。

ちゃらかす【他サ五】 馬鹿にする からかう (志、鳥、上、阿) [会話] ちゃらかす言うの (のです) ちゃらかしてまあ言うて。チャラカス 言う人も有るし、あれん (彼に) チャラカサレてまあ言うて 馬鹿ん (に) される。

ちゃらちゃらする 甘える まとわりつく (熊) [会話] チャラチャラスル言うてまあ、まいすこいて (おべつか使って) 言うのな (です)。ちゃらほらしてまあ言うて。男とおなごな (女が) チャラチャラスル、ちゃらちゃらとまあ ふたんな (二人が)。

ちゃらんする 相互の間に於て差引なしにする 決着をつける

ちゃんや【名詞】 瀬戸物屋 (南)

ちゃんがら【名詞】 機織りの遊走子 おさ参照 ちゃん は銭、銭の唐音、ちえんの変化したもの [会話] 機織る チャンガラを おさ言うやんかい (言います)。チャンガラ言うのは、銭な (が) してあって ちゃらんちゃらん言うもんで (ので) チャンガラバタ言うやんかい。

ちゃんがらばた【名詞】 ちゃんがらで布を織る事、又、織った布 [会話] チャンガラバタを おんのや (織るのだ) 言うて、がちゃがちゃ言うて、おさ (棹) を ちょんちょんするやんない (でしょう) あれ チャンガラバタ言うてなあ。おさな (棹が) じゃらんじゃらん言うのを。

ちゃんせえ 座りなさい

ちゃんちゃ。ちゃんちゃん【名詞】 なま味噌に熱湯をかけたもの [会話] チャンチャジル。チャンチャ。なま味噌で汁ん (に) すんの (するのを) チャンチャジル。味噌だけ あたたい、ちゃ (熱い茶) で、にえこ ましたると (掛けてやると) チャンチャジル。湯な (が) ちゃんちゃん沸いとんのおを (て居るのを) 味噌い (へ) すると おいしいもんで (ので) そんで (それで) チャンチャジル言うねけどなあ (言うのです)が。子供の時や (は) がっこ (学校) から来ると ひや茶 (冷たいお茶) でも チャンチャジル しいお ったの (して居たのです)。さい (菜、副食) が無いと 味噌しといて (しておいて) 茶かけて。あや (あれば) あたたい チャンチャンしとんのおで (して居るので) しよおったんやろのお (して居たのです) 昔やのお (は)、そすと まあ おつけ (味噌汁) と一緒やわい (です) にたんねよって (煮てやるのだから)、はやじる (早汁) こじき汁 (乞食汁)。はや汁とも言うし こじき汁とも言うの (のです)。チャンチャの時に 味噌だけやなしに (だけでなく) 削り節や (とか) 生姜や (とか) それ入れや (入れれば) うまいけど (けれど) そいなのおな、あろかい (そんなのが有りません)。

ちゃんちゃこ【名詞】 袖なし羽織 多くは綿を入れたものの ちゃんちゃんこ (鳥、南、熊、上、名) [会話] 袷 チャンチャンコ言うて、今しの (今の) 人ら チャンチャコ言うて 昔の言葉 袷纏や (です)。袖の無い、袷の袖ふれ言うて。のおておつて (無いのに。無くて居ながら) 有ったふり (様子) する人は

絆纏の袖振れ言うて。絆纏、袖 振ろ (振ろう) 言うても 無いやんない (無いでしょう)。そやけど (それだが) 銭ものおておつて 有るふり (格好) して見せるもな (者は) あや (あれ) 絆纏の袖振つとる (て居る) 言うて。

ちゃんちゃじる。ちゃんちゃんじる【名詞】 生味噌に熱湯をかけてといた汁 ちゃんちゃ参照

ちゃんちゃめし【名詞】 飯の上に生味噌を載せ熱湯を注いだもの

ちゃんちゃん【副詞】 1) きちっと 正しく 2) 煮えたぎっている状態 (志 (布施田)) 3) 生味噌に熱湯をかけたもの [会話] 1) チャンチャン言うのは きちっとしなさい 言う意味もあんね (有るのです)。

ちゃんちゃん【副詞】 次から次へと 多数 [会話] チャンチャン 鳴らして来て言うて、なんやかや 音な (が) チャンチャン言うて。つかれる時も、チャンチャン突いてまあ言うてな、チャンチャン突かれたよお言うてな。雨な (が) チャンチャン降って来て来た言うてな 雨な (が) チャンチャン降って来て 霰もぼちぼち降って来て。

ちゃんちゃんこ【名詞】 ちゃんちゃんと同じ 袖無し of 綿入れ絆纏 (志 (布施田)、鳥)

ちゃんちゃんにする 沸騰させる [会話] ちゃあ (茶) も チャンチャンに 沸しとけ (ておけ) 言うてな。沸騰さす (させる) 言うのを チャンチャンニスル、生味噌を入れてなあ、ちゃんちゃん沸いとる (ている) ちゃあ (茶) を掛けて、そすと (すると) ちゃんちゃん汁や (だ) 言うてなあ、美味かよ おったんよお (美味かったのです)。

ちゃんちゃんぼし【名詞】 干物などが乾いて堅くなって居る状態 [会話] チャンチャンボンしん (に) しとけ (しておけ) 言うてなあ、かつとお (堅く) する言うのを、チャンニスル言うてな。

ちゃんと【副詞】 1) きちんと (志 (鵜方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)) 2) 行儀よく座ること 正座 乱れないできちんとしているさま (志 (布施田、神明、志島、浜島)、鳥) [会話] 1) きちんとせえ (しなさい) 言う事を チャントせえ言うて。なんも (何も) チャントせんと (せずに)、そやれ (それ) だらしない言うて。だらしない事をしとると (して居ると) チャントせえ 言うて。2) よこむかい (横座り) しとると チャント座わらんかれ (座わりなさい) 言うて。チャント座らんかれや無しん (座りなさいで無くて) チャントむかわんかれ、座る言うのを

むかう。正座する言うのを チャントむかわんかれ (座りなさい) 言うの (のです)。1) きちんと片付けとけ (ておけ) 言うの、チャントしとけ (しておけ) 言うのな (のです)。

ちゃんとする 1) 整理する (志 (神明、志島)) 2) 静かに行儀よくする

ちゃんとすわる 正座する ちゃんと参照 (志 (浜島))

ちゃんとむかう 正座して座る ちゃんと参照

ちゃんにする 1) 終りにする 2) 怒らせる 3) 堅くする [会話] 3) チャンニスル言うて、かつとお (堅く) する言うのな (です)。チャンニシテまあ こや (これは) かためたたれ (てしまった) 言うてな。 こや (これ) これも 乾かして ま チャンニシトケ (しておきなさい) とつとくのんなあ (しまっておくのに)、きんこや どけでもなあ (などでも) 干して かつとおして (堅くして) チャンニシトイテ (しておいて) とつとかなはざんわれ (しまっておかなければいけない) 言うて、ちゃんちゃんぼししん (に) しとけ 言うて。2) チャンニスルで 怒らしたる (てやる) ま 怒って、チャンニナツトル (なっている) ま なつと 言うたてて (なんと言っても) 聞かんでなあ (聞かなくて)、チャンニナツトル、ま 怒ってチャンヤよお (だ) 言うて。

ちゃんになる 1) 堅くなる 堅くくっついて居る 2) 怒って居る [会話] 1) いごかんと (動かず) (に) ひつついとんの (くっついているのを) 起すと (はずすと)。かつたい (堅い)、とんの (取るのに) とりのくうて (取りぬくくて) チャンニナツトル (なっている)。2) にげ (人間) も 怒って かつとおなつとる (堅くなっている) 時や (は)、あやれ (あれ) しやちこぼって (しやちほこぼって) チャンヤレ (だ)、チャンニナツトンネヨツテ (なっているのだから)。

ちゃんぶくろ【名詞】 茶袋 茶の葉を入れて土瓶などに入れるもの 茶こしの役をする チャブクロ (茶袋) の音便 (大言海) (鳥 (加茂)、桑郡、員、三、四、鈴市、一、多、上、阿、張、名) [会話] チャンブクロ 茶袋言や (えば) ええ事に (よいのに)、チャンブクロ。晒の袋 縫うとて (ていて) ちやのこお (茶の粉) 入れて 土瓶から 出て来やせんやんない (出て来ないでしょう) 今しの (今の) インスタントの感じやなあ (感じです)。

ちゅうがた (中型)【名詞】 浴衣 じばん参照 染め模様の名、中ぐらいの大きさの型形で型置きして、地染めをして模様を白く抜いたもの。浴衣に用いられる事

から浴衣の別稱になった。〔会話〕腰巻、絞りのなかね（腰巻）とか チュウガタとか言うて。チュウガタで よお（よく）じんべこしらえおった（作って居ました）。

ちゅうがた【名詞】 20 屯以上 100 屯未満の漁船

ちゅうがっこ（ちゅうがくこ）【名詞】 中学校 末尾母音の省略（桑郡、員）〔会話〕中学言うてな チュウガッコい（へ）いとんねてわい（行っているそうだ）言うてな。

ちゅうぎだて（忠義立）【名詞】 とりたてて忠義らしく振る舞うこと おべっか 〔会話〕チュウギダテしてまあ言うて、義理たてんの（立てるのを）。義理立てするとなあ まあ あげん（あんなに）まで せんでもええのん（しなくてもよいのに）チュウギダテしてまあ言うてなあ。いっしょけんめん（一生懸命に）してくれるのも チュウギダテやし（です）、いかにも それみたよに（のように）すんのをなあ（するのを）、べつんも（特別に）忠義するよおにな 人に見せつける言う 格好ですんのも 有るし。

ちゅうけ【名詞】 脳卒中（脳出血 脳梗塞）発作後 後遺症として、片マヒ 單マヒ 対マヒを残した状態
ちゅうき 中気、脳卒中の通稱 中風 〔会話〕ちゅうぶ、こんにやく。こんにやくふるとるやんない（ふるえて居るでしょう）。そやもんで（それで）ふるとると（て居ると）チュウケい（へ）こんにやく 持たしたよおななあ（ようだ）言うて。中風（ちゅうぶ）の事を チュウケや 言うて。そして（そうして）しよんべしいんいて（小便しに行って）屁ひると（すると）チュウブや（と）言うて。誰でも しよんべ（小便）した後で、屁 ひるやんない（でしょう）。それやよって（それだから）ちゅうちゅう言うて しよんべしとるおりの（小便している時の）ぶう言うて、へるもんで（ので）ちゅうぶやなあ（だ）言うて。

ちゅうごし（中腰）【名詞】 腰をなかば曲げた状態（志（布施田））〔会話〕チュウゴシ言うと、えごつと（完全に）二つ折れんならんとなあ（にならずに）、ちよいと（少し）曲がんの（るのを）、チュウゴシン（に）なっとて（なっていて）、いとおて（痛くて）まあ言うてな。チュウゴシや（は）また 一番えらいね（大変なのです）曲つたると（てやると）ま ええねけど（よいのだが）。

ちゅうさ【名詞】 注射 ちゅうしゃの訛 〔会話〕注射の事を チュウサ言う人な（が）おるなあ（おります）。年寄り（老人）の人ら チュウサして言うて。

“しゃ”言うのを よお言わんで（よく言えないで）“さ”そのにげん（人、人間に）よって うなし（同じ）和具でも 言いよな（ようが）違う人が有るもんなあ（有ります）。そして 手術した言うのも しりつしてなら言うて、あのひた（人は）しりつしたんてわな（したそうだ）言うて。

ちゅうざい（駐在）【名詞】 巡查（南）〔会話〕けえさつ（警察）の時、チュウザイへ呼ばれてまあ言うてな。駐在所い（へ）呼ばれた言うてな、昔や（は）駐在所な（が）おとしかよおったね（怖かったのです）。子供のじぶんにや（頃には）じゅんさんさんや（巡查さんだ）言うて、じゅんさんさんな（が）くんど（来るぞ）言うてな、ちよいとわり（少し悪い）事すると。

ちゅうさばり【名詞】 注射針

ちゅうじき（ちうじき）（中食）【名詞】 昼食 ひるの食事 中食 一日二食の時、朝食と夕食の間にとる軽い食事（名、北、南）〔会話〕チュウジキ言うて、昼飯の事をなあ。昼飯食うの チュウジキしん（しに）行こやんか（行きましょう）言うてな。

ちゅうじろ（中白）【名詞】 白砂糖より少し赤味を帯びて、さらさらして居る砂糖 赤砂糖より薄い色をしている 〔会話〕さと（砂糖）げじろより、ちよいと（少し）色な（が）うっすいなあ（薄いのです）。げじろは真つ茶の、ちゃあ（茶）色しとるし（して居ますし）、チュウジロ言うな（のは）それより ちよいと色な（が）しらけとるなあ（白くして居ますなあ）。いくたて（幾通り）も有るわい（有ります）、げじろや チュウジロや さんぼんじろや（と）言うやんかい（言います）。さんぼんじろ言うのは しいろいのおを（白いのを）言うんやわな（言うのです）真白を。そして チュウジロや（と）言うな（のは）ちよいと赤味の色の付いとんの（て居るのを）げじろは ものすごお あっかい（赤い）茶色しとるし（して居ますし）、ざらめは、きざらは ぶつぶつしとるのなあ（して居ます）。あかざと言うな（のは）そのげじろやわい（です）。黒ざとやたらなあ（とか）。

ちゅうだい【名詞】 巡查 だい、ざいの訛 〔会話〕チュウダイ、駐在所言うのを チュウダイショ言う人もいくらも あんねてや（有るのです）。

ちゅうちやば【名詞】 縫い針の一種 ちやば参照

ちゅうちゅう【名詞】 1）鼠（志）、張）幼児語（志（布施田）、鳥、員、四、安、津、一、松、多、上、阿、張、度、北、尾、南、熊）2）雀 〔会話〕チュウチュウな（が）おられ（居ます）よけ（沢山）言う

て。2) 雀をなあ、チュウチュウな (が) まあ よけ
おってまあ言うし、1) 鼠でもチュウチュウや (だ) 言
うて。

ちゅうちゅうする 1) 吸う (上、阿) 2) あちらこち
ら、うろろする [会話] 2) こそこそ あっちゃ
い (あちらへ) 行き こっちゃい (こちらえ) 行き
すんのも (するの) チュウチュウと あっちゃい
行き こっちゃい 行きして言うてなあ、ちろまい (う
ろつく) するとなあ、チュウチュウ しやあるいて
(して) まあ言うてなあ。

ちゅうてんまい (宙天舞)。ちゅうてんまいり 1) 忙
しく働く きりきりまい 2) 飛び上がる 嬉しい時、
驚いた時などに [会話] チュウテンマイして チュ
ウテンマイリ した言うなあ (言います) びっくりする
と。ちくてんまいり とか チュウテンマイリ とか 言
うてなあ。ちくてんまいり言うたり (言ったり)、2)
チュウテンマイリしたよお言うて おどけて まあ (驚
いて) 言うて びっくり した時。うれして (嬉しく
て) チュウテンマイした言う時も有るしなあ (有ります)。
1) 大急で 何処か走ったりするよおな時や
(は) ちくてんまい、チュウテンマイしてた言うてな
あ。

ちゅうと (中途) 【名詞】途中 行く道の中程 仕事の
半分の事 [会話] チュウトハンパ、チュウトから言
うと、さなか (最中) から言うのなあ、チュウトから
ま、ほっといいていてまあ (放り出しておいて行って)
言うてなあ。途中から言うのをなあ、チュウトから、
ほっといいていて、あれ雇とたらまあ (雇ったら) 言う
てな。仕事の途中から抜けてくのをなあ (て行くの
を)、チュウトからほっといいていて。

ちゅうとなか 【名詞】途中であること [会話] チュウ
トナカからまあ言うて、チュウトナカから戻って来た
言うてな、仕事 さなか (最中) から 戻って来た言
うの (のを)、終らんうちん (間に)。チュウトナカから
ほっといいていて (捨てておいて行って) 言うてな
あ。チュウトナカで おおてなあ 言うて、道で お
おて (逢って) もなあ あの人ん (に) チュウトナカ
でおおたや (逢ったら) こげん (こんなに) 言うとた
よお (ていた) 言う時も有る。

ちゅうとはん (中途半) 【名詞】中途半 (端) どっちつ
かず 途中 (志 (布施田)、南) [会話] チュウトハン
言うと はんば (半端) な事を言うのなあ (ので
す)。今日は こげん (こんなに) しよお おもたけ
ど (思ったが) チュウトハンになって言うて、半端に

なってくと (行くと) 今日は チュウトハンやなあ
(だ) 言うて。半端になった事を言うのなあ (言うの
です)。一日すんのを (するのを) 半日ん (に) なっ
て チュウトハンになった言うて。一日すや (すれ
ば) きまんねけど (終了するが) 昼からやったもんで
(だったので) チュウトハンで残った言うて。

ちゅうば (中羽) 【名詞】1) 鰯の中位のもの 2) 下
駄の歯の少し高いもの [会話] 2) 高下駄のちよいと
たっかいの (少し高いのを) 且和下駄との あい (中
間) を チュウバや (だ) 言いおったけどなあ (言っ
ていました)。

ちゅうぶ (中風) 【名詞】中風 ちゅうぶうの末尾母音
の省略 脳卒中 ちゅうけ参照

ちゅうぶらりん 【名詞】【形容詞】中途半端 どちらに
もつかず中間でふらりと有る事 (鳥)

ちゅうら 舞い上る 夢中になる (志 (布施田)) [会
話] チュウラん (に) なつとる (なつて居る)。夢中
ん (に) なつて あや (あれ) チュウラん (に) なつ
とんない (なつて居る) 言うて。夢中んなる事を チ
ュウラ。見よまあ (見て見なさい)、うれして (嬉し
くて) うれして チュウラん (に) なつとられ (なつ
て居る) 言うたりなあ (言ったり)。あや (あれ) あ
の おとか (男は) あの おなごん (女に) チュウラ
んなつとんねまあ (なつて居るのだ) 言うて、夢中
んなつとる 言う事を チュウラんなつとる言うね
(言うのです)。

ちゅうらんなつとる 夢中になつて居る 舞い上つて居
る ちゅうら参照

ちゅっと 【副詞】素早く (志 (布施田))

ちゅんちゅん 【副詞】湯の沸騰している状態 (志 (布施
田)、南)

ちよいちよい 【副詞】1) 時々、少しの間を置いて同じ
事が繰返されるさま、たびたび ちよくちよく物事の
程度や動きが僅かで有るさま ちよいと参照 (志 (布
施田)、鳥 (神島)) 2) 時々、多少の時間が隔って
3) 少しづつ [会話] 1) チョイチョイ来るけどなあ
(来ます) あの人も チョイチョイ来るけど言うて、
たまに (時々) 言うのやなあ (言うのです) そお言う
ばやい (場合) は たまに来る言うのを チョイチ
ョイ来る言うなあ (言います)。チョイチ
ョイ来る言うなあ (言います)。チョイチ
ョイ来る言うしなあ (言います)。

ちよいちよいぎ 【名詞】普段着と晴着との中間の着物、

ちよつとした外出の時などに着る衣類（鳥、松、熊）
[会話] 普段着の事を つねぎや言うて。ふだん着、
チョイチョイギ、いっちよろ着 一番わがとな（自分
が）大事ののおを（のを）いっちよろ、チョイチョイ
ギは ちよいと（少し）ええほおや（よい方です）。

ちよいちよいにおおた からかわれた [会話] あれん
（彼に）チョイチョイニ オオタ（あった）言う時も
有るしなあ（有ります）。あやかされて（からかわれ
て）ちよからかされて（からかわれて）チョイチョイ
ニ オオタ 言うて そいな（そんな）時 使うなあ
（使います）。

ちよいと【副詞】 1）物事の程度や動きが僅かであるさ
ま ちよつと ちよい 少し（志（浜島、御座、片田、
国府、甲賀）、鳥（神島）、一、名、伊） 2）呼び掛け
の言葉 [会話] ① 少しや（です）少しの事を チョ
イト言うね（言うのです）。チョイト来てくれまあ
（ください）言う時も有るしなあ（有ります）、チョ
イトくれまあ（下さい）言う時も有るしなあ。物を
貰うのも チョイトくれえ（下さい）言うし。用事
（用件）が有る時に チョイトきてえ（来て下さい）
言うて言うしなあ（言います）。

ちよいとこいにゆだんすんな【俚諺】 ちよつと来いと言
う時は何事が起るか判らないから気を引きしめて居な
さい（志（布施田））

ちよいとちよいと 1）同じ程度であるさま どっこい
どっこい参照 2）呼び掛けの言葉 [会話] ① あれ
（彼）とあれ（彼）も たいがいよお（大体よく）似
たような もんや（者だ）チョイトチョイトやれ
（だ）。

ちよいとばか【形容詞】 少しばかり（鳥（浦村））[会
話] チョイトバカ 頼まれてくれ（下さい）言う時
ん（に）、チョイトバカ言うなあ（言います）。チョイ
トバカ くれえ（下さい）言う事も有るしなあ（有
ります）。皆 おなし（同じ）意味やわい（です）。チョ
イトバカ 頼まれてくれやええわい（くれればよいの
です）言うて、使う時も有るやんかい（有ります）。
ちよいと言う言葉の後に付ける言葉によって 時間にな
ったり、仕事になったり、ちよいと 此れくれえ
（下さい）言う時も有るしなあ（有ります）。ちよい
と言う言葉が中心になって それに付け足し（補助す
る）言葉が有る。おなし（同じ）事やけど（ですが）
少し言う事やけど それい（それに）言葉な（が）つ
いとんね（ついて居るのです）。その時によって ち
よいとしたてくれ（してやって下さい）とか、ちよい

と呉れ とか ちよいと来い ちよいとあつちや（あ
ちら）へ行けとか ちよいとが中心や（です）。

ちよいとも【形容詞】 少しも（志（浜島、御座、布施田、
船越、甲賀、片田、国府）、鳥（浦村））[会話] チョ
イトモ言うのも 少しも。

ちよいとやそいと【副詞】 少し、少し位 [会話] チョ
イトヤソイトで出来よかれ（出来ない）。ちよつとや
そつとで出来よかれ 言うのなあ（です）、すぐん
（すぐに）言うて 出来よかれ 言う事をなあ。チョ
イトヤソイトで 出来よかれ言うてなあ、だいい（大
分）根気な（が）要る仕事の時んなあ（に）、こやな
あ（これは）チョイトヤソイトで出来やせんわ（出
来ません）、まあ 且且（ひにち。日数）なあごお
（長く）かけな（なれば）言うてなあ。

ちよいなまか 少しの間にしてしまう 簡単に出来る
少しの間 [会話] チョイナマカかやれ（だ）、そい
なもん（そんなもの）するだけん（に）言うて。すぐ
にしたる（してしまう）言う事を、じっきん（すぐ
に）したる 言う事を チョイナマカやれ（だ）言う
の（のです）。そいなもん チョイナマカやれ おら
ん（俺に）さしときや（させておけば）言うて。

ちよいまき【名詞】 少し狂って居る [会話] まいて
（狂って）来たのも、チョイマキや（だ）言うて。ち
よいと おかしな（少し変な）事言うと あや（彼
は）チョイマキやどお（だ）言うて。

ちよいまけ【名詞】 少しの負け [会話] 勝負事でも
少し負ける ちよいと（少し）負けた言うのを、ちょ
こ負けしたとか、チョイマケとか。

ちよいまち 少し待つ事

ちょお（ちょう、ちゃう）（疔）【名詞】 皮膚の汗腺、皮
脂腺に化膿菌が入り皮膚や皮下組織に生ずる急性悪性
の腫物。赤く張れ上り 悪感発熱を伴ない、痛む。顔
に出来たものを面疔 頰に出来たものをくびきり疔と
言う。

ちょお（ちょう、ちゃう）（丁）（挺）【接尾語】 1）樽
や櫓などを数える単位

ちょお（ちょう、ちゃう）【名詞】 蜻蛉 おにやんまの
雌（志）[会話] とんぼ。とんぼのチョオ。がつたい
（雄）や、がしら（雄）や、とんぼや（だ）蝶や、鳥
のうち。チョオかりに（取りに 狩りに）よお行きお
ったやんかい（よく行って居たで有りませんか）、江
田（地名）のたあ（田）の方いも（へも）行くし（行
きます）浜いも行くしなあ。

ちょおいと（ちょういと）【形容詞】 少し [会話] 物

ちよいと (少し) 呉れると、こんに (こんなに) チョオイトや (だ)、しじめ (しじみ) 貝一杯程 無いなあ。

ちょおおち (ちょうおち、ちゃうおち) 記載洩れ 員数外のこと (志 (布施田)) [会話] チョオオチん (に) おおて (逢って) 言うて。連判状え 誰それ誰それでのせんのを (乗せるのを) 落しとるとなあ (ていいると)、チョオオチやったんな (だったのだ) 言うてな。

ちょおがみ (ちょうがみ、ちゃうがみ) 【名詞】大福帳などを綴じるのに用いる和紙 [会話] チョオガミ言うて、十一日ん (に) になると、帳始め、にりがみ (二厘紙) へ言うて、いちりはん (一厘半) の 雁皮は うっすいんなし (薄いのです)、にりがみ 言うて あつつうい (厚い) 紙でな、それを チョオガミ言うね (言うのです)。かんよくり (観世振り) すん (る) のでも、チョオガミやなけななあ (でなければ)、ほかん (他のは) 切れててはざんね (ていつていけないのです)。帳面作る紙 十一日ん (に) ちょおとじん (帳綴じに) になるとなあ、それで 帳こさえて (作って) えべっさん (恵比須さん) え さがら かけて (吊して) 一年中の漁の事をな、それい (へ) 皆 つけん のでなあ (記入するので)。そして十一日の ちょおとじや 言うてな ごっつおすんのなあ (御馳走するのです) ちょお始め言うて。

ちょおけ (ちょうけ)。ちょおけもん (ちょうけもん) 【名詞】お調子者 [会話] チョオケや (です) あの ひた (人は) ほんと (本当) の、おちよけや (だ) とか チョオケやなあ (だ) 言うて。ちょおける言うのもふざける。

ちょおけやい 【名詞】子供同士が格闘してふざけ合う事
ちょおけとる ふざけて居る (志 (甲賀))

ちょおける (ちょうける、ちゃうける、てうける) (嘲) 【自力下一】ふざける 戯むれる ちょおけもん参照 (志 (布施田、片田、浜島、志島、甲賀、国府、安乗、船越)、鳥 (鳥羽、加茂、答志)、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、上、阿、張、熊)

ちょおさいぼお (ちょうさいぼう、てうさいぼう) (嘲 齊坊) 【名詞】まぬけ おっちょこちよい 人を嘲弄する時や、口車にのって無駄骨を折ったり、お先棒を担いだりする人をあざけって言う語。馬鹿 人を嘲弄する時に用いる 多くは嘲齊坊にするの形で用いられる (志 (浜島、甲賀)、鈴市、員、上、阿、張、北、尾) [会話] チョオサイボオに、俺を すんねない

(するのだ) 言うてなあ。あんた (貴方) をなあ、わしら (私が) あれしてくれ (下さい)、これして くれ 言うて、言うて まあ 俺を チョオサイボオにして 使うねない (使うのだ) 言うて、あんた (貴方が) おこん (怒るのです)。馬鹿ん (に) する言う訳やねえけどな (で無いが) まあ、なんでもかんでも 俺 使う言うよおな 意味やなあ (です)。小使いみたよん (のように) 使う、言う意味やなあ チョオサイボオン (に) つこて (使って) 言うてな。

ちょおさいぼおにする (ちょうさいぼうにする) 馬鹿にする からかう (志、鳥 (鳥羽、答志)、員、鈴市、伊賀地方、北、尾) [会話] チョオサイボオン (に) おおて (あって) 言うて あんご (顎) で指図して、人 チョオサイボオン (に) シテ言うて 阿呆あつかいに あれせえ (しなさい) 此れしたれ (してやれ) 言うて、わがた (自分は) なんもせんとおつて (何もしなくて居て) はた (側) のもん (者) に、あれしたれ 此れしたれ、あれもて来い (持て来い) 此れもてこい すんのを (するのを) チョオサイボオン (に) ヒトヲツコテ (使って) 言うて。ちょおさいぼお言うのは 阿呆扱いする言う事やわ (です)。あれもしたれ 此れもしたれ 言うてなあ、あれん (彼に) 言いさい しゃ (言へさえすれば) なんでもするわ (する) 言う気持で、あや (彼は) あんごしよつて (馬鹿だから) おらな (俺の) 言うこた (事は) なんでも聞かれ (聞き入れる) 言うよおな気持で、それ言う (言います)。それをなあ チョオサイボオン (に) シヤレタ (された)、ちょおさいぼん (に) おらをつこて (俺を使つて) 言うて。

ちょおし (ちょうし、てうし) (銚子) 【名詞】酒を入れて燗をしたり盃に注いだりする瓶状の容器 [会話] チョオシ言うな あの ほれ (それ) とっくり (徳利) とつくりの事をチョオシ。膳へ チョオシー一本つける言うて、宿屋い (へ) いても (行っても) チョオシいっぽ (一本) 言うやんない (でしよう)。あれを言うの (のです) チョオシや (だ) 言うて。

ちょおし (ちょうし、てうし) (調子) 【名詞】調子 軽はずみ 状態 [会話] 人な (が) チョオシン (に) 乗って言うて。チョオシン (に) 乗って おだてな (が) 効くねよつてん (効くのだから) 言うて、おだてられんのを (られるのを) チョオシン (に) 乗る言うて。チョオシン乗って、あやれ あんごしねよつてん (馬鹿なのだから) 言うて。チョオシもん (者) 言ううな (のは) あんごしもんでなあ (ので) おだてられ

て する人を あや (彼は) チョオシもんやよって
言うんやわい (言うのです)。チョオシな (が) わり
(悪い) 言う時ん (に) なんか (何か) 機械のチョオ
シな (が) わり (悪い) とか、体のチョオシな (が)
わり とか 仕事する時ん (に) なんか、しのくい
(しぬくい) と えらいこや (大変此れは) チョオシ
な (が) わりなあ 言う時も有るしなあ (有ります)。
体のチョオシな (が) わり言う時は 何処か ふあん
ばいな、頭な (が) 痛いとか、腹な (が) にかにかす
るとか言う時んなあ (に) 寝とる (寝て居る) よおな
事はないけども (が) どっか、わり (どこか悪るい)
と、体のチョオシな (が) わり 言うてなあ (言いま
す)。今日は体のチョオシな (が) わりて なんもし
たない (したくない) 言うて、よお言うなあ (よく言
います)。そして 仕事な (が) 出来にくい (ぬく
い) 時でも、今日はチョオシな (が) わりて 仕事な
(が) 出来にくいよお言うて、仕事な (が) うまい事
いかんと (上手に行かないと)。機械のチョオシな
(が) わり とか、仕事する その ぐあいなわり
(状態が悪るい) とか言うて、チョオシな (が) わり
いて (悪くて) 言うてなあ (言います)。

ちょおしづく (てうしづく) 【自カ五】 1) 順調に進む
調子にのる 煽てにのる 2) ふざける 甘える
(尾) [会話] 1) 調子ん (に) 乗って まあ なんも
かも (すべて) 皆 ほり出して来たれ (放り出して来
た) 言うて。お前ぎや あれも有る、これも有るな
言うとなあ、まあ これもあられ (有る) あれもあら
れ 言うて、出してくんの (来るのを) チョオシヅイ
テまあ言うて、わる口で言うて、そげん (そんなに)
言う言葉やなあ (です)。

ちょおしなわり (ちょうしなわり)。ちょおしなわるい
(ちょうしなわるい) 1) 不健康である 2) 用具の
状態が悪い ちょおし参照 (志 (鶴方、神明、立神、
志島、甲賀、国府、安乗))

ちょおしもん (ちょうしもん、てうしもん) 【名詞】
調子者 ほめられたりするとすぐ得意になって勢いず
く人 軽々しく調子に乗る人 ちょおし参照

ちょおしもん (ちょうしもん、ていしもん) 【名詞】
その時の状態の如何によって、左右される事、調子物

ちょおじゃ (ちょうじゃ、ちゃうじゃ) 【名詞】 1)
長者 金持ち 富豪 財産家 2) 着て居る物の数を
数える時の語 [会話] 2) 福 徳 びんぼ (貧乏) し
よおない 金持 チョオジヤ言うて、きもんかんじよ
すんのんなあ (着物数える) 言よおった (言って居ま

した)。

ちょおじゃにこなし、しぶがきにたねおおし 【俚言】 貧
乏人の子沢山 貧乏な家は子供が多いが、金持ちの家
に子供が少ない [会話] 渋柿や (は) 種な (が) 多
いやんな (でしょう)。こおな (子が) よけ (沢山)
有る家はなあ 渋柿や (だ) 言うて。五所柿みたよな
(のような) それも有るし、びんぼ (貧乏) の子沢山
言うのも それん (それに) 例えてあんね (有りま
す)。

ちょおじり (ちょうじり、ちゃうじり) (帳尻) 【名詞】
帳簿の収支決算、転じて事のつじつま 事の結末

ちょおしん (ちょうしん) 1) おだてられて得
意になって物事をする いい気になって うわついた
行動をする 2) 仕事などが順調に進む (伊賀地方)
[会話] 1) ちょおしづくも 一緒にの事や (です) チョ
オシンノッテ、ちょおしん乗せられて まあ言うてな。

ちょおず (ちょうず、てうず) (手水) 【名詞】 1) 便所、
手水 てうず てみず 手や顔を洗うための水 洗面
(志 (布施田、国府、浜島、的矢、名田、鶴方、神明、
立神、甲賀)、鳥 (鳥羽、菅島)、桑郡、員、三、四、
安、津、久、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、
北、尾、南、熊、2) 大小便を婉曲に言う (志 (布施
田、国府、的矢、名田)、桑郡、三、四、一、多、上、
度、南) [会話] 1) チョオズ 便所のこと せんちや、
せんち、ダブルシイ (WC)。せんちやてら (だと
か) せんちやてや やら おら (俺は) せんちやいい
こお (行つて来ましょう) 言うて よお言いおったな
あ (よく言いました)。はこ (大便) してこお てや
らなあ (行つて来ようとか)。はこ 言うて、べつん
(特別に) 汚いよなけど (ようだが)、はこ さして
くれ (下さい) 言うたら、はこ ささせん (させな
い) 言うて。おしよさんな (和尚さまが) はこ ささ
せんねてや (させて呉れません)、はこ さしてくれ
出てくんねてや (来るのです) 言うてなあ、はこや
(だ) 言うもんで (ので) なんやら判らせんわいなあ
(何か判らないのです)。お爺さん はこ踏んだ言う
と、おお 箱ならかまへんわ言うて 子供あ (は) は
こ (大便) 踏んだて (でしまつて) 汚いもんで (の
で) なつともかつとも (どうにも) よおせんもん (よ
うしないのに) 箱ならかまへんは言うて 爺や (は)
入れ箱踏んだた (でしまつた) おもて (思つて)。べ
ん (便) 言うて べんな (が) 有つてええなあたら
(よいですねとか) 言うて、びん (便) 言うのを べ
んな (が) よおて (よくて) 言うやんかな (言いま

す)。便利言う事やなあ(です)。べんな(便が) よおて(よくて)言うて、今しやったら(今だったら) びん(便)言うのを それを そいな事言よおったのんなあ(言って居たのです)。

ちょおずば 便所

ちょおずばち (ちょうずばち、てうづばち) 【名詞】

便所の手洗水を入れる鉢 [会話] チョオズバチ、便所い(に) おいとよおったなあ(置いていました)。鉢をなあ。うめがいの チョオズバチ叩いて お金が出るなれば 世界 びんぼ(貧乏)する人は無い言うて。

ちょおずをする (ちょうずをする) 大便をする (志(布施田)、鳥(長岡))

ちょおせんあさがお 【名詞】植物 ひるがお ヒルガオ科のつる性 多年草、根茎は白色で、地中をはう、茎は細く、他物にからんでよじのぼる。葉は、長柄をもち、互生、矢羽形で茎部が切れこみ、長さ 10cm、夏、梢上の葉腋に直径 5cm 位の淡紅色の漏斗状花を 1 ケつける。萼の外側に先の尖った卵形の苞葉が二個相對してつく。花は日中に咲くのでこの名である。

ちょおせんおけ (ちょうせんおけ) 【名詞】海女が朝鮮に出稼ぎに行くのに持つ大きな磯桶 [会話] チョオセンオケどいらいんやんかい(大きいのです)、朝鮮行く時使うだけやけど(だが)。

ちょおせんごなし (ちょうせんごなし) 【名詞】朝鮮まで出かけて行く程気性の激しい人 朝鮮迄出掛けて仕事をして来た海女 [会話] チョオセンゴナン、朝鮮いて来て(行って来て) えらいのおを(偉い人を)。

ちょおだ (ちょうだ) 【名詞】寢室 (志)

ちょおちょ (ちょうちょ) 【名詞】町長 (南)

ちょおちょ (ちょうちょ、ちょうちょ、てふてふ)

【名詞】1) 蝶(志摩市全域) 2) 頭髮の結い方の一つ 蝶蝶髻 [会話] チョオチョ、チョオチョ。2) 頭(頭髮)を結うのも チョオチョん(に) 結うてもろて(貰って)言うて。たてながを かいんいて(買いに行つて) 髪結うてくれえ(下さい)言うて 頼んでもろてのお(もらいました) 家の人らん(に)、結うて貰いおったの(貰って居たのです)、そして 牛若丸みたよん(のように) たっこお(高く) 頭の上い(へ)して チョオチョん(に)して 結うてもろて(貰って) ほん(本当に) 嬉しがって。たてなが言うて 紙でなあ 此の位ばかの(ばかりの) 巾で すつとしとて(して居て) はす(斜)にしてあって、それに 色々の ええな(絵が) 描いて有つて それを

チョオチョのなかい(へ) 両方から 通してくるんやんかな(来るのです)。そしといて(そうして) あとは(残りは) リボンみたよん(のように) こやつてして(此の様に)して) 嬉しかりおつたなあ(かったものです)。

ちょおちん (ちょうちん、ちやうちん) 【名詞】提灯

1) 鼻汁が息で丸くふくれあがつたもの 2) 幼童の髪型 [会話] 2) みつびん言うのは、両方と上と 丸髻 結うたり、島田結うたり、すんの(するのを) みつびん言うて。チョオチン結うたり、三つ有るもんで(ので)。

ちょおちんぐみ (ちょうちんぐみ) 【名詞】植物 ぐみの一種 あかすぐり かさすぐり [会話] ぐみ 吊

つとるやんかい(さがっているでありませんか)。提灯みたよん(のように) あれを、チョオチングミ言うの(のです)。そして まるくとおしとんのをなあ(丸くしているのを) しんしゅうぐみ言うんなし(言うのです)、チョオチングミ言うななあ(のは) いくつば(幾粒) 連なつて吊んの(るのを) あれ チョオチングミ。

ちょおちんもち (ちょうちんもち、ちやうちんもち)

(提灯持) 【名詞】1) 他人の手先に使かわれて そ

の人の長所を吹聴してまわること 又その人 2) 仲人 仲介人 (志(布施田、神明、立神、志島、甲賀、国府)、北) [会話] 2) チョオチンモチ(橋渡し、仲立)してとか、はしわたしてとか言うて。

ちょおちんや (ちやうちんや) 【名詞】提灯を作る時、下描きをなぞつて模様を入れる事から、物の上をなぞる事、又その人

ちょおつがい (ちょうつがい、てふつがひ) (蝶番)

【名詞】体の関節 [会話] かつたいもん(堅い物) 嚙むと、チョオツガイ うちやつたる(壊わしてしまふ) よおな 気な(が) する。

ちょおつがいなはずれる 脱臼する

ちょおづけ (ちょうづけ、ちやうづけ) (帳付) 【名詞】

帳簿に記入する事 帳面に収納などを書きつけ る事、又それをする人 [会話] チョオツケ、帳面つける言う事をなあ。あの家の チョオツケん(に) 頼まれて言うてなあ。かとぶね(鯉舟)の旦那の家い(へ) 頼のまれてくと(て行くと) ○○丸の チョオツケん(に) 頼まれとんね(ているのだ) 言うてな。かいけえ(会計)の事をなあ、チョオツケや(だ) 言うて。

ちょおつなぎ (ちょうつなぎ) 【名詞】多くの蝶の形に似て居るところから、開き戸や開き蓋など一方の端を

軸として開閉出来るように取りつける金具 蝶番（ちょうづがい）[会話] チョオツナギ、蝶番言うの 開き戸につけてすんの（するのを）蝶番。

ちょおづら（ちょうづら、ちゃうづら）（帳面）【名詞】

記帳されて居る状態 表むきの勘定 帳面づら[会話] 帳面のつら見て、チョオツラ見て おらげ（我家）も 出そやんか（出しましょう）言うて。香資の割り当て、チョオツラ 見といて（見ておいて）おらげも しょおやんかれ（しましょう）言うてな。どこそこな（が）幾ら、しとると（していると）おらげも、チョオツラ みといてしょおやんかれ 言うてな。帳面に書いて、有るのを その金額をなあ どこそこな（が）幾ら言うて 書いて有る。その チョオツラを みといて おらげも 出そやんかれ（出しましょう）言うて、寄付するとか、香資するとか言う時やなあ（です）チョオツラ みといてからせななあ（見ておいてからしなければ）。

ちょおど（ちょうど、ちゃうど）（丁度）【副詞】 1)

ぴったり合う事 2) あいにく 運悪く（志（浜島、国府）、鳥（国崎、桃取））[会話] 1) チョオドええなあ（よい）言うて、きちんと合う事をチョオドなあ（です）。2) も一つ 生憎言うんか チョオド持ち合わせが無いとか そいな（そんな）時も使うなあ（使います）。きちんとなった事 チョオド一杯ん（に）なったなあ言うて言うし、なんやかやいるのに 持てこらった（必要なのを持って来なかった）チョウドのもんやったなあ（物だった）忘れといてきたよお（ておいて来ました）。チョオド切らしとんね（て居る）言うて、物が無い きれとるとなあ（無くなっている）、そすとまあ ええとこい（よい所へ）来ると チョオドええとこへ来た言うし（言います）。チョオドええとこへ、来たわい（来ました）はよ喰をやんかい（早く食べましょう）言うて、飯喰いどきん（食事頃に）来ると。

ちょおとじ（ちょうとじ、ちゃうとじ）（帳綴じ）【名詞】

帳面を綴じる（作る事）事、正月十一日その年の収入を書く帳面を作る 水揚げ帳 大福帳を作る。ちょおはじめ参照

ちょおどのとき（ちょうどのとき）【名詞】

丁度の時都合がよかったり悪かったりする時 [会話] チョオドノトキん（に）来たなあ言うて、御飯 食べよか（食べましょう）言うて、ごつつおしとると（御馳走していると）その人 よぼ（招待しよう）おもとらへんよって（思っていないから）、家内だけで 食べて

せなはざんとこい（しなければいけない所へ）来ると、チョオドノトキん（に）来たれ言うて、足らんやんない（でしよう）食べ言うて 食わしたると（食べさせてやると）。そすと 腹一杯食うのを控えて チョオドノトキやなあ（だ）言うて。

ちょおどのとこ【名詞】 あいにくの所 ちょおどのときに略同じ

ちょおどのもん（ちょうどのもん）【名詞】 1)

あいにく 運悪く（度）2) 丁度よい時 3) 大変な人 [会話] 3) チョオドノモンに、おおたもんや（逢ったものだ）。おおて（逢って）わり（悪い）人ん（に）おおたてのけとなあ（逢ってしまうと）チョオドノモンに おおたてのけて（逢ってしまったて）まあ 借金せめられたよお言うて。あれん（彼に）金、借りんいこ（に行こう）おもとんのん（思っているのに）ま ちゅうとなかでおおた（途中で逢った）、こおこおで わしとか（私の所は）金な（が）いんね（要るのです）なんとか 出来やせんかい（出来ませんか）言われて、言われたもな（者は）チョオドノモンにおおたれ（逢った）言うて。

ちょおはい（ちょうはい）【名詞】

大切にする 丁寧にする [会話] チョオハイ言うて、大事（大切）にする。大事のもん（大切な物）を丁寧にするやんない（でしよう）、ほん（本当に）チョオハイニにしとるもん（している物）を 借りん（借りに）来て。

ちょおはじめ（ちょうはじめ、ちゃうはじめ）（帳始）

【名詞】正月十一日帳面の祝をする 帳祝い 正月四日か十一日に商人が帳簿を新しく綴じて祝う事 帳綴じ（志、伊）[会話] 十一日 チョオハジメ 帳綴じなあ（です）。しょうがつ（正月）の十一日ん（に）チョオハジメで、帳綴じで にり紙（二厘紙、和紙）で。とじる言うて しまう（終る）言う意味やけど（ですか）帳面 綴じんのおを（綴じる、束ねるのを）紙こおて（買って）来て、帳面こしらえるのを（作るのを）帳綴じ言うの（のです）。紙をこおて来て 二つん（に）折って わがうち（私家）でこさえて（作って）なあごお（長く）して かんよくり（かんぜより）でして こさえおったの（作って居たのです）。そして（そうして）十一日チョウハジメ言うてそれは じょおし（漁師）の家な（が）おもんしよおったけど（主にしましたが）十一日や（は）漁師の祭りやもん（です）。はつか（二十日）は えべすこ言うて、商売人の人らな（が）祝うの（のです）。十一日は、じょおしの祝い、昔や二十日 えべすこん

(に) になると ごっつお (御馳走) して 商売人の家はなあ 二十日にすんねよってん (するのだから)、じょおの家は十一日ん (に) チョオハジメ言うて、大きな家ら (は) 大ごっつおして 皆 かこ (水夫) 呼びおったね (招待して居たのです)。その時に仕事始め チョオハジメ言うて、その時に 帳綴じて えべっさん (恵比須さま) へ吊るして そんで チョオハジメ言うて、大福帳みたいな (のような) 格好で作る。一年中の漁になったとか いりよお (必要経費) とか言うもんを (物を) 皆 それいつけて (それへ記入して) 今日は、いくらん (に) になった言うて それいつけんのなあ (記入するのです)。

ちょおはり (ちょうはり) (帳張) 家を建てる時に柵を作り、糸を引っ張って建てる位置をきめること やしきどり参照 [会話] 家、建てる時んだ (に) 地ならししたり、杭 打って 糸 張って きいすんの (木するのを) チョオハリ、チョオハリしたよって (から) 建前出来られ (上棟式出来る)。

ちょおほ (ちょうほ) [名詞] 大切に 大事に ジュウハウ (重宝) の誤り訛った語 (員、鈴郡、鈴市、張、名、伊) [会話] からすご (からすうり) 魔よけや (だ) 言うて 昔の人ら (は) あれを チョオホに しよったんなあ (して居ました)。

ちょおほお (ちょうほう、ちやうほう) (重宝) [名詞] 大切に 便利に [会話] こっばり下駄や (だ) 言うて、どいらい (大変) チョオホオがりおった (しました)。

ちょおほおする (ちょうほうする) 便利で都合のよいものとして使用する 大切にする [会話] 蜜柑一つもらうと チョオホオシテ、今しみたよん (今のよう) に がぶがぶ喰わせんの (食べないのです)。

ちょおほおがる (ちょうほうする、てうはふがる) 【他ラ五】 貴重に扱かう 便利に思う [会話] ちょおほおな もんや (物だ) 言うて、こや (これは) ま どいらい (大変) 高価なもんやのお (物ですね)、値打ちなもんやのお 言うのを、ちょおほおなもんやなあ (物だ) 言うね (言うのです)。大事のもんを とつと ときのもん (取って置き物) を 見せてくれると ちょおほおなもんを 見せてもるて (貰って) 言うてな。使うのに勝手な (が) よおて (よくて) 道具でも チョオホオガル 言うて、使いやすいと、人でも 尻が軽らいし なんしてくれ (下さい) 言うても 気嫌よお (よく) するし、そすと チョオホオガラレテ、使われるのをなあ、あの人は 何処い (へ) いても

(行っも) チョオホオガラレテ言うてなあ。

ちょおま (ちょうま) (帳間)。ちょおまちょおま [名詞] 所々 (志 (布施田)) [会話] チョオマ、チョオマ。所々言う事やなあ (です)。チョオマ、チョオマ い (へ) 置いとけ (ておけ) 言うて 座敷 (招宴の席) でも 魚も刺身も煮付け (煮魚) も言うて。チョオマチョオマイ (へ) それを置いとけ言うて、所々言うのを チョオマチョオマ。

ちょおまん (ちょうまん、ちやうまん) (腸満) [名詞] 腹がはる事 腹腔内に液体やガスがたまり腹のふくれる病気 腹膜炎 腸閉塞など

ちょおむすび (ちょうむすび、てふむすび) (蝶結)

[名詞] 結んだ形が蝶の形になる結び方 ひきほどき女結び きつちやむすび参照 [会話] チョオムスピんすんな (にするのは) おなごむすび (女結び)。

ちょおめえ (ちょうめえ、ちやうめい) [名詞] 長命ふつうより長く生き長がらえる事 長生き 長寿 [会話] チョオメエ、長生き。親の長生きや (は)、子の毒や (だ) 言うて。

ちょおめんつけ (ちょうめんつけ) [名詞] 書記 記録係 (志 (布施田)) [会話] はかり取り言うて 秤取る人な (秤取の人が) 一人立っとて (立って居て)、そすと (すると) チョオメンツケなおって (が居て)、チョオメンツケと、秤取りと 二人。

ちょおめんつける (ちょうめんつける) 記載する 1) 会合の出席を記名する 2) 漁獲量を記録する

ちょおらい (ちやうらい) (頂礼) [名詞] 頂載礼拝の略 (大言海) 拝む事 最敬礼

ちょおり (ちょうり) [名詞] 長里 長い距離 [会話] なだ言うのは、チョオリ 隔だつとんのおを (隔だつてゐるのを)、渡んのを (渡るのを) あの灘一つ 超えやなはざん (なければいけない) 言うて、周防灘とか 玄海灘とか。

ちょおんのる (ちょうんのる) 調子に乗る つけあがる [会話] チョオンノル言うて、つきやがって (つけあがって) 来る言うのなあ (のです)。チョオンノル言うて、あまあま言うと (甘く言っていると) チョオンノツテ来て、言うのなあ。甘えかして (させて) それい (それに) 乗ってくんのを (来るのを) チョオンノル言うて、調子ん (に) 乗る言う事を、甘えて 自分でせんと (せずに) 人ん (に) 甘えて、人当てん (に) して、チョオンノル。

ちょか [名詞] 1) 軽率で落ちつきのない者 (上、阿、張、名) 2) 余計な手出し、口出しをする者 [会話]

1) あや (彼は) チョコスカやどお (だ) 言うて。ひよ
かすか。ひよかすかやなあ (だ)、まあ、人の言う事
を 上の空でなあ 聞いて (ていて)、あや (彼
は) ひよかすかでなあ、あれん (彼に) 言うたて
(言っても) はざおかれ (駄目だ) 言うて。ひよかす
かやれ (だ) あや (彼は) 言うてな。人の言う事 軽
る軽い受けとる にげ (人間) をな チョスカで
じっきん忘れたて (すぐに忘れてしまって) はざをか
れ 言うてなあ。

ちよかす からかう だます [会話] チョカス、ちゃ
かす ちよっからかす言うのなあ。俺 ちよっからか
しとんね 言うて、ごおわかして (腹立てて) 来る人
な (が) 有るやんかなあ (有ります)。

ちよかすか【名詞】 軽率にふざけたりする人 落ちつき
のない者 ちよか参照 [会話] チョカスカ言うな
(のは) ふわらふわらしとる (して居る) 事なあ (で
す)。しまりの無い事を ほんとん (本当に) チョカ
スカやなあ (だ) あや (彼は) 言うて。

ちよかちよか【副詞】 1) 落ちつきのないこと そわそ
わ (南) 2) 調子に乗ってふざけさわぐ 又その人

ちよがとる 尖っている [会話] 尖とる (てい
る) 言うのを、チョコガットル言うてな。

ちよからかす【他サ五】 からかう なぶる もてあそぶ
[会話] 馬鹿にしとる (している)、俺 なめとて
(なめていて) 言うてな。人 馬鹿にしとる 言うよ
おな 意味やわいな (です) チョカラカス言うのは。

ちよがらかす【他サ五】 尖がらす [会話] 尖らす。先
を チョガラカス 言うて、尖らすのおを (のを) 言
うんやろなあ (言うのでしょう)。チョコガラシトケ
(ておけ) 言うてな、先な (が) とがとる (てい
る) 言うのを ちよぎとる 言うね (言うのです)。

ちよからす 馬鹿にする からかう

ちよがらす 尖らす 先端を鋭くする ちよがらかす
[会話] 尖らす事を チョガラカス言うね (言うので
す)。

ちよがる とがる

ちよき (猪牙)【名詞】 猪牙船の略 和船の一 江戸時
代市中の水路で大量に使用された 一人又は二人漕ぎ
の屋根の無い船で、舳が長く船足が早い。瀬戸内を主
とする関西方面で近距離の海運に使用された、小型船
の一舟型。(志 (布施田)、北 (須賀利)) [会話] チ
ヨキ、船 チヨキやてら (だとか) チョロやてら、ず
んどや (です)。昔や (は) チョロ言うのな (が) 有
って おもてな (舳が) ついとんの (付いて居るの

を)、それからこんだ (今度)は ずんどん (に) なっ
て、おもてな しゅつと しとんのおな (して居るの
が) チョロ。そして (そうして) おもてな すとんと
しとんな (のは) ずんど。おもて言うのは 先の方
表の先ななあ (が) すとんとしてあんな (あるのは)
ずんどや (と) 言うて。チョコロから ずんどおん
(に) なってなあ。あいな (あんな) 先い (へ) 出と
らんでもええもん (出て居なくともよいのです)、ぶ
つかんのん (かるのに) 出とや (出て居れば) 邪魔ん
なんのん (になるのに) あや (あれわ) なとして (ど
うして) あいなの (あのような物を) しとんかいな
あ (して居たのでしょうか)。そやけど (しかし) 舟
曳く (曳き上げる) 時ん (に) 横ん (に) し、縦ん
(に) し、すんのん (するの)に おもて かずいて
(かついで、担つて) ひねると 舟な (が) 担ぎやす
かったんやろのお (のでしょう)。あれわなあ 舵な
(が) 取りよいねやろなあ (やすいのでしょう)。舟
曳いても すべり (舟を曳き上げる時舟の下に当てる
堅い木) やっても (当ても) おもて持って あっち
やい (あちらへ) やり こっちや (此処ら) いやり
かずいて (担つて)。

ちよぎとる 尖って居る [会話] 先な (が) とがつ
とる (ている) 言うのを、チョコギットル 言うね (言
うのです)。

ちよぎらかす。ちよぎらす 尖らせる (志、鳥 (石鏡)、
飯) [会話] 杭を鉋で つついて チョコギラカシテく
れまあ (尖らして下さい) 言うて。あれ又 すんのも
えらいね (するのも大変なのです)。きいな (木が)
かったい (堅い) 木、やいこいきや (柔い木は) ええ
けど (よいが) いまめやどけ (うばめ櫓など) 杭 チ
ヨギラカスの (のは) いっしょおけんめや (一生懸命
です)。鉋な (が) よお切れると (よく切れると) え
えんけど (よいのですが) 切れやせんもんで (ないので)
つつきさがしてなあ、チョコギラカスのん (のに)。
ちよんぎとる (て居る) 言う と 尖つとんの (て居
るのを)、チョコギラカシテくれ (下さい) 言うな (の
は) まるくとおしとんのおを (丸くして居るのを) 鉋
で つついて チョギラカスの (のです)。ちよぎる
言うのは、尖つとる (て居る) とんがつとんのおは
(て居るのは) ちよぎとて (て居て) 危ないどお
(ぞ) 言うて。

ちよぎる 1) 尖る 先が尖って居る (飯、度) 2) 手
軽に切る、ちよぎらかす参照

ちよぎれてく 切れて行く

ちょぎれる 切れる もげる

ちょく(猪口)【名詞】 酒を注ぎ入れて飲む陶製の小さな器、上が開き下がくぼんだ小形の盃 燗徳利と対で普通に用いられる。(志(立神)、熊)【会話】 チョク 盃の事なあ(です) チョクや(と) 言うてなあ(言います)。チョク うつぶけとけ(うつむけておけ) 言うて、膳え(へ) みな(全部) チョク うつぶけて、そして(そうして) 今し(今) で言う と 乾杯する時に まくつて(かえして) 一杯つ(づつ) つんでもらいおったなあ(ついで貰っていました)。

ちょくちょく【副詞】 しばしば わずかな間を置いて同じことが繰り返される(志(布施田))【会話】 ちょい ちょい言うね(言うのです)。チョク チョク来るなあ(来ます) あれも(彼も) 言うてなあ(言います)。

ちょくつとる 馬鹿にしている からかって居る【会話】 人あやかす(馬鹿にする)のを、人、チョクツトネ言うて、俺 チョクツトル言うて。

ちょくなこと 丁度よい事【会話】 こや ちょくなやんかあ(でないか)、ちょくななあ(だ) 言うて。丁度ええ(よい) 言うのをなあ チョクナコトやれ(だ) 言うて。

ちょくなところ 丁度よい所【会話】 丁度 ええところ(よいところ) 言うのなあ(です)。チョクナトコやなあ(ところだ) 言う、そのぐらいな(が) 丁度 ええところやなあ 言う事やなあ(です)。

ちょくる【他ラ五】 からかう 愚弄する あざける おちょくる(上)【会話】 チョクル言うのは そばやかす(戯れる)、人 チョクル言うて あなどる言う事やなあ(です)。人 チョクツテ言うんよつて(言うのだから) おら(俺を) チョクツテ、あの 言う事見よまあ(見なさい) 言うて。

ちょけ【名詞】 ひょうきんな人 おちょけ(志(立神)、張、北、尾、南、熊)【会話】 チョケや(だ)。人に よけじゃれる(多く戯れる) 人なあ(です)。あや(彼は) チョケやなあ(だ) 言うて、よけ ちょおける(沢山戯れる) にげな(人、人間が) 有るやんかい(有ります)。男の人らでも おなごらん(女に) ちょおけて、尻 いろいん(いろいに) 来たり、乳 いろいん 来たりすると、おおた(あゝ) ちょおけてすかんわ(嫌だ) 言うてなあ。

ちょけちょけする ふざける

ちょけちょけすんな ふざけるな【会話】 あんまり(あまり) はしゃいだりすると チョケチョケスンナ

言うけどなあ。

ちょけらかす からかう 愚弄する(尾、南)

ちょける ふざける(志(片田、浜島、船越、鶴方、立神、国府、安乗)、鳥(加茂、鳥羽、答志)、桑市員、四、鈴郡、鈴市、安、津、久、一、飯、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊)

ちょこ(猪口)【名詞】 ちょくに同じ 杯 さかづき ちょくの訛【会話】 盃の事もチョコ、酒を注ぐ杯の事。

ちょこ【名詞】 小さい人【会話】 チョコやなあ(だ) あや(彼は) 言うて ちっさい(小さい) 人ら あの チョコな(が) 言うて、子供らな(が) ちっさいの(小さいのを) チョコ、大人でも ちっさい(小さい) 人ら あや(彼は) チョコや(だ)

ちょこ【名詞】 女陰 女性器 おちょことも(志、鈴市、北、尾、南、熊)

ちょござい(猪口才)【名詞】【形容詞】 小生意気な事 又そのさま そのような人(員、津、上、阿、北)【会話】 チョコザイな、なんの小癪な チョコザイな。さいそし(差出まがしい) 事言うて 言うてなあ。小癪も チョコザイも 一緒やわい(です)。

ちょこちび【名詞】 1) 少し小さい 2) 少し吝ちである【会話】 2) チョコチビ言うな(のは)、ちょいとちびる(少し出し惜しむ)。

ちょこちょこ【副詞】 1) 僅かの間をおいて、回数を重ねるさま しばしば 度々 ちょくちょく ちょいちょい(志(鶴方、神明、立神、志島、国府)) 2) 小股で早く歩き 又は走るさま 3) 落ちつかずいつも働きまわって居るさま 4) すばやく 手際のよいさま【会話】 1) チョコチョコ。時々言う事やるなあ(でしょう)。時々来る言うよおな事やねんかい(事でありませんか)、ちょいちょい言うなあ(のは)、時々とか 度々とかなあ。3) 落ち付かんと(ず)におるのも チョコチョコすんな(するな)。いそいそと すんな とかなあ、言うけどなあ(言います)。いそいそと てやら(とか) せかせかと かせわし(せわしい) 事なあ(です)。せかせかすんなまあ(するな) かせわしのん とか、ごちゃごちゃすんな とか言うて。

ちょこちょこあるき【名詞】 小股で早く歩くこと【会話】 チョコチョコアルキ、子供な(が) 歩きかけて来るとなあ、チョコチョコアルキやなあ(だ)、まだ言うてなあ。そして 大人でも小足に歩く人をなあ あのひた(人は) チョコチョコアルキやなあ(だ) 言

うて。

ちょこちょこぎ【名詞】 外出着 晴れ着よりも悪く普段着よりよい (桑市)

ちょこちょこつと【副詞】 簡単に すばやく 短時間で (南) [会話] チョコチョコット いて来るわ (行つて来ます) 言うたりな。チョコチョコット 出来よかれ (出来ません) こんななあ (これが) 言うて。時間な (が) かかられ (掛かる) 言うのを、チョコチョコット 出来やせんわれ (出来ません) 言うて、チョコチョコット したろ (してやるお) おもたやなあ (思ったら)、なかなか 出来やせんわれ 言うて、簡単に言う事。

ちょこちょこばしり【名詞】 小股で急ぎ足に走るさま [会話] 早や走りに 行くのなあ (のを)、チョコチョコバシリや (です)。郵便さん (郵便配達の人) と、寝たや (たら)、チョコチョコバシリの子な (が) 出来た言うね (言うのです)。郵便さん、いつでも チョコチョコバシリや (です)。

ちょこつと【副詞】 すこしばかり 少々 ちょつと 数量、程度が僅かなさま 軽い気持で行うさま (桑郡、員、三、鈴郡、安、一) [会話] 今迄 出て来た ちょいとは少し言う意味。少し言う事や (です)。そすとチョコット言うのも 一緒や (です)、皆一緒や。一口ん (に) 言う と ちょいと 言う事やなあ (です)。ちょいと 少し言う事や (だ)。

ちょこま 1) 小さい 2) 少し負けた [会話] 1) ちっさい (小さい) あひた (人は) ちっさいなあ 言うの (のを) チョコマやなあ (だ) 言うて チョコマンやなあ (だ) 言うて、ちっさいと、チョコマン。なんでも (何でも) 物な (が) ちっちょおても (小さくても) チョコマンやなあ (だ) 言うて。2) 勝負事で少し負ける、ちょいと (少し) 負けた言うの (のを) チョコマケした、ちょいまけとかなあ、ちょいまけやった (だった) 言うて、よお言う (よく言います)。

ちょこまい うろろと、あちらこちらうろつく [会話] ちろまい言うて、ちろまい すんなまあ (するな) 言う時も 有るけどなあ (有ります)、うろろとしとんのをな (しているのを) よけ (あまり) チョコマイ チョコマイとまあ言うて、子ららを わるう (叱る) 時んなあ (に)、チョコマイ すんなまあ、めざわり んなられ (になる) 言うてなあ。

ちょこまか【副詞】 落ちつかないであちらこちら動きまわるさま [会話] チョコマカ、チョコマカと まあ、ちっさい (小さい) 子な (が) 歩いて来るとなあ、チ

ョコマカチョコマカと 可愛らしなあ言うて。

ちょこまけ【名詞】 少し負けること [会話] 勝負事な (で) ちょいと (少し) 負けた言うの (のを) チョコマケした。

ちょこまん 物の小さい事 ちょこま参照 (上、阿) [会話] あひた (人は) ちっさいなあ (小さい) 言うの (のを)、チョコマンや (だ) 言うて。なんでも (なにでも) 物な (が) ちっちょおても (小さくても) チョコマンやなあ (だ) 言うて。

ちょこんと【副詞】 小さくかしこまって居る状態を表す語 [会話] チョコント、座つとんない (ている) あや (彼は) あしこん (あすこに) 言うて。あしこん チョコント、立つとて (ていて) びっくりしたよお (驚いた) 言う時も 有るなあ (有ります)。

ちょしもん【名詞】 調子者 ちょおしもんと同じ [会話] チョシモンやなあ (だ) 言うて、じっきん (すぐに) 煽てん乗って ちょいと おかるさんや (だ)。

ちょちぎる ちょん切る [会話] チョチギッタレ (てやれ) 言うて、よお言うけど (よく言います)。チョコチギッタレ言うて 切ったれ (切つてやれ) 言うて。切ったれまあ 言う事言うねけど (言うのですが)、チョコチギル言うね (言うのです)。チョコチギル 一緒やけど (です)、チョコチギル言うにげ (人間) も有るし、ちょんぎる言うにげ (人) も有るし、チョコチギッタレ言うにげ も有るし、やんない (でしょう) そのにげん (人に) よつて、一緒の意味、いくたて (幾通り) も 言うやんかい (言うのです)。

ちょちゅうたび (女中足袋)【名詞】 → じょちゅうたび 女の人の履く大きな足袋

ちょちよぎる 切る ちょぎる参照 (上、阿、熊) [会話] がんど (鋸) で、チョコチヨギッてくれ (下さい) 言うて、がんど で 引き切るけど (が)。

ちょちよぎれる 切れる あふれ出る したたり落ちる 涙なチョコチヨギレル (志 (布施田))

ちょちよらなあがい【形容詞】 細長い [会話] 細長い のおを (のを) チョチヨラナアガイ ねなあ (のだ) 言うて、よお言うなあ。

ちょちよらながい【形容詞】 細長い [会話] チョチヨラ ナンガイ 言うて、せえな なあがい (背が長い) にげなあ (人間です)。ほっそおて (細くて)、ちょんちよる なあごおて 言うて、ちょんちよる なあごおて 陰山の とびきみたよなあ (のようだ) 言うて。

ちょちよろそばえて 惚れた相手の気を引こうとする

ちょっかい【名詞】横合から余計な手出しをする 言い掛り 手出しをして相手になる からかう (多、熊)
[会話] チョッカイかけてまあ言うてなあ、さあ言うて、チョッカイかけて来て言うて、ちょおけてくんのをなあ (ふざけて来るのを)。

ちょっかいかける 1) 悪戯する (志、鳥) 2) 女に手を出す (志 (志島)) [会話] 1) チョッカイカケル言うな (のは) ちょおける (ふざける) 言う事やわい (です)。おまや (お前) おぼ (情婦) 持つとんねなあ (持って居るのですね) とか言うのを、チョッカイカケル言うてなあ (言います)。ちょっからかす (からかう) も一緒や (です)。ちょっからかすも チョッカイカケルも一緒や。

ちょっかかり【名詞】もの事をする最初 とっかかり (阿、張、名)

ちょっかける 1) ひっかける 少しひっかける 簡単にひっかけておく 2) 相手にいどむ [会話] 1) 若い衆や (は) モスの巾広 (巾広の帯) 尻い (へ) チョッカケテ、ひよいとかけとくだけやなあ (掛けておくだけです)。ていねんせんと (丁寧にせずに) ひよいと ふわつとすんの (するのを) チョッカケル。ほんひよいとかけとくだけやなあ。ひよいと こしてな (こうして) ていねん に せんと まあ ひよいと ふわつとすんの (するのを) チョッカケル。

ちょっからかしたよおなもん 1) 少しの物 2) つまらない物、馬鹿にした様な物

ちょっからかす なぶる 弄ぶ 悪ふざける、からかう (志、尾)

ちょっきり【副詞】数量、時刻などが丁度合うさま ぴったり きっかり [会話] チョッキリええなあ (よい)。丁度 おおた (合った) 言う事をなあ。勘定したや (したら) まあ はあなしん (端数なしに)、チョッキリやよお (だよう) 言うて。そして、きれ (布) ときれと合わす 二枚合わすのおも (の) きちっと おおた (合さった) 時に チョッキリおおた言うてなあ (言います)。なんか 寸法な (が) きちっと合うと、まあ チョッキリおおたよお言うて。勘定でも はあなしん (端数なしに) ぴたっとすると きっちりやよって (だから)、チョッキリや (だ) とか言うて。いたちのくっしよめやなあ (くしゃみは)、きちんといたなあ (いった) 言うて。いたちやなあ (は) くっしよめ すると、きちん言うてなあ いたちのくっしよめ (くしゃみ) きちん言うね (言うのです)。

ちょっころこい。ちょっころちよい【副詞】たやすいこと 手軽に ちょっくら (志 (布施田)、上、阿、張、南) [会話] チョッコラチョイトと出来よかれ (出来ません) 言うて。こまかし (細かい) 仕事か、むつかし (難しい) 仕事か、その時ん (に) こやなあ (これは)、落ちついた時やなけな (でなければ)、チョッコラチョイト出来よかれ (出来ません) 言うてな。簡単には出来ん言う事な (です)。チョッコラチョイ言うな (のは)。

ちょっころちよいと 簡単に 手軽に 後に多く否定の言葉が付く、ちょっころこい参照 (熊)

ちょっこり【副詞】小さいさま 少ないさま 小さくこじんまりしているさま (上、阿、張、名) [会話] チョッコリしとんなあ (して居る) 言うて こじんまりしとんと (して居ると) チョッコリとして あやあれ こがしこいよおなあ (賢いようだ) とか ちっこりして ええなあ (いいなあ) とか言うやんかい (言います)。小さいのおを チョッコリして よお (よく) まとまっとるよおな時を言うのなあ (のです)。チョッコリと がいんええなあ (大変よろしい) 言うて。

ちょっころこい【副詞】手軽に 簡単に ちょっころちよいに同じ

ちょっちょし お調子者 差し出口する でしゃばる (志 (布施田)) [会話] チョッチョシねよって (のだから) あの方う (格好) 見よまあ (見なさい) 言うて、なんか 変ったふう すると。そして (そうして) 差し出口したりしても あや (彼は) チョッチョシねよって 差し出口して言うて。人の話を 先、取って言うたりすると、あれも (彼も) チョッチョシねよって (のだから)、あやれ、あの さいそし (えらそうな) 事言うて そいな (そんな) 時も、チョッチョシ言うて。

ちょっと (一寸)【副詞】少し 一寸は一時の省字 (大言海)

ちょっとのあい【名詞】少しの間

ちょっとも【副詞】少しも (志 (志島)、鳥 (鳥羽、桃取、坂手)、桑郡、桑市、員、三、四、鈴郡、鈴市、津、一、松、多、張、名、尾)

ちょっとやそっと 簡単な事 少々 (志 (布施田))

ちょっぺ【名詞】嘲弄 [会話] 人をきよくつとる事を人を チョッペン (に) して言うて。きよくる言うのも チョッペン (に) しとんのおも (しているのも) 一緒やわい (です)。きよくる ひよくる、ちよくる 言うのも有るしなあ、ひよくる言うのも有るし、おん

なし意味やけど（ですが）、言う人ん（に）よってなあ。なんでもよお（何でもよく）知ってて（て居て）人 きょくって言うて、人をなめとる言う事やわい（です）。

ちよっぺくわす 馬鹿にする からかう

ちよびちよび【副詞】少しずつ ちびちび【会話】チヨビチヨビ言うな（のは）、少しづつ言うのなあ（のです）。なんやかや（何か）くれんのも（呉れるのも）チヨビチヨビと まあ きびって（けちけちして）言うてなあ。きびる事なあ（です）、チヨビチヨビ言うて。惜しむ事 きびる言うなあ（言います）。どんと（大量に、一度に）くれやええのん（呉れればよいのに）ちびちび、ちびちびと言うて 惜しんでまあ、言う事やわい（です）。

ちよびっこ。**ちよびつと**【副詞】少し ほんの少し わずか ちびつと参照（志（浜島、鶴方、神明、立神、志島、国府、安乗）、鳥、三、鈴郡、鈴市、安、久、一、松、多、上、阿、張、名、度、北、尾、南、熊）【会話】チヨビット言うてなあ（言います）、チヨビットも言うし、チヨビッコとも言うけどなあ（言います）。チヨビット言うのも 少し言う事やけどなあ（です）。

ちよびつとも【副詞】少しも（鈴市、安）【会話】ちよおいと（少し）言うのをなあ、ちよびつと。チヨビットモ くれやせん言うて。少しも言うのを チヨビットモ言うの（のです）。

ちよびひげ【名詞】鼻下の髭 ちよびひげ参照

ちよびんと【副詞】少し（志（布施田、立神）、鳥（浦村））【会話】チヨビント言うの（のは、ちよいと（少し）の事。鼻糞程でええわい（よろしい）言うて、ちよいと 言うのをなあ、めえくそ（目糞）程でもええわい 言うて、少し下さい言うのをな そげん（そんなに）言うのなあ（です）。

ちよば【名詞】点 しるし ぼち（名、阿、員、上、員）【会話】点や なんや打ってあんのも（有るのも）チヨボ。あれも チヨボやわいなあ（です）。

ちよばぐち【名詞】おちよば口 小さくすばめた口 小さくすぼんだ口 女、子供などの小さく可愛らしい口（張）【会話】オチヨボグチ言うと、口 ちよんがらかしとんのおな（尖らして居るのを）チヨボグチ言うて、口な（が）ちっちゃい（小さい）と チヨボグチしとる（して居る）言うやんかい（言います）。

ちよばちよば【副詞】1）相対するものが同程度の事（志（布施田））2）表面の小さく飛び出した物 ぶ

つぶつ【会話】¹⁾ チヨボチヨボ、やい（おい）あや（あれわ）チヨボチヨボや（だ）言うて。うなじ（同じ）事言うのなあ（のを）あや（彼は）まあ あれ（彼）と チヨボチヨボや（だ）言うのも有るし。²⁾ なんかこお ちよびん（ちよん）としとると（して居ると）ちよばな（が）出て来て言うてなあ ぶつぶつな（が）出来ると、チヨボチヨボな出来とる（て居る）。チヨボチヨボも こさえとけ（作っておけ）とか言うて、ぶつぶつしとるもん（して居る物）を。そしてにげ（人、人間）も あや チヨボチヨボやどお（だ）言うて うなし（同じ）ぐらいやと（だど）あやまあ チヨボチヨボやなあ（だ）言うて、賢こおても（賢くても）あんごし（馬鹿）ても、あやまあ ふたんな（二人が）チヨボチヨボやどお（だ）言うて。

ちよぼつと【副詞】少し（志（神明、国府、立神）、鳥（坂手）、桑郡、員、三、四、鈴市、鈴郡、安、津、一、松、上、阿、張、名、度、伊、北）【会話】膿へし出そ（押し出そう）言うても 出さんで（出なくて）蝮のかあ（皮）を 真ん中い チヨボしたり 重葉のはあ（葉）重ねて。

ちよぼつとも【副詞】少しも（三、鈴市、安）【会話】チヨボットモも ちよびんともも 一緒や（です）。

ちよびひげ【名詞】鼻の下に少し生やした髭 ちよび髭（上、阿）【会話】鼻の下ん（に）ちっちゃあいの（小さいのを）ひつつけとよおった（て居ました）チヨボヒゲを。

ちよらかしたほどけ【形容詞】少し 少しの量

ちよらかしたよおなもん【名詞】少しの物 悪るい物 馬鹿にしたような物。（志）

ちよらかす【他サ五】からかう ちよっからかす参照（志（浜島、布施田、片田、甲賀、鶴方、神明、立神、国府、安乗）、鳥（鳥羽、神島）、員、鈴市、津）【会話】チヨラカス 馬鹿にする。人 ちよらかしたよおな（よおだ）言うてなあ。冷やかせ ちよからせ ほやかせ言うて。

ちよらまかす 他人の目を誤魔かして、物を盗む。かすめとる。冗談やその場逃れの事を言って誤魔かす。女をだまして肉体関係を結ぶ【会話】誤魔かす事なあ（です）チヨラマカス言うのなあ。盗むよおなもんやわい（ものです）。人の知らんあい（知らない間）に誤魔かす言うねよって（言うのだから）人のめえ（目）盗む事やよって（だから）。

ちよろ【名詞】小舟の一種 猪牙船 ちよき参照（志（布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗）、

鳥 (答志、鳥羽)、度、鈴市、津、伊) [会話] チョロ、舟、チョロ言うてなあ、みよしな (舳が) 付いとよおったね (ていたのです)。なあ ごおしとて (長くして) ちっさあい (小さい) 舟でなあ そんげん よけ (そんなに沢山) 乗られやせん (乗れません)、ま 十人かそこより 乗られやせん のな (乗れないのを) チョロ。

ちょろい【形容詞】 1) 弱い 弱々しい (多) 2) のろい にぶい 遅鈍 (員) 3) まどろこしい 4) 簡単 5) 考え方が安易だ 浅薄だ 甘ちょろい 容易だ 取るに足らない おろそかで有る とろい にぶい おそい

ちょろぎ【名詞】 晴衣 晴着 [会話] いっちょろ (一張羅) 言うんなあ (言います) いっちょろぎや (晴着です)、チョロギや (だ) 言うて、こやおんな (此れは俺の) チョロギや どお (だぞ) 言うて。

ちょろくさい【形容詞】 まどろこしい のろい (志 (神明、志島、国府)、松、多、上、阿、北、尾) [会話] チョロクサイ言うな (のは) 言うかい (言いますか)。とろくさい (鈍い) 言うな (のは) 言うやんかい (言います)。とろくさい言うのは のろい言う事や なあ (です) チョロクサイも 一緒や (です)。

ちょろこい【形容詞】 1) 動作が鈍い のろい (志 (布施田、神明、国府)、上、張、阿、北、尾) 2) 容易だ (志、鈴市、安、張) [会話] ② あやまあ (あれわ) ほん (本当に) チョロイ、こやまあ (此れは) チョロコイ事 でや (では) 出来やせんわれ (出来ません) 言うのなあ (言うのです)。簡単にわ 出来やせん (出来ない) 言うて。チョロコイ事 出来よかれなあ (出来ない) 言うてなあ なんやかや (何彼) むつかし (むづかしい) 事したり 多いとさいご (多い時に、仕事の量が多い時) そやまあ (それわ) チョロコイ事 出来やせんわれ 言うて。ナマ チョロイ事 でや (は) 出来やせん 言うて、よお言うなあ (よく言います)。なま迄つけて くんなあ (来ます)、ものすごお むつかし、しにくい (しぬくい) 事 ん (に) なる。こやまあ チョロイ事では はざん (駄目だ)、しっかり やらな (しなければ) せえつけな (力入れなければ) はざん言うて。ナマ チョロコイな (が) 付くんよって (付くから) だいぶ えらいねてや (ずいぶん大変なのです)。

ちょろちょろ【副詞】 1) 小さな物が動きまわるさま 2) 少しの液体が流れるさま。小さな炎があがっているさま 3) 落ち着きのないさま

ちょろちょろそばえて 1) 甘えてまつわりつくさま 2) からかう。いつもまとわりついている [会話] ② チョロチョロソバエテ言うな (のは)、男、女 な (が)、よつとるとこい (集まっている所へ) わがとも (自分も) 行て さえずつてすんのを (喋ってするのを) チョロチョロソバエテ まあ さえずつとられ (喋って居る) 言うて。チョロチョロソバエテ言うて、まじくらかして (冗談を言って) 行て 何んやかや その仲間 ん (に) なって さえずつとると (喋っていると)、あやれ (あれ) チョロチョロソバエテ まあ あれもいとられ (彼も行っている) 言うてな。来いとも言わん のん (のに) わがとも (自分も) そいなどこい (そんな所へ) 行きとおて (行きたくて) 行くのをな チョロチョロソバエテ言う の (のです)。チョロチョロソバエ ン (に) 来て言うてなあ しよしよらかしん (戯れに) 行くのを。① 子供らが まつわりついとて (ていて) ちょろちょろして 邪魔 ん (に) なってまあ、この子 おいてくれ (子守してくれ) 言うて。

ちょろまい【副詞】 子供などがふざげ戯れるさま うろうろと動きまわるさま

ちょろまかす【他サ五】 ちょろまかすに同じ 1) 馬鹿にする ごまかす 2) 人の目をくらまして物を取る 盗む (志 (浜島、布施田)、鳥 (坂手))

ちょんがった 尖った (一) [会話] チョンガッタ 尖った言う の (のを)、尖つとる (ている) 言うのを、ちょぎつとる、ちょがつとる 言う の (のです)。

ちょんがつとる 尖って居る

ちょんがらかす、ちょんがらす【他サ五】 とがらす (一) [会話] 尖らす チョンガラカス言う ね (言うのです)。ちょんがらかしとけ (かしておけ) 言うのはなあ、先を細く せえ (しなさい) 言うのを。

ちょんがる【自ラ五】 とがる [会話] チョンガルは尖る。

ちょんがれ【名詞】 1) とんぼの交尾した状態 雄雌が輪になって居る 平行して居るのはこし、がったい参照 2) 交尾 性交 (志) [会話] ② 胸あけっぱなしで、チョンガレ すんねよって (するのだから)。

ちょんぎった 尖った

ちょんぎつとる 尖って居る ちょんぎる参照 [会話] 突いた や (ら) いとおて (痛くて) 言うてなあ、先 な (が) チョンギツ トンネもんなあ (ているのだから) 言うてなあ。

ちょんぎらかしとけ 尖らしておけ [会話] 杭 打た なはざんけど (なければいけないが)、どんぼん なつ

とるよって (丸くなっているから) 鈍で、チョンギラカシトケ言うてな、鈍で チョンギラカシトカナ、はいつてかせんわれ (ておかなければ入って行きません) 言うて、鋭くする言う事。

ちょんぎらかす、ちょんぎらす 尖らす (志、鳥 (石鏡)) [会話] チョンギラスは尖らす。

ちょんぎる 1) 先がするどくなっている とがる (飯) 2) 切る (志 (鵜方)) [会話] 1) 普通のはぎや (は) 口な (が) そげん長がねえんけど (そんなに長くないが)、うまづらはぎは 口な (が) チョンギツトルもんで (尖っているので) 馬の顔みたよんしとる (のようにしている)。

ちょんぐり 【名詞】 醤油を小さな容器に移すため、片一方に口のついた容器。たまりさし参照

ちょんちょろ 【副詞】 うろうろ ちょろちょろ [会話] チョンチョロ そばえて (甘えて) 起きとる (ている) 時ん (に) 早よ寝よまあ (早く寝なさい)、寝ぎたのおて (いつ迄も起きていて)。

ちょんちょろなあがい。ちょんちょろなんがい 【形容詞】 細長い [会話] せえな (背が) なあがいにげなあ (長い人間です)、おおた ほっそおて (細くて)、チョンチョロナアガイ言うて。細長いのおを (のを) チョンチョロナアガイ言うのなあ (です)。

ちょんちょん 丁度 同じである (南) [会話] チョンチョン言うな (のは) 丁度ええ (よい) 言う事なあ (です)。チョンチョンやなあ (だ) 言うて、うなし (同じ) 事や (だ) 言うて。しなもん (品物) でも、人間でも。あやまあ (あれは) チョンチョンや (だ) 言うて いっかやなあ (一荷だ) 言うたり チョンチョンや (だ) 言うたり (言ったり)。

ちょんちょん 【名詞】 陰部 幼児語 (鳥 (菅島)) [会話] 前のもん (物、陰部) でも、子供ん (に) チョンチョンほして (干して、日に当てる、出て居る状態) そやあれ (それ) 言うやんない (言うでしょう)。男はちんちん言う (言います)。男のこあ (かあに近い発音、子は) ちんちん干して そやあれ (それ) “ちんちん ぶらぶら みつともない (見苦しい) あつかいふんどし (赤い褌) こおたろか (買ってやろうか)” 言うて、男の子にや (は) 言うし、おなご (女) のこらなあ (子供には) チョンチョン干して言うてなあ。

ちょんな 【名詞】 手斧 ちょうな ちょうなの訛 テオノの音便 大工道具の一つ 柄の曲った鍬状の斧、木材を荒削するのに使用 (志 (布施田)、上、阿、張、

名、度、尾) [会話] チョンナ言うな (のは) 大工さんな (が) 正月の二日になると、チョンナはじめ言うて、今しや (今は) 機械でするよって (するから) チョンナ使わせんね (使わないのです)。昔や (は) チョンナで みなしよおったのんなあ (全部して居たのに)。昔や (は) チョンナで ちょんぎりおったけど なあ (居たが)。おおた (あゝ) 足 つついたらせん ねかいなあ (突ついてやらないのか) おもてなあ (思つて) 大工な (が) チョンナ つことと (使つて居ると) 柄が曲つとんで (て居るので) こつくと (突つくと) 足 つついたらせんねかいなあ 思いおった なあ (居ました)。

ちょんなくび 【名詞】 植物の穂が稔つてたれ吊がつた状態 [会話] しんがつ (四月) の落穂言う、しんがつ ん なんと 麦な (が) あかるんで (稔つて) チョンナクビン (に) なつてくと (なつていくと)、ちょいと (少し) 風な (が) 吹くと 穂な (が) 落ちんねて や (落ちるのです)。そやもんで (それで) しんがつ の 落穂言うて。チョンナクビ言うて、あかるで (成熟して) 曲つて ちょんな (手斧) みたよん (のように) 穂な (が) 下向いて下つて、あからみ過ぎてく (て行くと)、麦な (が) あかるで チョンナクビや (だ) 言うの (のです)。丁度 ちょんな みたよん (のように) 形な (が) なつてくね (なつて行くのです)、そすとまあ (そおすると) 日な (が) 照つて来て はつしやぐ (乾く) と、なでると (さわると) 穂な (が) 曲つとるところから (て居る所から) 皆 へしよれてくんやんかな (折れて行くのです)。チョンナクビン (に) なつて (て居て) 言うて、気なもめて (気がせわしくて) 刈るよん (ように) なんと 雨な (が) 降つたら こやまあ (此れは) ひまのかあや (大変だ) 言うて きいもおで (いらいらして・気を揉んで) かんの (刈るのです) チョンナクビンなつて くと (なつて行くと)。稲はあげん (あんなに) ならせんけど (ならないが) 麦はあからむと ちょんなみたよん 曲つて 下向いて下がんねてや (下るので)。

ちょんなはじめ 【名詞】 正月二日大工が手斧と祝い膳を供えて祝う行事 (桑、南) [会話] 正月の二日に、チョンナハジメ言うて ちょいと (少し) つついて見て、みてびき (三皿 祝い物三種) こしやえて (作つて) 刺身と、なますと、煮付けと まな板の上に乗せて御神酒頂いてしいおったの (して居たのです)。まな板の上へ ちょんなと、指し金と、鉋と、墨壺乗せて

みてびきこさえて（作って）御神酒まつて。みてびき言うのは なますに、刺身と それから煮付けとなあ みてびきこさえて せんまい（洗米）つける。それを 床の間でしよおった（して居たのです）。

ちよんにする 終りにする 仕事などをやめる ちよんは事の終るを言う。芝居の幕切れの相図に拍子木をチョンと打ったのに始まった事（大言海）[会話] 終いにする。チョンニスル。チョンニスル言うねやんかい（言うのです）終いにする言うな（のは）、こんで（此で）チョンニシヨオヤ（しましう）言うてな。

ちよんの【名詞】 ちよんなに同じ。鉦てをの、関東にて、てうな、大阪にて、ちよんのと云う（物類称呼）（志（鶴方、神明、立神、志島、国府、安乗）、桑市、員、三、四、鈴市、安、一、上、阿、張、名）

ちよんのる 調子にのる ふざける [会話] チョンノッてまあ 喋っとんね（ているのだ）。おせてくれ（教えて下さい）言うと それい乗って 喋って言うて。

ちよんぼりぐち【名詞】 口を小さくして居る事 [会話] ちつちよお（小さく）口すぼげてなあ（すぼめて）、チョンボリグチしてまあ言うて。

ちらかす【散】【他サ五】 散らす 物をあちこちに乱雑に広げる（志（鶴方）、鳥）[会話] 広げさがす、なんやかや（何彼）散らばしとんのおを（て居るのを）、よけ（あまり）チラカスなまあとか ちらばしとんなあ（て居る）とか言うて、広げさがしとんのおを（ているのを）なんやかや チラカシてまあ言うてなあ（言います）。そこらじゅう、広げさがして言うのを、そこらじゅう（その辺一帯）一杯ん（に）する言う事を ひろげとる（て居る）ひろげさがして言うの（言うのです）。さがす言うな（のは）怒りがす、広げさがすとか 汚れさがすとか さがしは よけ（沢山）使うなあ、付け言葉の。

ちらかる【散】【自ラ五】 散乱する 物があちこちに乱雑に広がる [会話] 其処ら、散らかしとる（かしている）事を、なんやかや（いろいろ）置きさがしとる（ている）となあ、ちらかして言うてなあ。チラカル言うのは 散らかつとる（ている）汚しとる（ている）ひろげさがしとる（ている）言うのをな。

ちらけがす 物を散乱させる 散らかす

ちらけとる 散乱させて居る 散らして居る

ちらける【自カ下一】 散乱させる（鈴市、安、一、阿、上）[会話] 自分が ひろげる事を ひろげさがしとる（ている）言うのを チラケル。

ちらし【名詞】 広告紙 新聞などへの折込み広告 次項 ちらし参照

ちらし【名詞】 ちらし寿司（張、名、南）[会話] 寿司のチラシ、チラシも有るし。宣伝するあれも チラシや（だ）言うしなあ（言います）。チラシな（が）入ととる（て居る）、あやまあ（あれは）宣伝の、今しの（今の）言葉や（です）。昔のチラシは、寿司のチラシ、チラシズシ言うて すもじの事を言うんなあ（言います）。

ちらす 散乱させる

ちらす【散】【他サ五】 化膿したところを手術などしないで治す [会話] チラス言うな（のは）、できもん（出来物）チラス言うのも有るしなあ。できもんなもつたててくんの（もり上って来るのを）、注射でチラシトケ（ておけ）言うて、薬でチラシテもろた（貰らった）切らんと（ずに）言うて。

ちらつく【自カ五】 1）小さな物が細かく揺れ動きながら落ちる 2）光が目に入ったり消えたりする（志（布施田）、南）[会話] 2）めええ（目に）、チラツク。ちらちらとまあ ちらついとられ、チラツイテめえやせんわれ（見えません）言うてな。1）子供らななあ、仕事しとる（している）前を あつちやい（あちらへ）行き こつちやい（こちらへ）行きすんのも（するのも）よけ（あまり）チラツクなまあ、仕事な（が）出来やへんない（出来ない）言うてなあ。

ちらっと【副詞】 瞬間的に 少しの間 ちらとの促音化（志（布施田））

ちらっともしやせん。ちらともしやせん 全く来ない

ちらばかしとる 広げて居る 乱雑にして居る [会話] なんやかや（いろいろ）広げさがして言うてなあ、チラバカシトル事なあ チラバカシトテ（ていて）片付けまあ（なさい）言うて。

ちらばかす 物を散らす 乱雑に広げる（志（浜島））[会話] そこら（附近）ちらかしても（乱雑にしても）、ちらばして言うて。チラバカス言うな（のは）なんもかも（なにもかも）皆 其処らのもん（物）出して来てなあ、広げとんのをなあ（ているのを）、チラバカシテ、のらまあ（お前達）言うてな。チラバカスも、ひろげさがすも一緒の事。

ちらばす【他サ五】 乱雑に広げる [会話] 広げさがしとる（ている）言う事を、チラバス言うの（のです）。チラバカスも一緒の事や（です）。チラバシテ まあそこらじゅう広げて おれげや（俺の家は）子ららな（が）よけ（沢山）有って言うてなあ。

ちらばる【自ラ五】散乱して居る

ちらんちん【形容詞】泥酔し前後不覚の状態

ちり【名詞】舟の艫の部分(度、鳥、北) [会話] チリ
言う と 艫に 梶 差すとこな (所が) 有るやんない
(有るでしょう) あしこを (あすこを) 艫のチリや
(だ) 言うね (言うのです)。

ちりちり【形容詞】1) 魚が新しく肉が縮れて居る状態 (南、熊) 2) すべてに縮れている状態

ちりちり。ちりぢり。ちりちりばらばら【形容詞】 散
り乱ればらばらになるさま (志 (布施田)、南) [会
話] チリチリバラバラでああ。あの家や (は) 兄弟
中な (が) 言うてな。チリチリも、ばらばらも一緒に
の事やけど (だが)、チリチリバラバラ言うて。あの家
やまあ、チリチリバラバラやてわれ (だそうだ) 言う
て、喧嘩して みんなな (皆が) 別れ 別れん (に)
なつてくとなあ (なつて行くと)。

ちりはらい (ちりはらひ)【名詞】塵拂 はたき (志
(鶴方、浜島、畔名、船越)、桑郡、上、阿、南) [会
話] サンバライの事 チリハライ言う。

ちりめんじゃこ【名詞】小さな魚を茹でて干したもの
[会話] こまかい (小さい) じゃこ チリメンヂャ
コ、ちっちゃあい (小さい) ま、ほん (本当に) 針み
たよんなあ (のように) 乾くと しとるやんかい (し
ているで有りませんか)。あいなのな (あんなのが)
よお (よく) おとっしや乗った事やなあ (だ)。蚊帳
のなあ こまかいのおで (小さいので) とんねやん
かい (獲るのです)。

ちりんちりん【名詞】自転車 幼児語

ちる (散)【自ラ五】1) 化膿したものが切らずに治お
る 2) 消失する 3) 散会して人が居なくなる
[会話] 1) いぬごと (ソケイ部) の 淋巴腺な
(が) はれて来ると むに膏 (膏薬) 貼つてすると、
チル (消失する) のも有るし、散らんと (散らずに)
膿んでくんのも有るし (来るのも有ります)。

ちろちろ【名詞】夕方の薄明り (志 (布施田)、北) [会
話] チロチロ迄 かかった言うて、夕方ん (に) 日
な (が) くらがり (暗く) なつて来て、あかり (明る
い時と) くらがりとの境の時を チロチロ言うのなあ
(のです)。チロチロ迄 かかったよお (かかりまし
た) 言うてなあ、夕方ん (に) おっそお (おそく) 迄
かかる (と) (仕事していると) おおた (あゝ) こや (此
れは) チロチロん (に) なつて来たない (来ました)
言うて うすくろなりん (薄暗がりに) なつて来ると。
朝は言わせんなあ (言いません) 夕方の事 チロチロ。

朝はしらしらと言うけど、朝 東じらみとか、しらし
らして来たなあ言うて。夕方んのおを (のを) 夕方
うすくろお (薄暗く) なつて来たのを チロチロや
(と) 言う (言います)。日な (が) 落ちてく (て行
く) 時ん (に) くらがりて (暗くて) 人の顔もよけ
(十分に) 判らんよん (ように) なつて来るやんない
(でしょう)。その時を チロチロや (と) 言うの
(のです)。チロチロん (に) なつて来たない (来ま
した) 早よおかな (早く終らなければ) 言うて。

ちろちろまいまい まつわりつく 周辺をうろつく

ちろつく【自カ五】1) ちらちらする (鈴市、津) 2)
夕方薄暗くなる [会話] 2) ちろちろ言うて、日な
(が) 暮れてく (て行く) 時ん (に) ちろちろん
(に) なる迄 仕事して言うて。日没ん (に) なつて
薄ぐろおなんのを (暗くなるのを) チロツク言うてな。
伊勢い (へ) 行くのん (に) こんで (漕いで) 鶴方い
(へ) 降してもろて (貰らつて) それから 荷物かず
いて (担つて) 逢坂道、歩いて行くと 秋は日な短か
いやんな (でしょう) そやもんで (それで) 古市い
(に) 入いると まあ ほん (本当に) チロツイテ
来んね (来るのです)。

ちろまい うろろうとうろつく事 [会話] うろろうし
とんのをなあ (しているのを)、よけ (あまり) チロ
マイ チロマイとなあ言うて 子ららを わるう (叱
る) 時んなあ (に)。

ちわずらい【名詞】婦人の病氣 血の道 産褥 月経
更年期などに頭痛、のぼせ めまい 発汗などの症状
を示す状態 ちのみち 参照 (志 (布施田)) [会話]
こお (子) 墮すのん (のに)、しくじつたて (失敗し
て)、チワズライみたよんしとんと (のようにしてい
ると)、こさえやまい (作り病氣) で あげん (あんな
に) なつた。

ちわた【名詞】血の凝固したもの (志 (布施田、立神、
志島、甲賀)) [会話] とんとめ (結膜炎)、目な
(が) ころころして、朝ん (に) になると チワタな
(が) ふいたよおんしとんの (ようにしています) 真
つ赤ん (に) なつて。

ちわる【他ラ五】分配する (志 (布施田、立神、志島、
甲賀)、鳥) [会話] 分ける事。みんな (皆に) ち
よぼちよぼと 分けるやんない (でしょう)。みんな
ん チワツテ 持たしたれ (てやれ) 言うてなあ。分
ける事を チワル言うの (のです)。少のおても (少
なくても) おいしいも (多くても) 分けんのおを (分
けるのを) チワル言うのなあ (のです)。

ちん(賃)【名詞】 1) 賃 人や物を使用した時その代償として支拂った金銭 使用料 働いて得る報酬 駄賃(志(布施田)、南、尾) 2) 小遣い銭(上、阿、南) 3) 金銭(小額) [会話] ③ お金の事を チンや(と)言う。① そや(それ) チンもろたか(貰ったか)言うて。ちっさい(小さい) 時ん(に) お金貰うと チンもろた(貰った)言うて 喜びおった(喜んで居た)。① 駄賃言うのも有るしなあ(有ります)。駄賃 貰う時でも チンもろた(貰った)言うし、まあ仕事して 肩たたいたた(たたいてやった)とか お使い行て来て(行て来て) 貰う時にも チン貰う言うし。チンかくわ(出します)言うて、チンかく言うし お金貰う時は チンもろた 言うしなあ(言います)。なんやかやしたて(何彼してやって) 御札に貰う、褒美に貰う時は チンもろた 言うしなあ、チン かいてもろた(駄賃を出して貰った)言うて、チンかくよって(出すから) 行て来て呉れ言うて。そすと(すると) お金貰うたり、品もん(物) もろたり それは チン言うしなあ(言います)。なんか やるよって(から) 行て来てくれ言うやんない(でしょう)、そすと チンかくよってん(出すから) 行て来てくれ言うて お金やなしん(でなくて) 物でも チンかく、チンや言うて そや(それ) チンやどお(だ) 言うてなあ(言います)。お金の事は チン言うねやんかい(言うのです)。チン言うのと チン言うのと お金貰う時は チンもろた(貰った)言うし 御札の時は チンもろた 言う(言います)。発音な(が) 違うのなあ(のです)。

ちんかく 代金を支拂う 金を出す [会話] 仕事してもらうと チンカクわ言うてなあ。子供らを用事ん(に) 使こて(使つて) チンカクよって(から) 言うて、菓子やどけ(など) やつてなあ、ただでは 子供ら ま 機嫌な(が) わりやんない(悪いでしょう)、そやよって(それだから) たま(飴玉)の一つでもやると嬉んで。

ちんがし(賃貸)【名詞】 代金を取って物を貸す事

ちんかせぎ(賃稼)【名詞】 賃銀を受けとる目的で仕事をする事 [会話] チンカセギ言うの、ちゃやまや(茶畑とか) 秋いいて(秋の収穫の手伝いに行つて) ひよ(日当) 貰うてくんの(来るのを)。一日ん(に) 十六銭もろて(貰らつて) 尻から けぶりな(煙が) 出る程 使かわれて。

ちんがり(賃借)【名詞】 1) 金を出して物を借りること 2) 前借 [会話] ② 先借りすんのなあ(するの

です) チンガリ。働かんうちに(前に) ぜんもろて(銭貰らつて) 先借り言うてなあ ① チンガリして、ぜん(銭) 出して 貸してもろて(貰らつて)、鍼でも鎌でも、貸してくれ(下さい) 言うて、ぜん(銭) 出して言うて。

ちんこ【名詞】 1) 背の低い人(志(浜島、神明、志島)、鳥(鳥羽)、鈴市、阿、張、名、度、伊) 2) 陰茎 小児の男性器(志(御座、浜島、布施田)、上、阿) [会話] ① チンコ、チンコ言うな(のは) せえ(背丈、身長)の短かい人。あや(彼は) チンコやなあ(だ) 言うて。② チンコ言うて 男の棒 ちんぼ、ちんぼとか チンコも言うなあ(言います)。チンコ言う人も有るなあ、チンコ言うて 子供らに言う時やなあ(は) そや(それ) チンコ ほして(干して、出して) 言うしなあ(言います)。

ちんこい【形容詞】 小さい 背が低い(志(志島、甲賀、国府、安乗)、鳥(相差、張)

ちんころ【名詞】 背の低い人(南) [会話] チンコロやなあ(だ) あのひた(人は)、ちっちゃあい(小さい) 人を チンコロや(だ) 言よおったね(言つて居たのです)。

ちんしごと(賃仕事)【名詞】 手内職 家庭に居て賃銭を取ってする仕事(南) [会話] 一日 十六銭もろて(貰らつて) チンシゴト。

ちんする 正座する 座る [会話] 座る言う事をな。其処い(へ) チンシトレよお(していなさい) 言うて 座つとれよお(ておれ) 言うのを。

ちんせえ 座れ 正座しなさい [会話] 其処い(へ) 座れ言うのをな、其処い(へ) チンセエまあ言うてな。

ちんた【名詞】 男児の性器 [会話] 男のもん(物)は、ちんこと、ちんぼとそんだけやなあ(それだけです)。チンタ、そや(それ) チンタ干しとる(下着をつけて居ない、日に当てて居る)言うのも、言いおった(言つて居た)、のお(お前の) チンタ見よまあ(見よ) 言いおった。

ちんたら。ちんたらちんたら【副詞】 不揃いのさま(志(布施田)) [会話] チンタラチンタラ言うな(のは) かたちん(不揃い) にしとるとなあ(して居ると) チンタラチンタラやなあ(だ) 言うけどなあ(言います)。 合わせんのおを(合わないのを) ちんばかたんなつとんのおを(傾いて居るのを) チンタラチンタラや(と) 言う人も有るし(有ります)。

ちんちくりん【名詞】【形容詞】 1) 背の低いさま又その人を嘲けて言う 2) 着物などの丈が短かくて体

に合わない事、又そのさま (志 (浜島)) [会話] 2) チンチクリン言うと、きもん (着物) をみじこお (短かく) 着とると (て居ると) あや (あれ) チンチクリンに着て言うわい (言います)。1) めえ (若布) かずきんいても (獲りに行っても) 短かあい、瀬の峠 (頂き) に有ると おおた 瀬の峠の チンチクリンみたよな (のような) めえばっかや (ばかりだ) 言うて よお言う (よく言います)。ちっちゃいのおを (小さいのを)、短かい事を チンチクリンや (と) 言うて。せえ (背丈、身長) がひっくうても (低くても) あのひた (人は) チンチクリンや (だ) 言うて、小人言う時もあるし。チンチクリンやなあ (だ) 言う人も有るしなあ (有ります)。着物のたけ (丈) が 短こおても (かくても) きもんな (着物が) チンチクリンで みとみないなあ (見苦しい) 言うて、チンチクリンに着て あやあれ言うて。

ちんちよ【名詞】 樽など重い物を担う時、それにかける金属性の爪 (鈴手)

ちんちよ【形容詞】 大切 珍重 ちんちようの末尾母音の省略

ちんちろ【形容詞】 火傷の後、虫刺れなどの後の水膨れ

ちんちろりん【名詞】【形容詞】 1) さいころ賭博の一種 茶碗に投げ入れた二〜数ヶのさいころの目の出方で勝負する 2) こおろぎ (志 (布施田、神明、鶴方、国府)) 3) 水ぶくれになる事又その状態 4) かつをのえぼし (くらげの一種) [会話] 2) チンチロチンでやしんぜましよ。3) チンチロリン 膨れとんのおを (て居るのを) 水膨れみたよんなあ (のように) なつとると (て居ると) やけずったら (火傷したら) チンチロリンな (が) 出来た言うて、膨れて来ると チンチロリンや (と) 言うて 水膨れる事なあ (です)。4) 浜い (へ) 行くと チンチロリンな (が) よおよつとるやんかい (沢山寄って居ます) あや (あれは) とおちんこ (鯉の烏帽子)、あれも チンチロリンになつとんねてや (なつて居ます) だんぶくるな (袋が)。五月のはえ (梅雨) になると とおちんこな 寄って くんの (来るのです)、そすと (そうすると) その糸かぶつたると (てやると) いらいらして やめてえらいの (痛くて大変なのです)。糸 引つ張つとんねてや (て居るのです)。そして (そして) 糸な (が) 乾くと こんだ (今度は) 喉い (へ) 入って くつしよめな (くしゃみが) 出て 咳な出でなつとしよおねえね (なんともしかたが無いのです) それ ひっこんだたら (引き込んでしまったら)。

ちんちろりんにはれる 水ぶくれになる [会話] 水膨れる事をなあ、ちんちろりん言うのなあ (です)。水膨れて来るやんない (でしょう)、チンチロリンニハレル、やけずって (火傷して) 言うてなあ。ふくれて くんのなあ (来るのです)、めえ (若布) をなあ てえ (手) で、よつたるとなあ (揉んでやると) ふたあつんなんね (二つになるのです) それい (に) 石のすべすべの (滑らかな) ちっちゃあいの (小さいのを) 入れて押して ふたあつしたんね (二つにしてやるのです)、そして ふつと吹くと そんなふくれんねてや (それがふくれるのです) それを、チンチロリンや (だ) 言よおったなあ (言っていました)。

ちんちん【名詞】 1) 男児の外陰部 (志 (越賀、布施田、甲賀、国府、鶴方、神明、立神、志島、安乗)、鳥 (鳥羽)) 2) 念佛、念佛の叩き鉦 (度) 3) 自転車幼児語 (阿、張)

ちんちん【副詞】 1) 湯の煮えたぎっている状態 2) 正座 3) きちっと

ちんちんかかも。ちんちんころころ。ちんちんころり 男女の仲が極めてむつまじい事 [会話] 仲よしで ふたんな (二人が) 年中一緒 (に) チンチンカモカモしとる (している)。ふたんな仲好しで ほちゃほちゃしとると (していると) チンチンカモカモ やてやら チンチンコロリや (だ) 言うて。

ちんちんずみ【名詞】 火がつくとちんちんと鳴る炭 堅い炭 [会話] チンチンス言うのも あよおったやんかい (有ったではありませんか)。いまめか 樫か いまめのおも (のも) ものすごお かたいんよって (堅いのだから)。

ちんちんどり【名詞】 1) 浜千鳥 せきれい (志、度) 2) 衣服の裾が短かく寒そうなさま [会話] 1) チンチンドリな (が) 浜通れ。浜 通つとるやんかな (て居ます)。チンチンドリ言うて 尻 振って きゅつきゅつと 尻 振って 浜の裾ん (波打ち際に)。尻振つとると (て居ると) チンチンドリみたよんなあ (のようだ) 言うて。“チンチンドリな、浜通る、沖え見えるわ 親船か金襴緞子の帆まいて いかしやれ いかしやれ ずうずうと” 言うて。昔や (は) そんな歌 歌いおった (歌っていました)。ちっちゃおておって (小さいのに) 尾 振って 浜の裾を (波打ちぎわ) ひよいひよいしとんの (して居るのを) チンチンドリや (だ) 言うて。2) きもん (着物) の裾な短こおて (かくて) 寒ぶそおな (寒むそうな) 格好しとると (して居ると) チンチンドリみたよんなあ (のよう

だ) 言うわい (言います)。短じこお (かく) しとるとなあ チンチンドリみたよん (のように) して あやあれ言うて。

ちんちんもおす (ちんちんもうす、まうす) 念佛を唱える

ちんづき (賃揃) 【名詞】 労賃を取って餅、又は米などを搗く事 [会話] チンツキ してもろて (貰らうて) 言うて、米やなあ (とか) 麦をなあ 搗屋い (へ) もててなあ (持って行って)、搗いてもらよおったの (貰らって居たのです)。そして 搗屋い もてかん (持って行かない) 家や (は) 麦搗きの○小父言うて ○小父に搗いてもらよおったの (もらったのです) 唐臼で。

ちんと 【副詞】 とりすましてじつと座って居るさま きちんと整って居るさま ちゃんと (志 (神明、立神、甲賀、国府)、鳥、上、阿) [会話] チント座れ (正座しなさい)、チントしとれまあ (して居なさい) もしょもしよせんと (せずに) 言う時も有るし (有ります)。チント座る言うな (のは) 正座する事なし (です) チント座れ言うて わるわれよおったの (叱られて居たのです)。きちんとしとる時や (は)、きちんとして 真面目くさつとられ (て居る) 真面目くさつて、チントしとられ (している)。

ちんとする きちんと始末する (志 (甲賀))

ちんとすわる 正座する (亀、伊) [会話] ちんと座れ 言うて チントスワル言うて 正座すんのを (するのを)。

ちんとすわれ 正座をしなさい

ちんとむかう 正座する [会話] チントムカウ、むことれ (ておれ) 言うて、今しは (今は) 座る言うけど (が) 昔や (は) むことれ言うて。

ちんとむかえ 正座しなさい

ぢんとり 【名詞】 → じんとり。

ちんば (跛) 【名詞】 1) 一方の足に障害が有り普通の歩行が出来ない事又その人 (志 (鶴方)) 2) 対で有るべき物が形や大きさが不揃いで有る事。 (志 (鶴方))

ちんばいとこ (跛従兄弟) 【名詞】 自分と従兄弟の子との間柄 (志 (布施田、鶴方、神明、立神、志島、国府)、員、一、久、阿、張、名、北、南、熊) [会話] 従兄弟の又その従兄弟の子供。

ちんばかた 【名詞】 喰い違って居る事 段違い 不揃いになって居ること だんち参照 [会話] チンバカタ (跛肩) 言うの (のは) 揃わせんの (揃わないのを)

一つは 短いし 一つは たっかいし (高いし)、それ 跛な (が) やんない (でしょう) 足の短い方は跛引いて 足の長い方は 普通に歩くけど それを真似て チンバカタ言うんやろなあ (言うのでしょうか)。揃わせんのを (揃わないのを) チンバカタ言うのなあ (のです)。短いのおと (のと) なんがい (長い) のおをなあ (のを) チンバカタ言うて。ちんばやなあ (だ) チンバカタやなあ 言うて、そして 跛な (の) 人 見ると、いっぽはんや (と) 言うね (言うのです)。足な (が) いっぽ (一本) と はんぶ (半分) の事。一つは なんがい (長い) 一つは 短いやんな (でしょう)。あや (彼は) いっぽはんで ひよいひよい言うて歌な (が) 流行りおったんなあ (流行って居ました)。

ちんびら 【名詞】 1) 鯉の小さいもの 2) 一般に小さいものを示す

ちんびり 【名詞】 けちん坊 欲の深い人 (志 (布施田、志島、甲賀)、鳥 (鳥羽、長岡)、津、度、伊) [会話] 欲な人を、チンビリや (と) 言うてなあ。あや (彼は) チンビリやよってん (だから) 言うて 此れやよってん (だから) 言うて、爪きって ものすごい (大変) 欲な人を チンビリ。

ちんびん (陳皮) 【名詞】 香料 蜜柑の皮を干して刻み粉にしたもの こおとお参照 ちんびの訛 [会話] 蜜柑を刻むと おつけ (味噌汁) え チンピンと来たなあ言うて、匂な (が) ふうんとしてくんね (して来るのです)。

ちんぷらかん 【名詞】 言う事の意味不明 (志 (布施田))

ちんぷらりん 【名詞】 男子が下ばきを付けけない事 ちんぷらりの意 [会話] 禪 かかんと (せずに) チンブラリンで歩いとる (て居る)。国を出る時、禪忘れ長の道中 ぶらぶらと言うやんかい (言います)。昔の人ら そげんしとたね (そんなにして居たのです)、腰巻き一つ着て。

ちんば 【名詞】 1) 男性外陰部体表に表れた生殖器で陰茎と陰囊よりなる狭義では陰茎のみを指す事も有る。珍宝 (志摩市全域、鳥、桑市、員、津、松、上、阿、張、名、伊、北、尾、南) 2) 小さな突起物 [会話] 1) 男の道具や (です) 一の道具や。子供んなあ (のは) ちんちん言うて やさしけど (やさしいが)、チンボ言うと おとし (怖い) おっちゃくななあ (横着です)。

ちんばあま 【名詞】 男のように気性が激しく、又、その

ような行動をする女性 おとこあま参照 [会話] チンボアマ、おとこあま言うて 男さんみたいん (男のように) しとると (して居ると)。

ちんばきいにする 陰茎を固くする 勃起させる しゃんこだち参照 [会話] なんやかや 見物しとると (していると)、好きな おなご (女) の子な (が) おると (居ると) 後ろから しゃんこだちのちんば (陰茎) 突いて言うて チンボキイニシテ。

ちんぼこ【名詞】陰茎 (鳥、桑市、上、阿) [会話] チンボコ、男の道具、ちんぼ、一の道具。

ちんぼのこやし【名詞】 1) 單に性交渉を持つだけ 売春行為 (志 (布施田)) 2) 多情な女性

ちんまい【形容詞】小さい (志、鳥) [会話] ちっさい事 チンマイねなあ (のだ) 言うて。

ちんまり【副詞】小さく整って居る (津、上、阿、張) [会話] チンマリしとるとええんけど (しているとよいのだが)、あけだした (しまりがいい) よおんしと (にしていると) だあやなあ (だめだ)。

ちんまるくたい 小さくて丸い

ちんむるい (珍無類)【名詞】【形容詞】他に例のない程 珍妙なこと 非常に珍しいこと又そのさま

ちんむるいここんとっぴん【名詞】【形容詞】珍無類古今特品 古代より現代まで数の無い程珍しい物 [会話] チンムルイ ココントッピン言うてなあ、ちん、珍しい、数の無いもん 言う事や。

ちんりんけ【名詞】じゃんけん (志 (甲賀)、一、飯、松、多)